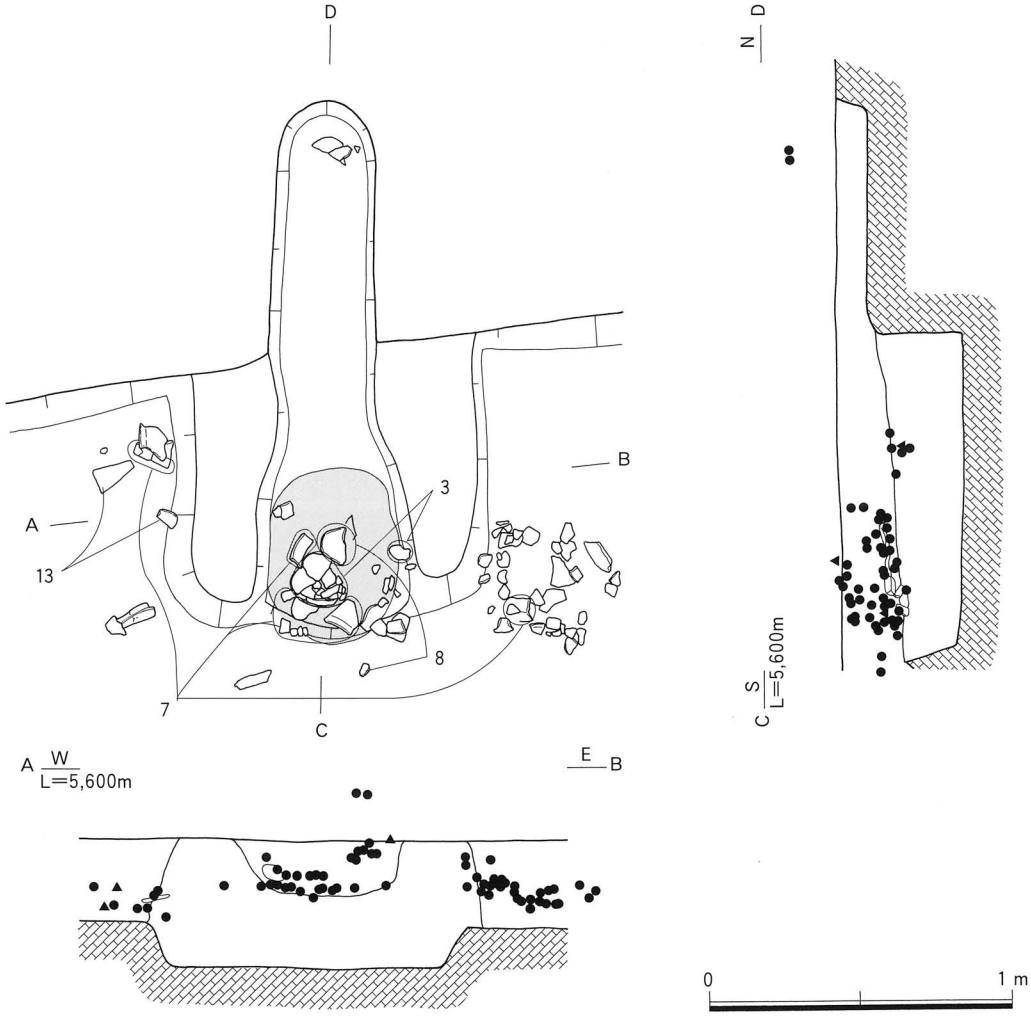


第383図　SB3019・EH1 遺物出土状況図

竈　北壁やや東寄りから１基検出された。土師器の椀を伏せるようにして支脚に利用している。袖部および燃焼部、煙道部が検出され、焚き口から燃焼部にかけて焼土の拡がりが確認された。下部構造は隅丸長方形の土坑を掘削しており、長軸1.10m、短軸1.07m、深度0.16mを測る。

遺物出土状況　竈内および周辺部、床面の東半部を中心として検出されている。また一部に検出面上からも遺物は出土した。

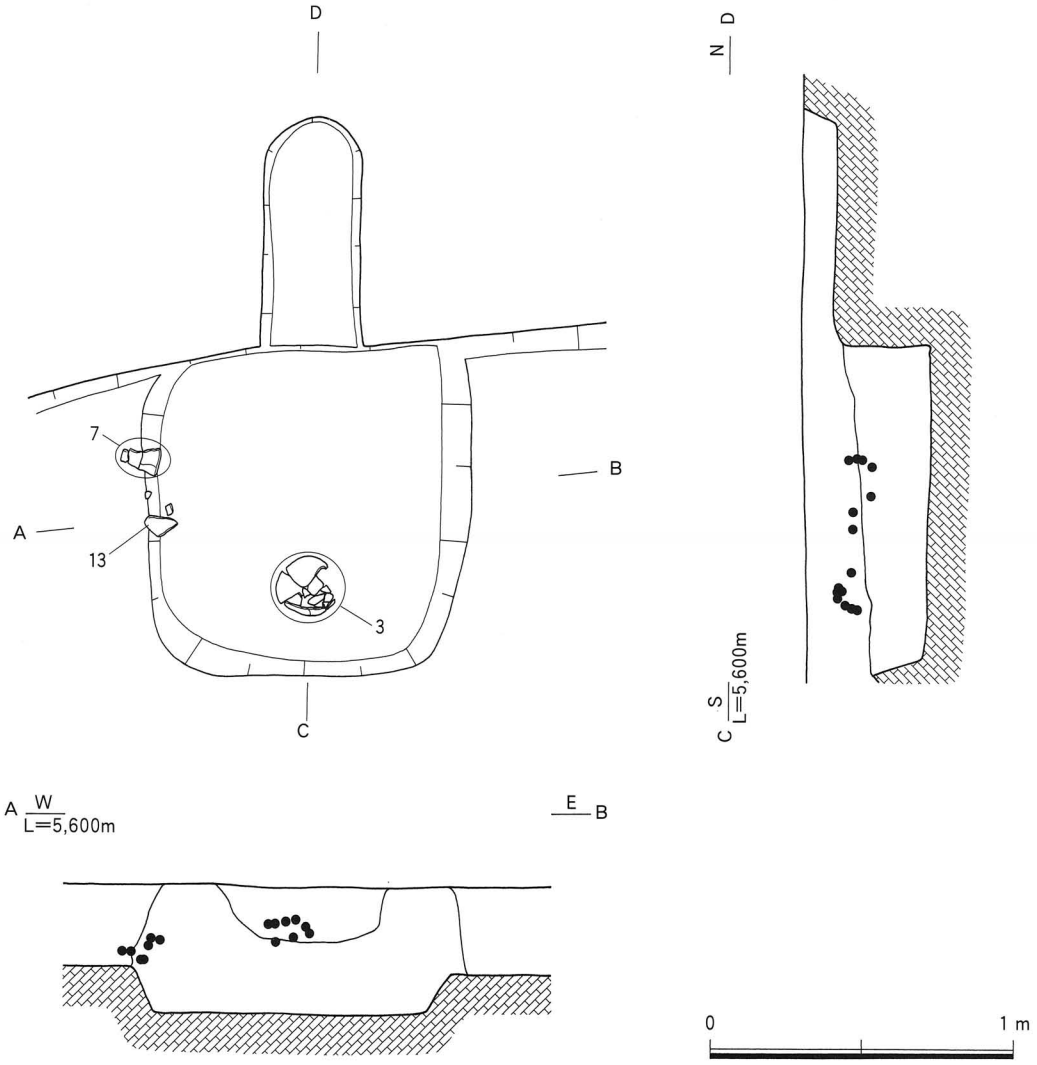
出土遺物　１は須恵器の杯蓋である。２は土師器の杯である。３は土師器の椀である。４～10は土師器の甕である。11～13は土師器の甑である。14は検出面上面から出土した須恵器の杯である。15は泥岩製の砥石である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。

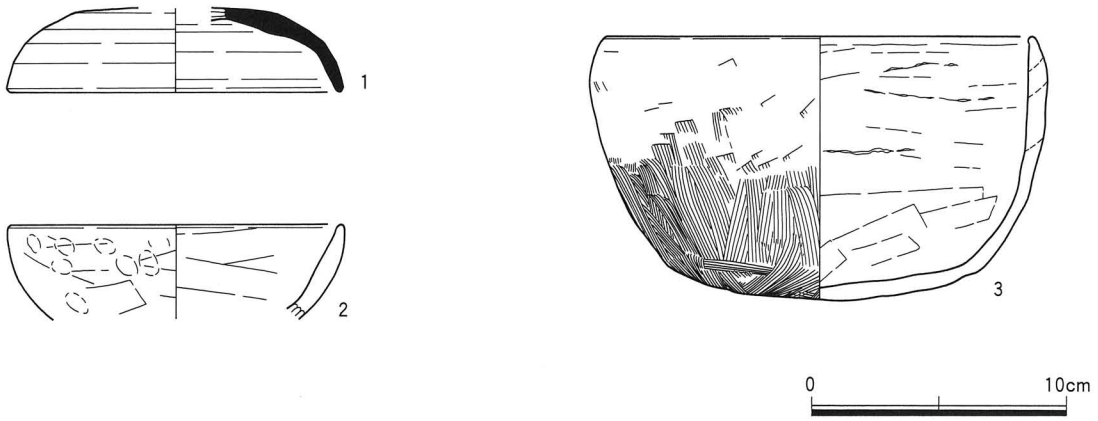
20号竪穴住居跡（SB3020）（第389～395図）

検出場所　1999年度調査４区　Loc.G１・βⅢ・F５・６・G５・６・H５・６グリッド

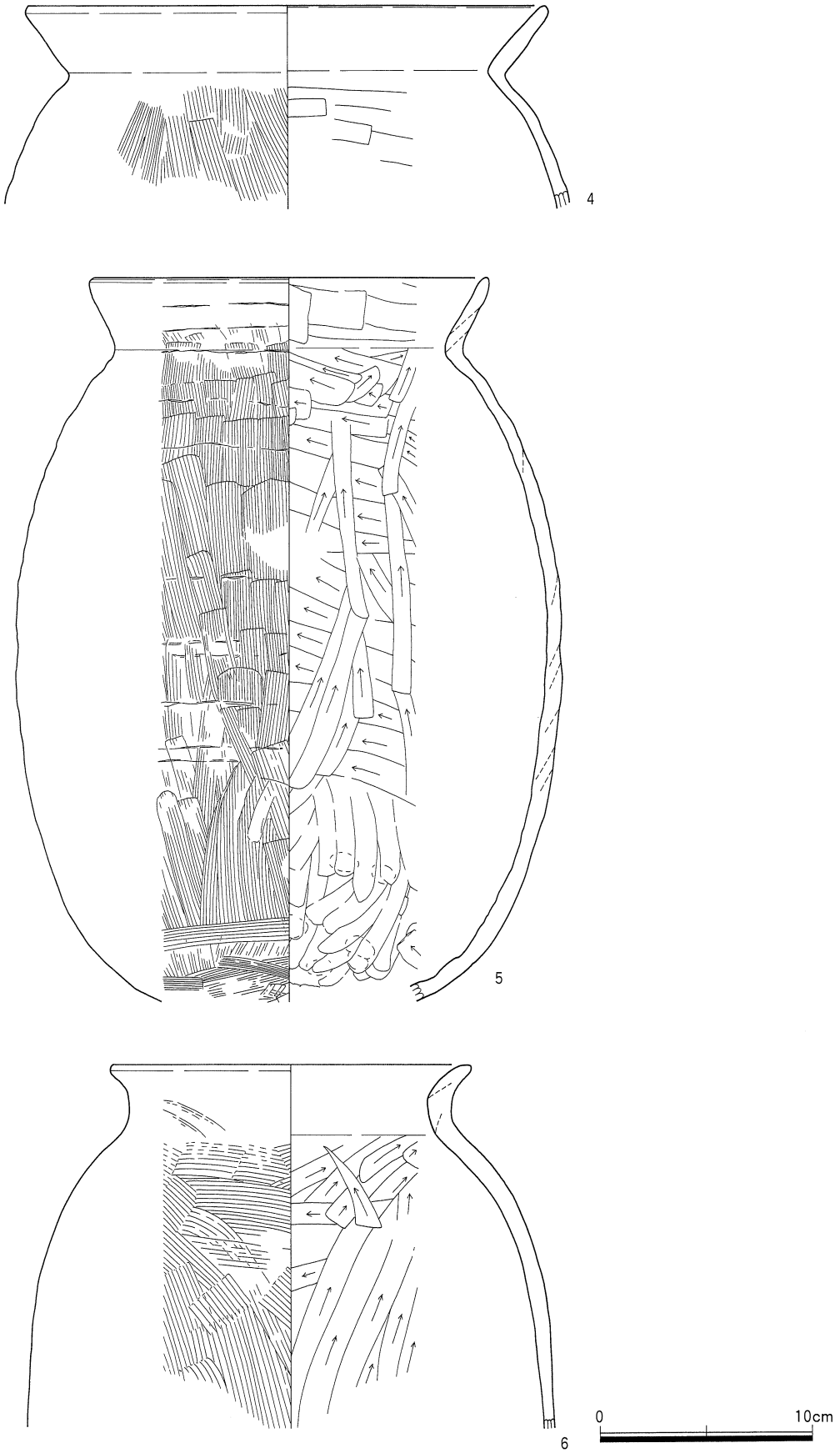
形態・規模　平面形態は長方形を呈し、長軸6.98m、短軸6.85m、表面積は約47.8m²を測る。残存する



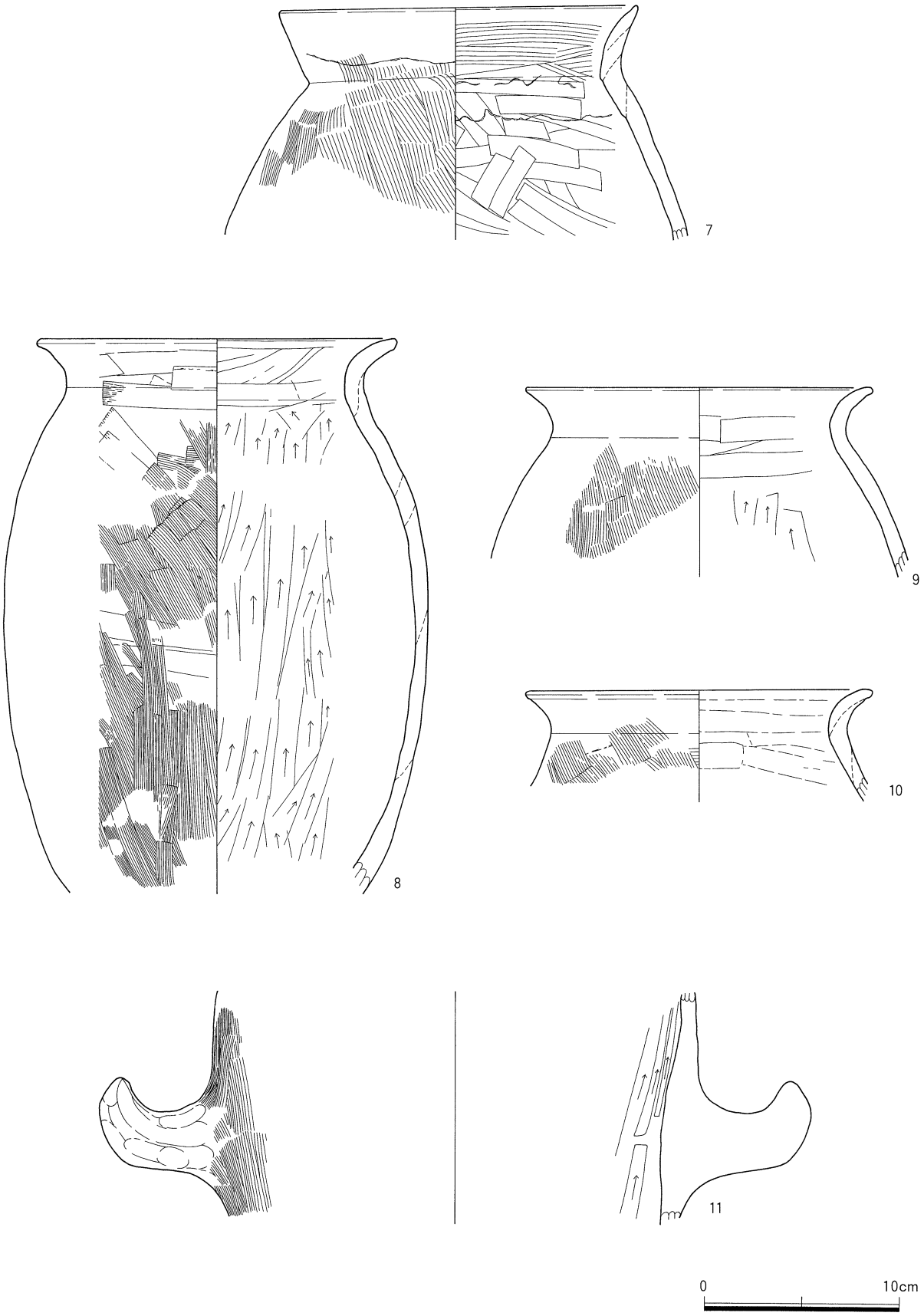
第384図　SB3019・EH1 下部構造遺物出土状況図



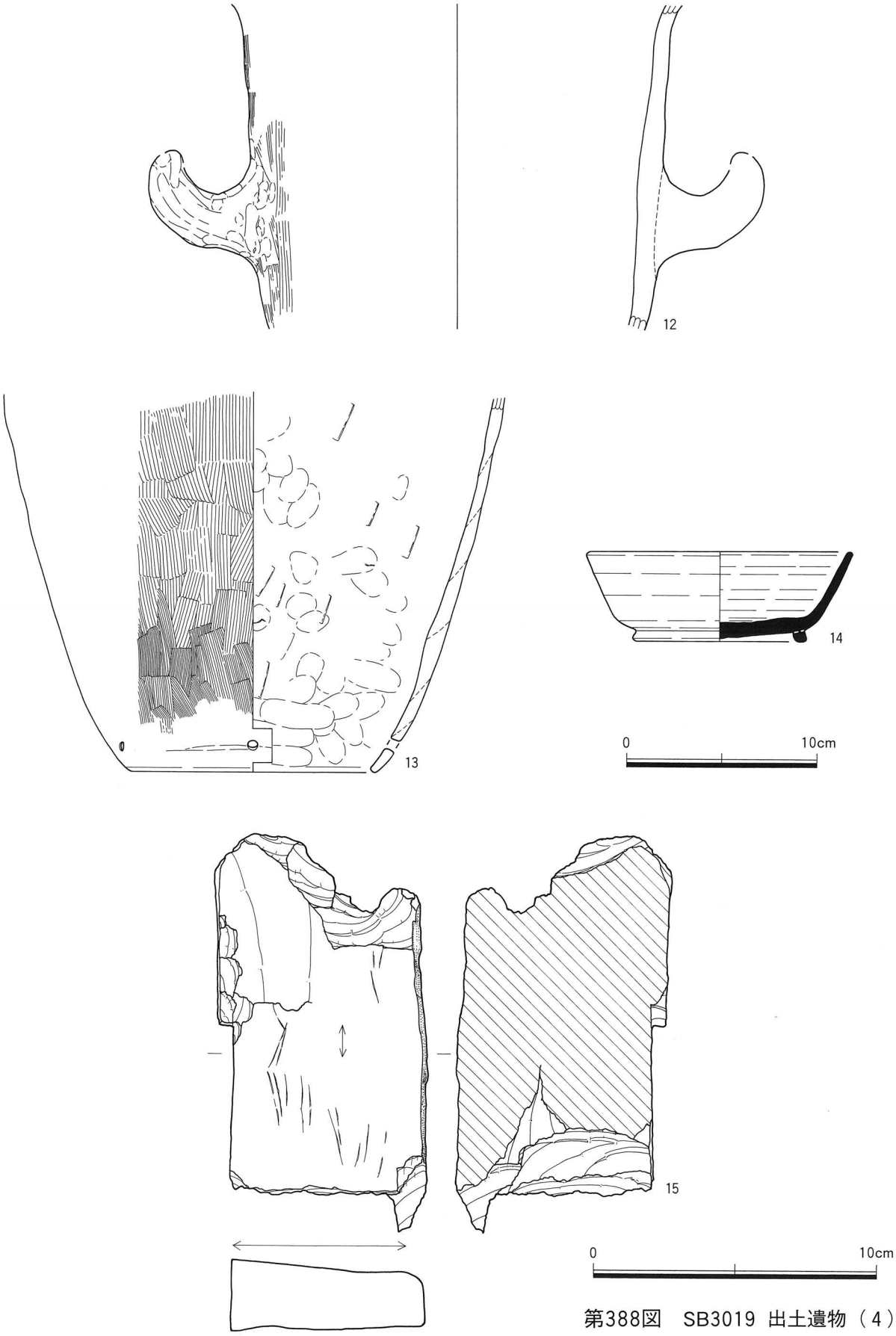
第385図　SB3019 出土遺物（1）



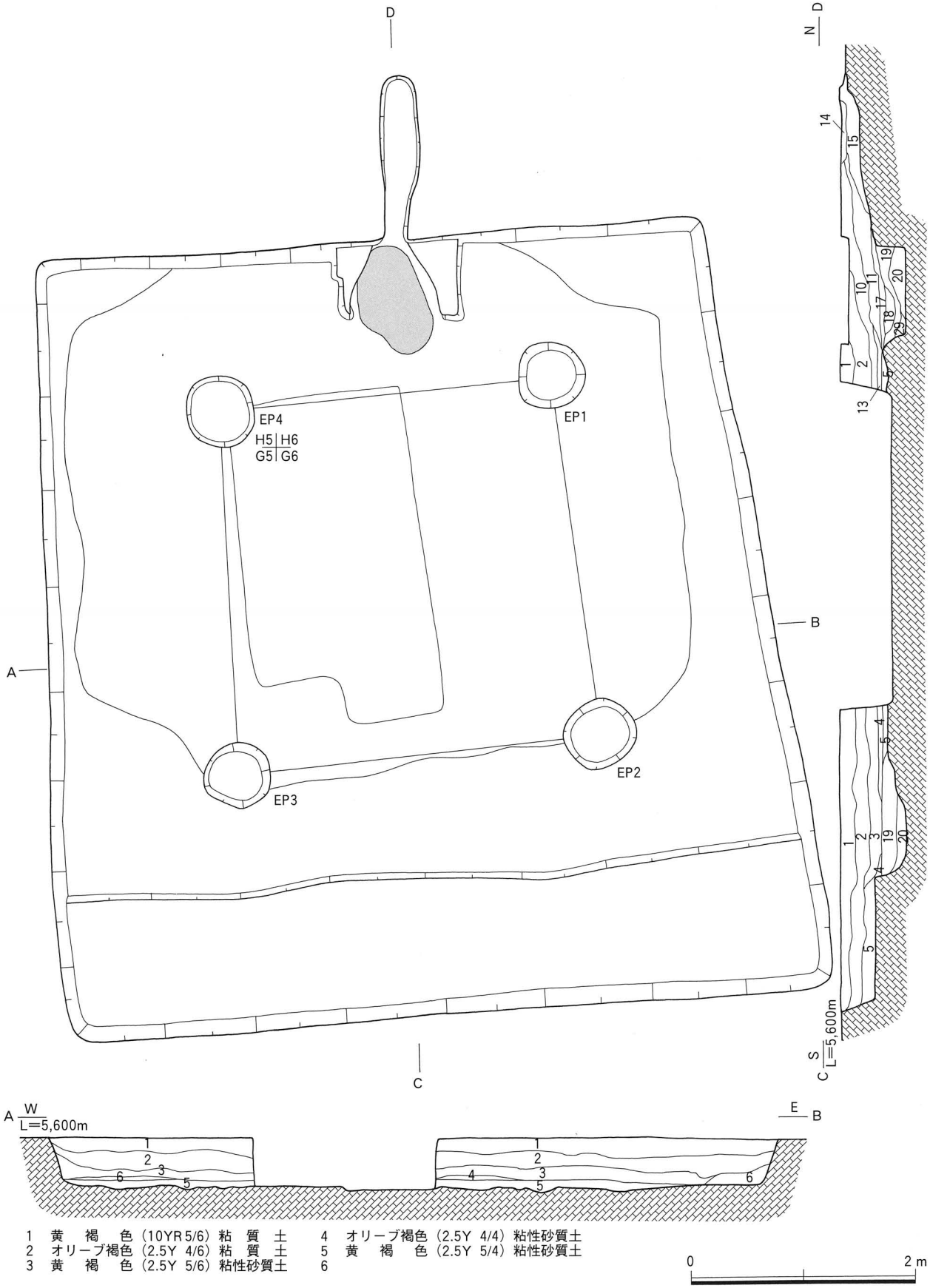
第386図　SB3019 出土遺物（2）



第387図　SB3019 出土遺物（3）



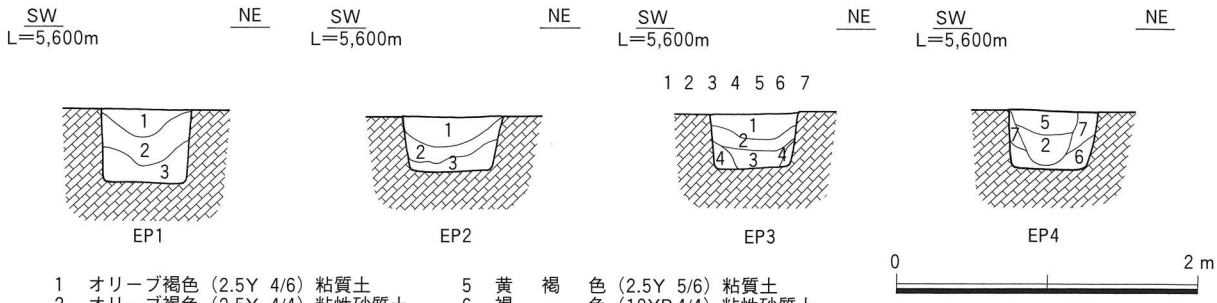
第388図　SB3019 出土遺物（4）



1　黄　褐　色（10YR 5/6）粘　質　土
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘　質　土
3　黄　褐　色（2.5Y 5/6）粘性砂質土
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘性砂質土
5　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘性砂質土
6

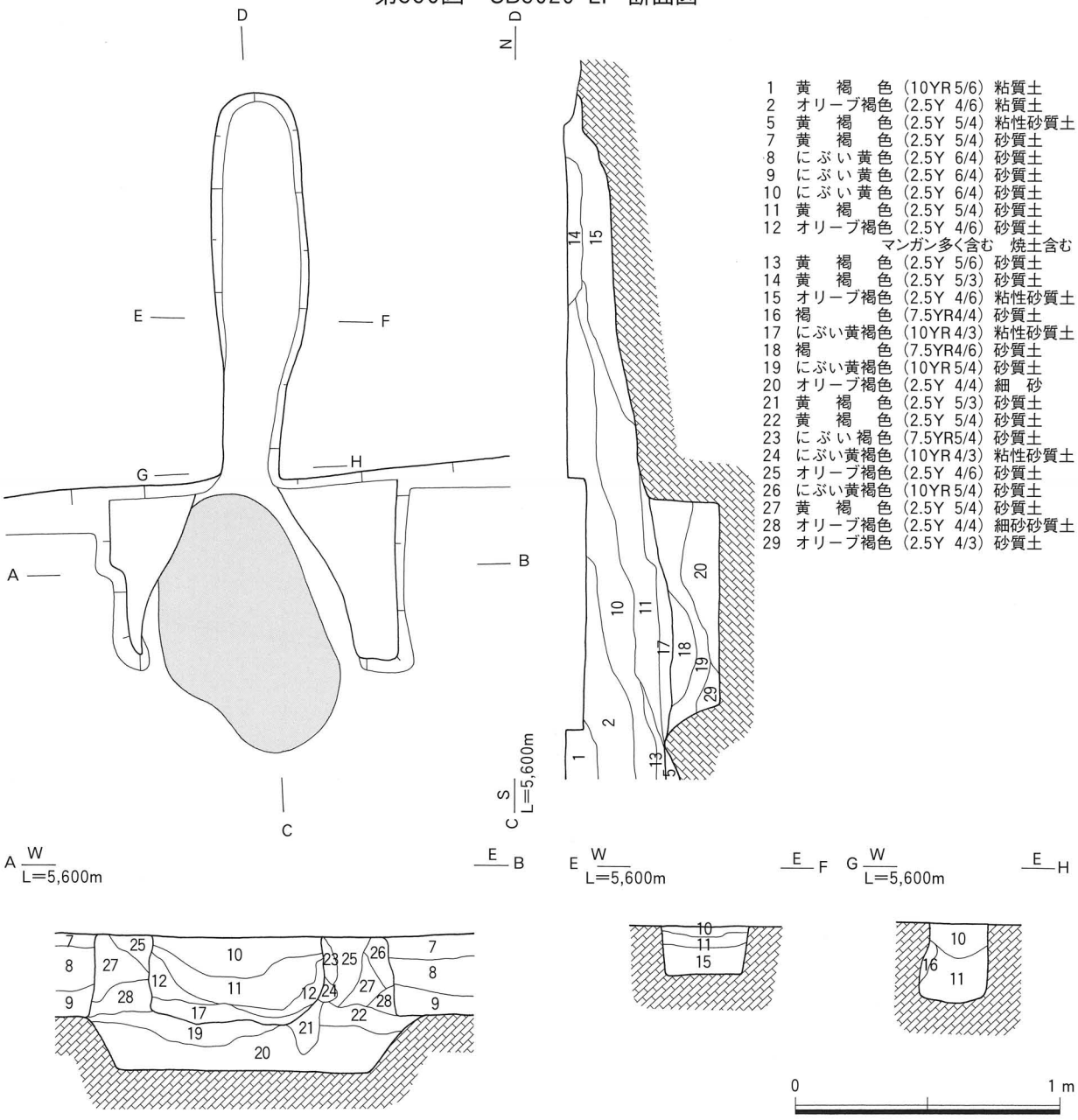
0　2 m

第389図　SB3020 平断面図



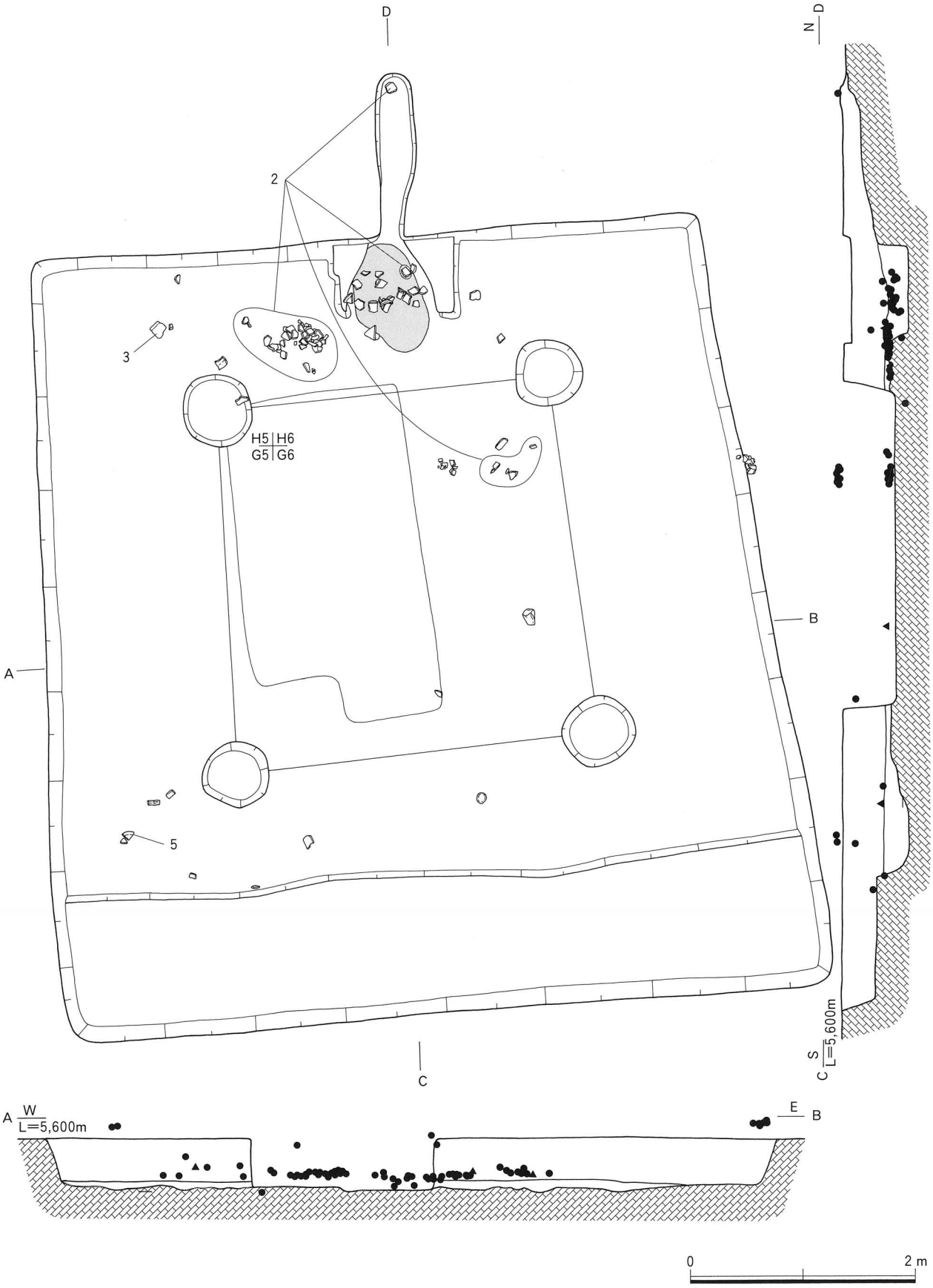
1 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘質土
2 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘性砂質土
3 暗　褐　色（10YR 3/4）粘性砂質土
4 黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
5 黄　褐　色（2.5Y 5/6）粘質土
6 褐　　色（10YR 4/4）粘性砂質土
7 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘質土

第390図　SB3020・EP 断面図

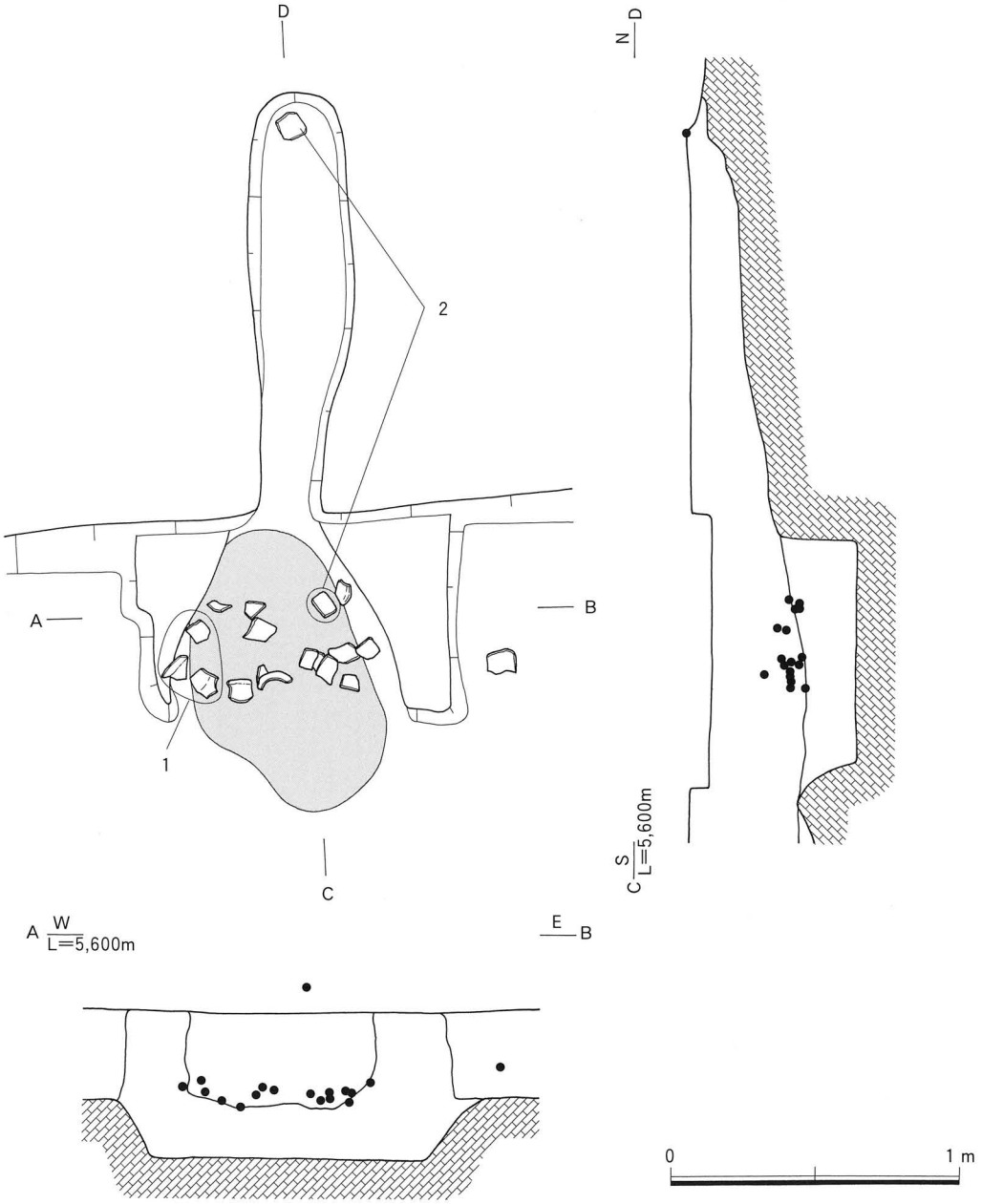


1 黄　褐　色（10YR 5/6）粘質土
2 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘質土
5 黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘性砂質土
7 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
8 にぶい黄色（2.5Y 6/4）砂質土
9 にぶい黄色（2.5Y 6/4）砂質土
10 にぶい黄色（2.5Y 6/4）砂質土
11 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
12 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
マンガン多く含む　焼土含む
13 黄　褐　色（2.5Y 5/6）砂質土
14 黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
15 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘性砂質土
16 褐　　色（7.5YR4/4）砂質土
17 にぶい黄褐色（10YR 4/3）粘性砂質土
18 褐　　色（7.5YR4/6）砂質土
19 にぶい黄褐色（10YR 5/4）砂質土
20 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）細　砂
21 黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
22 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
23 にぶい褐色（7.5YR5/4）砂質土
24 にぶい黄褐色（10YR 4/3）粘性砂質土
25 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
26 にぶい黄褐色（10YR 5/4）砂質土
27 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
28 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）細砂砂質土
29 オリーブ褐色（2.5Y 4/3）砂質土

第391図　SB3020・EH1 平断面図



第392図　SB3020 遺物出土状況図



第393図　SB3020・EH1 遺物出土状況図

深度は0.48mである。

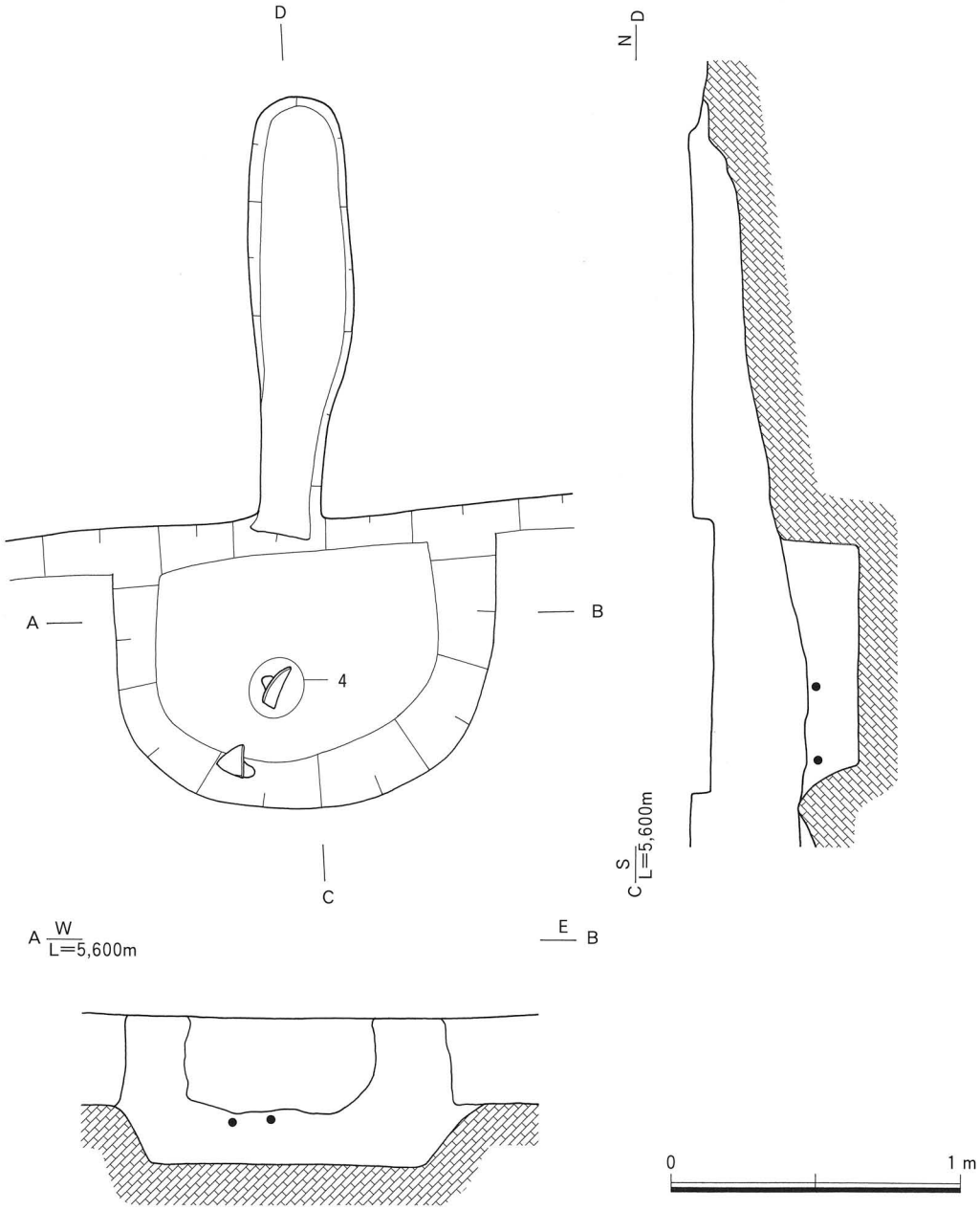
土層　29層に分層される。

ベッド状遺構　南壁沿い幅約1.2mのベッド状遺構が検出された。床面との高低差は約0.1mである。

柱穴　柱穴は4基検出されている。

竈　北壁のほぼ中央部から1基検出された。袖部および燃焼部、煙道部が検出され、焚き口から燃焼部にかけて焼土や炭化物の拡がりが確認された。下部構造は楕円形の土坑を掘削しており、長軸1.31m、短軸0.99m、深度0.19mを測る。

遺物出土状況　竈内および周辺部を中心に床面直上付近で検出されている。また一部に検出面上からも遺物は出土した。



第394図　SB3020・EH1 下部構造遺物出土状況図

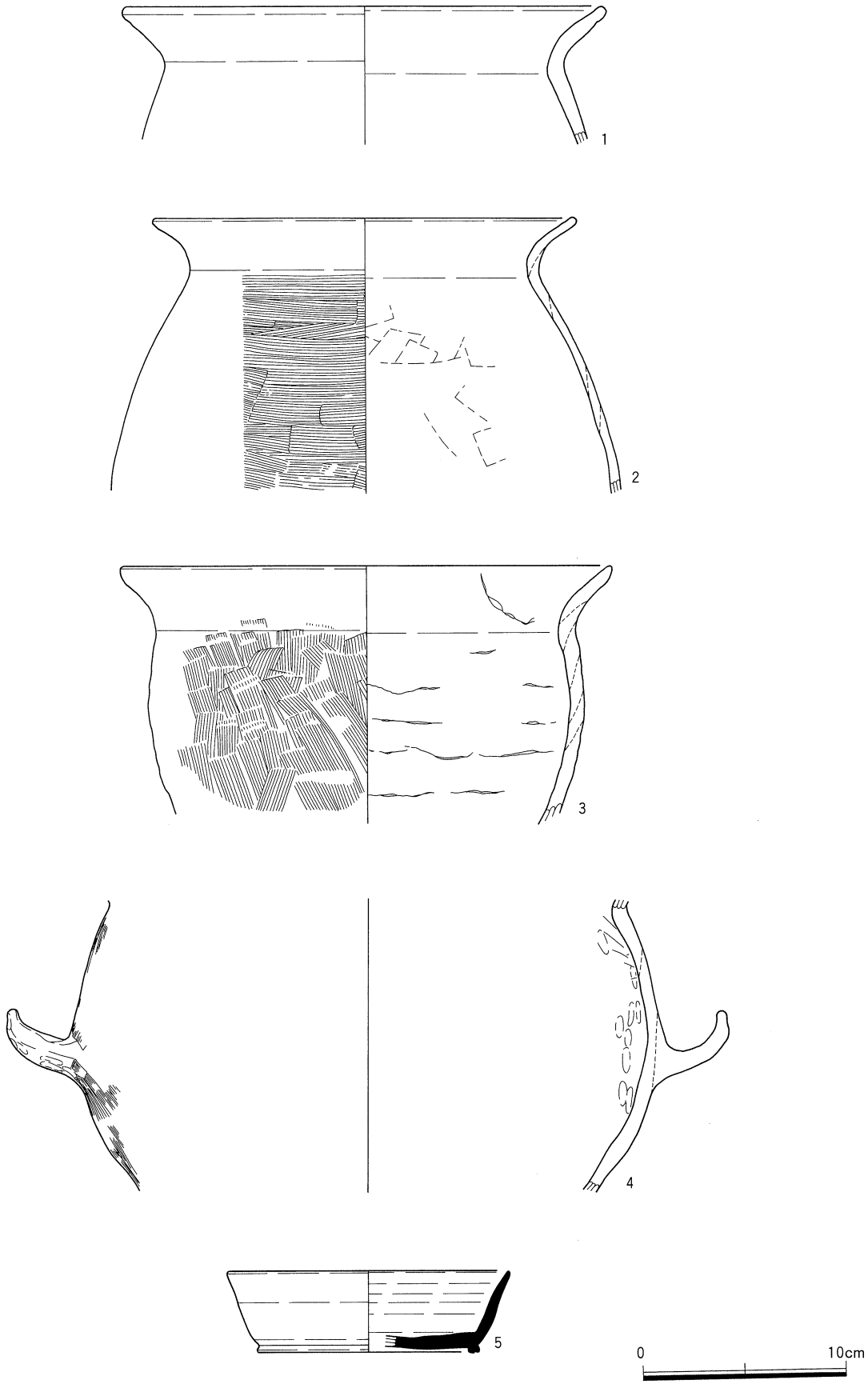
出土遺物　1～4は土師器の甕である。4は把手部が1対付いている。5は検出面上面から出土した須恵器の杯である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期以後と考えられる。

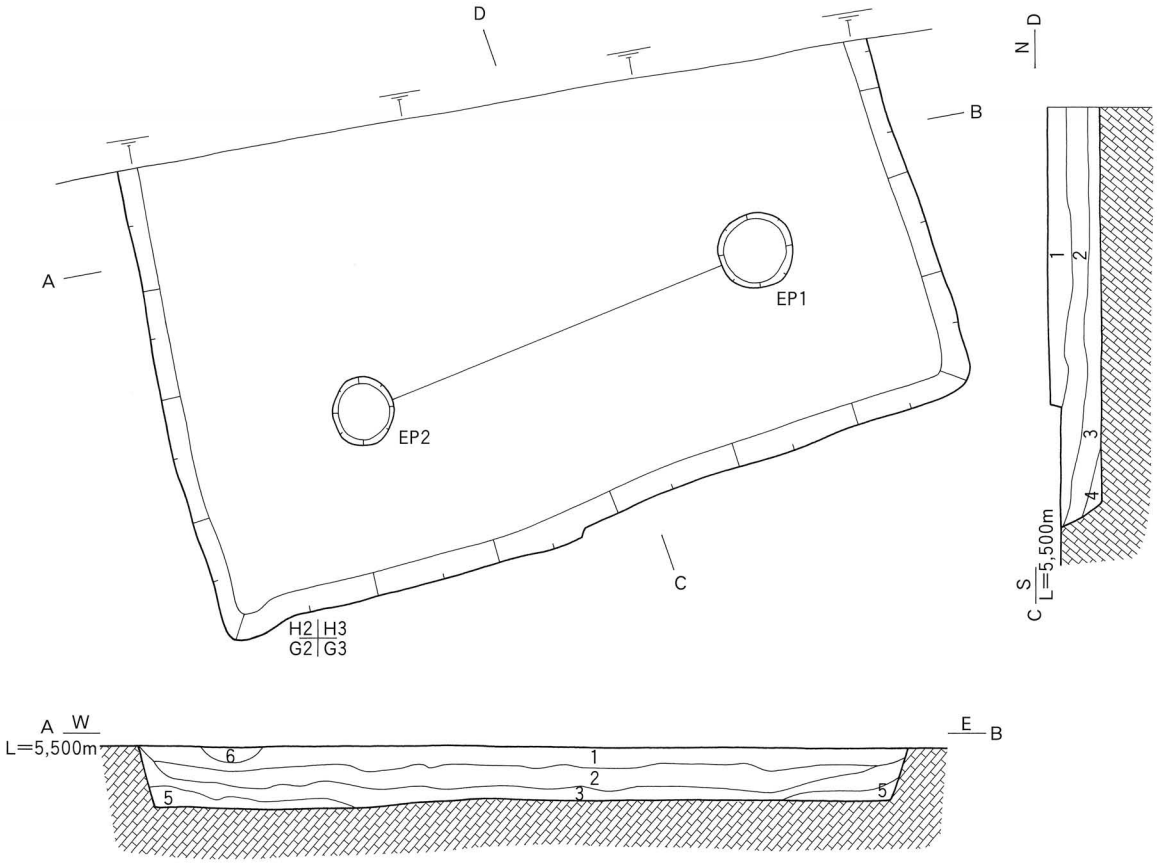
21号竪穴住居跡（SB3021）（第396～398図）

検出場所　1999年度調査4区　Loc.G1・βⅢ・G2・H2・3グリッド

形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈すると考えられるが、北側は調査区外に延びている。長軸5.25m（残存値）、短軸3.20m（残存値）、表面積は約16.8m²（残存値）である。残存する深度は0.43mである。



第395図　SB3020 出土遺物

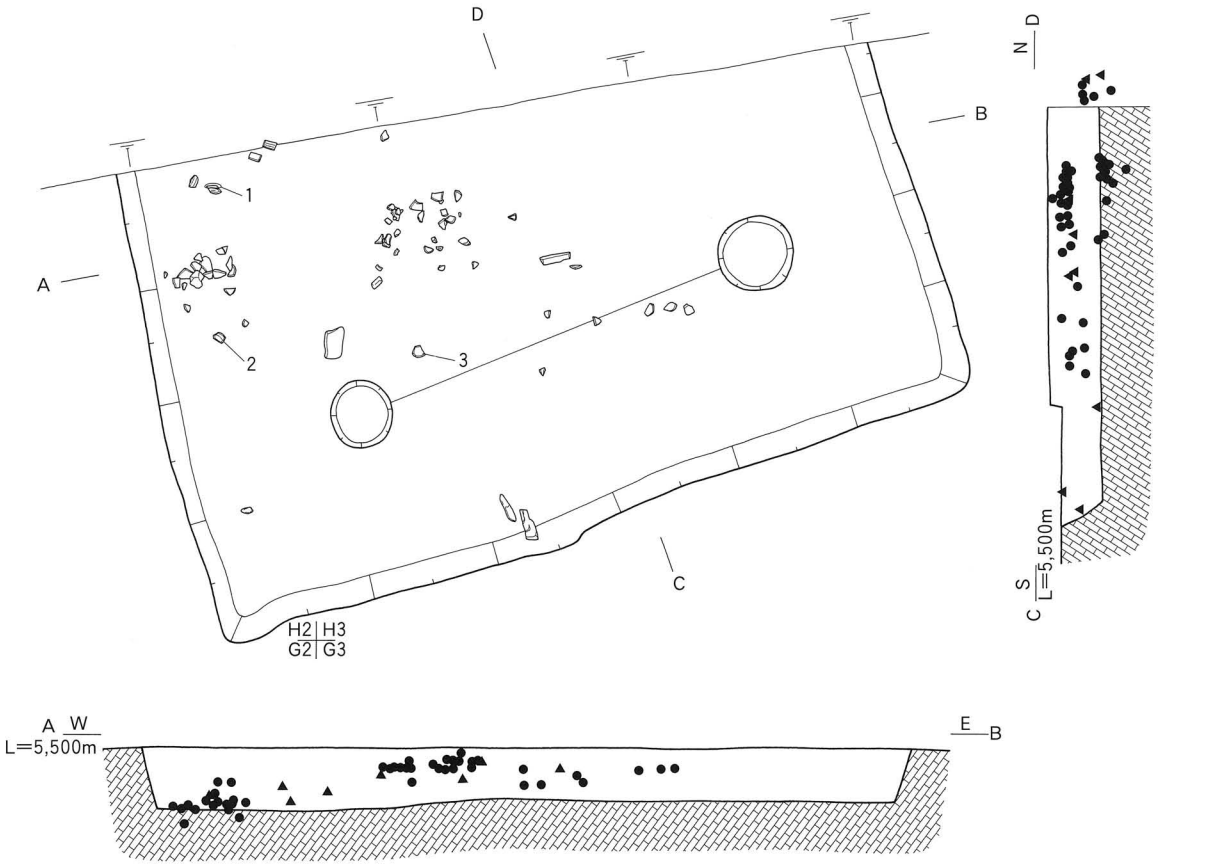


1　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘質土
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘性砂質土
3　褐　　色（10YR 4/6）粘質土
4　黄　褐　色（10YR 5/6）粘質土
5　黄　褐　色（2.5Y 5/6）粘質土
6　黄　褐　色（2.5Y 5/3）粘質土

1　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土
2　黄　褐　色（2.5Y 5/6）粘質土
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘性砂質土
4　褐　　色（10YR 4/4）砂質土

0　2 m

第396図　SB3021 平断面図



第397図　SB3021 遺物出土状況図　0　2 m

土層　6層に分層される。

柱穴　柱数は4本柱と考えられるが、南側の2基が検出された。

竈　検出されていない。

遺物出土状況　床面直上および2層中を中心として検出されている。

出土遺物　1は須恵器の杯蓋である。2は須恵器の杯身である。3は土師器の杯である。4は土錘である。5は砂岩製の砥石である。6は結晶片岩製の砥石である。7は棒状の鉄製品である。

時期　出土した遺物から古墳時代中期末（5世紀第4四半期・TK23並行期）と考えられる。

22号竪穴住居跡（SB3022）（第399～406図）

検出場所　1998年度調査7区　Loc.G1・βⅢ・K12・13・L12・13グリッド

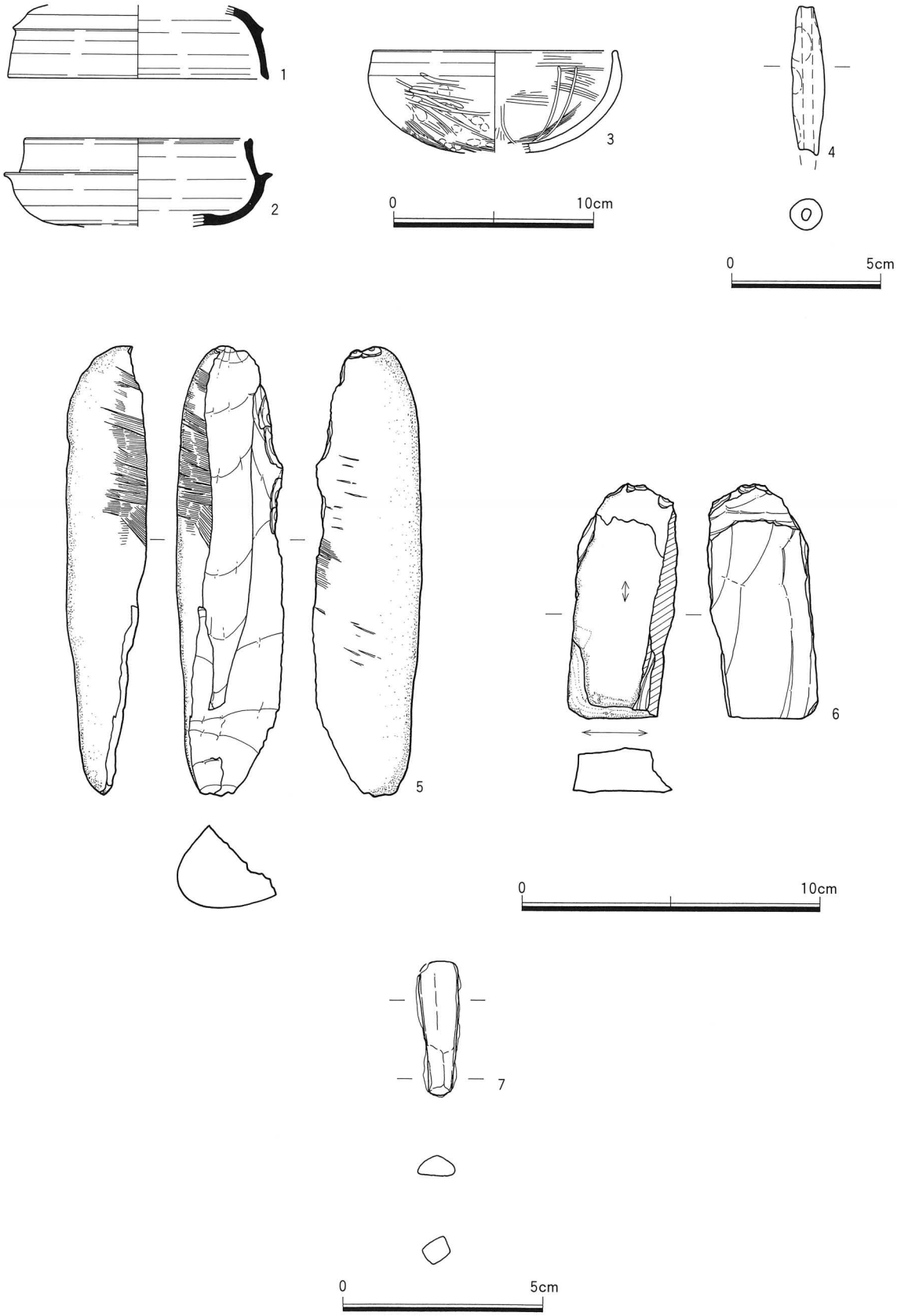
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸5.85m、短軸5.43m、表面積は約31.8㎡を測る。残存する深度は0.25mである。

土層　11層に分層される。

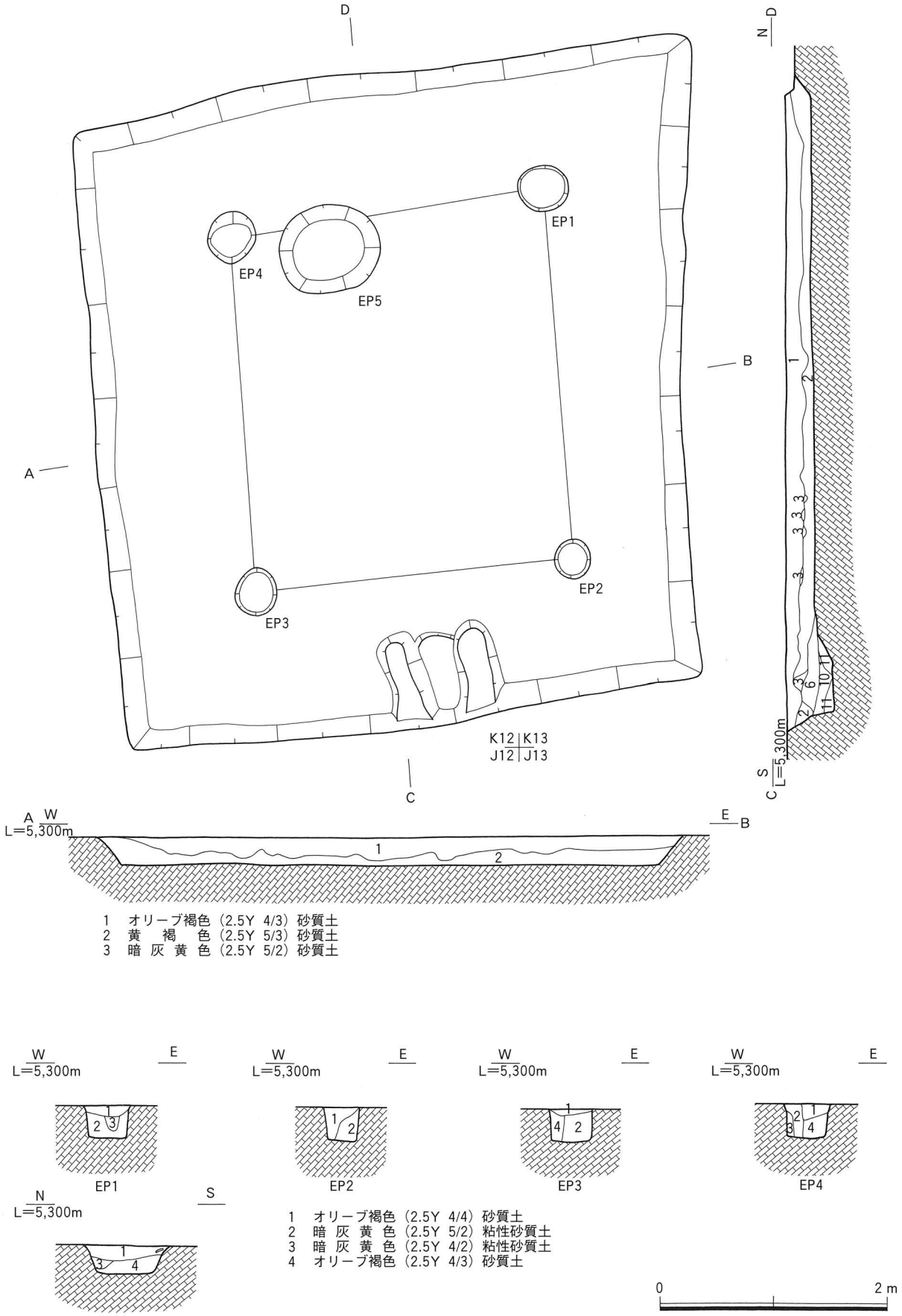
柱穴　柱穴は4基検出されている。

土坑　床面中央北寄りから楕円形の土坑が1基検出された。長軸0.93m、短軸0.78m、深度0.25mを測り、3層に分層される。

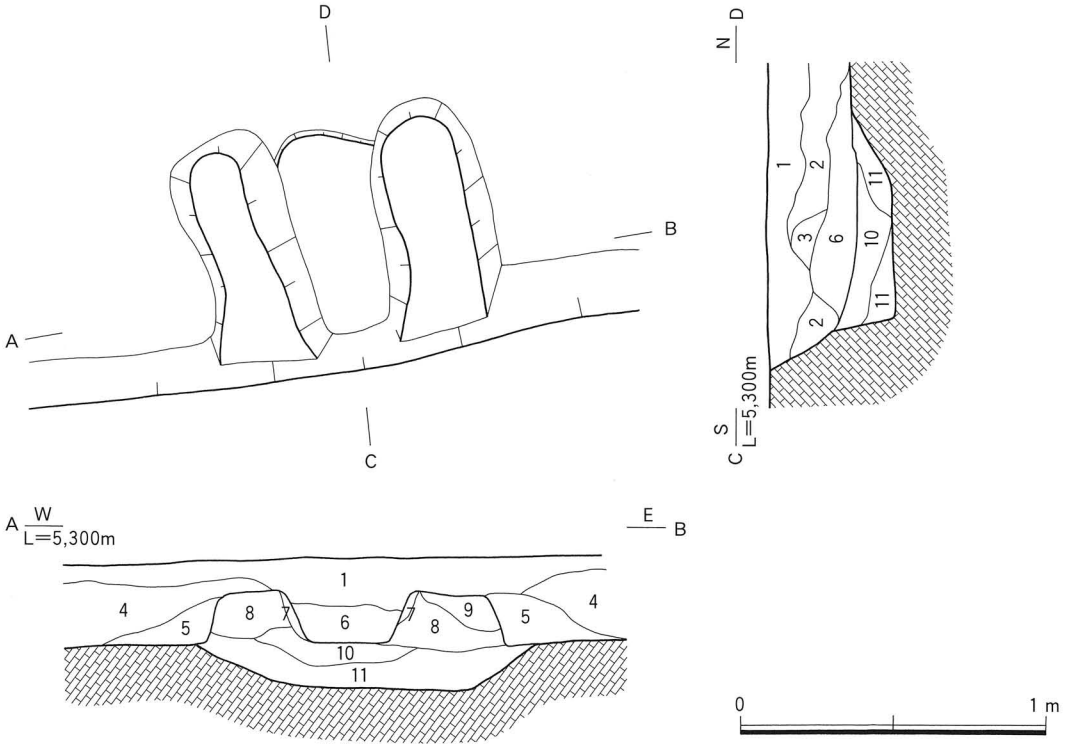
竈　南壁のほぼ中央部に1基検出された。袖部および燃焼部が検出されている。下部構造は楕円形の土



第398図　SB3021 出土遺物



第399図　SB3022 平断面図



1　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）砂質土
2　黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
3　暗 灰 黄 色（2.5Y 5/2）砂質土
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）砂質土
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
6　褐　　色（10YR 4/4）砂質土
7　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
8　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
9　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
10　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
11　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土

第400図　SB3022・EH1 平断面図

坑が掘削されており、長軸1.10m、短軸0.93m、深度0.13mを測る。土坑内からはミニチュア土器が1点埋納されていた。

遺物出土状況　竈内および床面中央部を中心として遺物が検出された。竈内およびその周辺からは製塩土器が集中してみとめられた。

出土遺物　1・2は須恵器の杯蓋である。1は外面天頂部にヘラ記号を持つ。3～5は須恵器の杯身である。6は須恵器の高杯の脚部である。7は須恵器の壺である。8～16は土師器の甕である。17～27は製塩土器である。28はミニチュア土器である。29は検出面上面から出土した黒色土器である。30は砂質片岩、31は泥質片岩の敲石である。

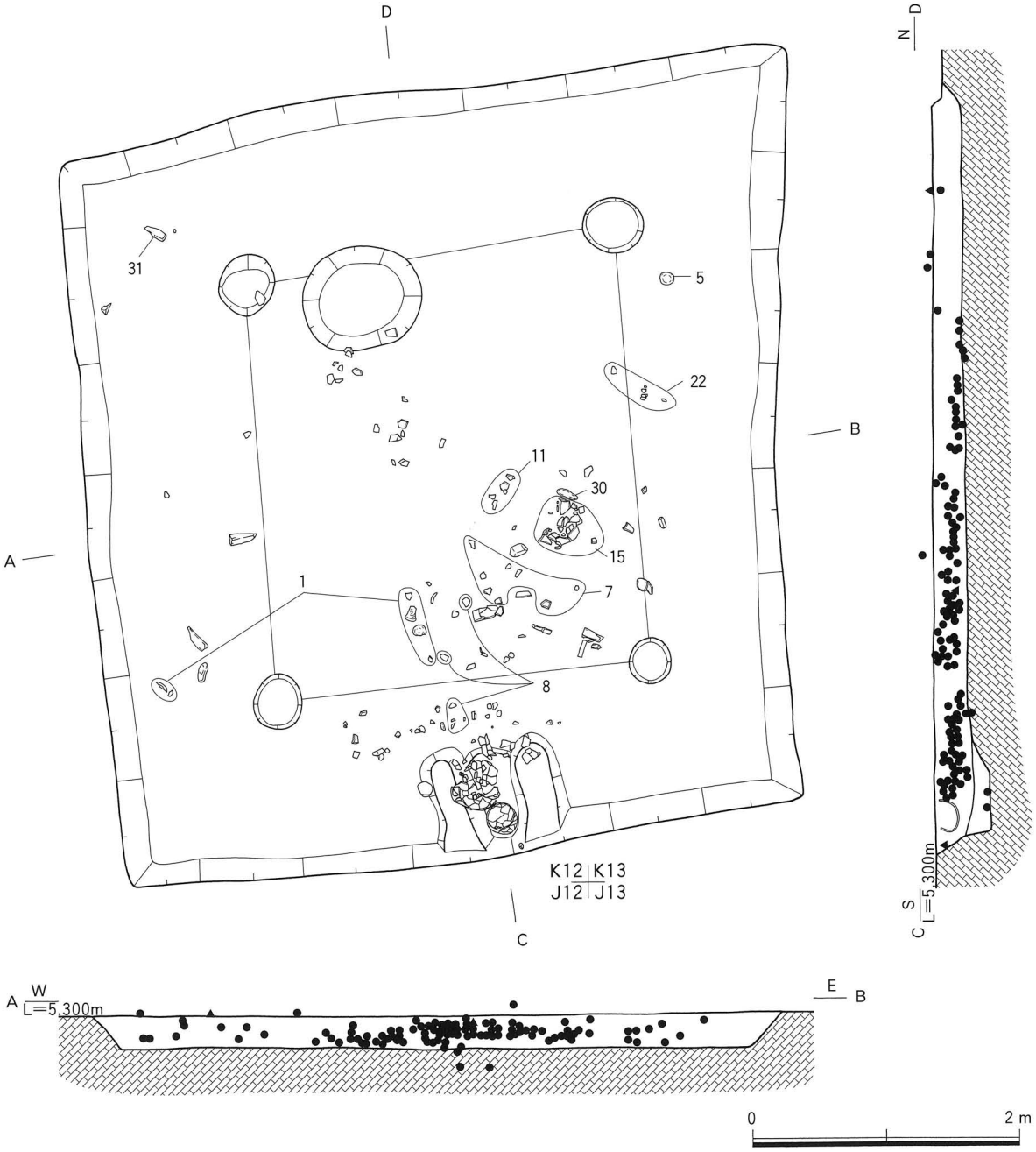
時期　出土した遺物から古墳時代後期初頭（6世紀第1四半期・TK47並行期）と考えられる。

23号竪穴住居跡（SB3023）（第407～412図）

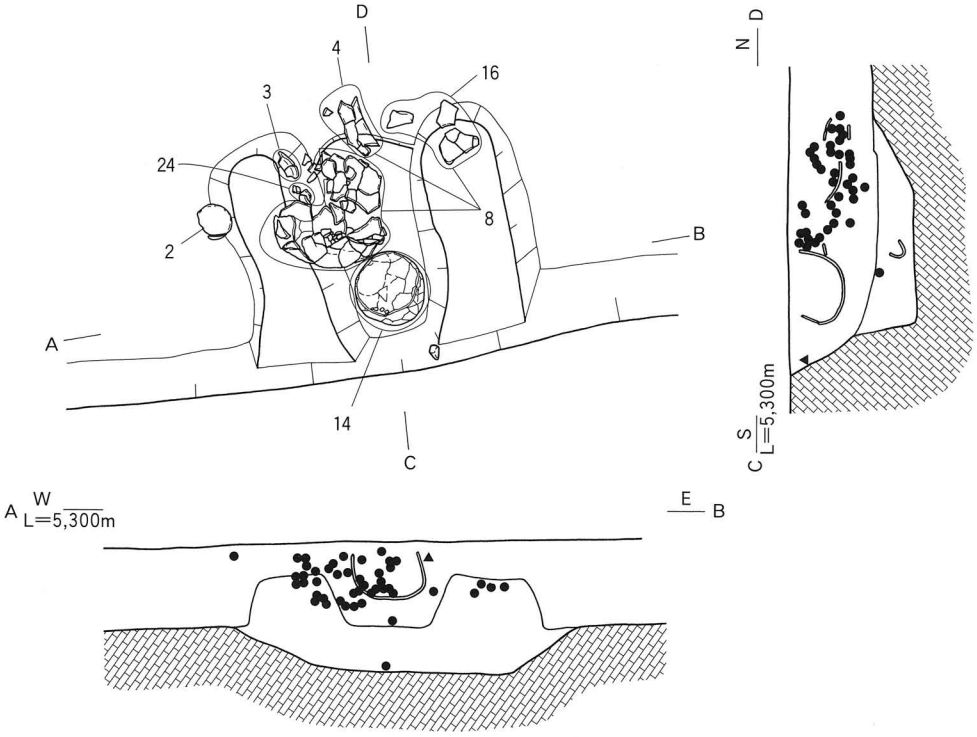
検出場所　1998年度調査7区　2003年度調査2－2区　Loc.G1・βⅢ・L5・6グリッド

形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈すると考えられるが、南側は後世の溝に切られている。長軸4.40m（残存値）、短軸3.00m（残存値）、表面積は約13.2m²（残存値）である。残存する深度は0.38mである。

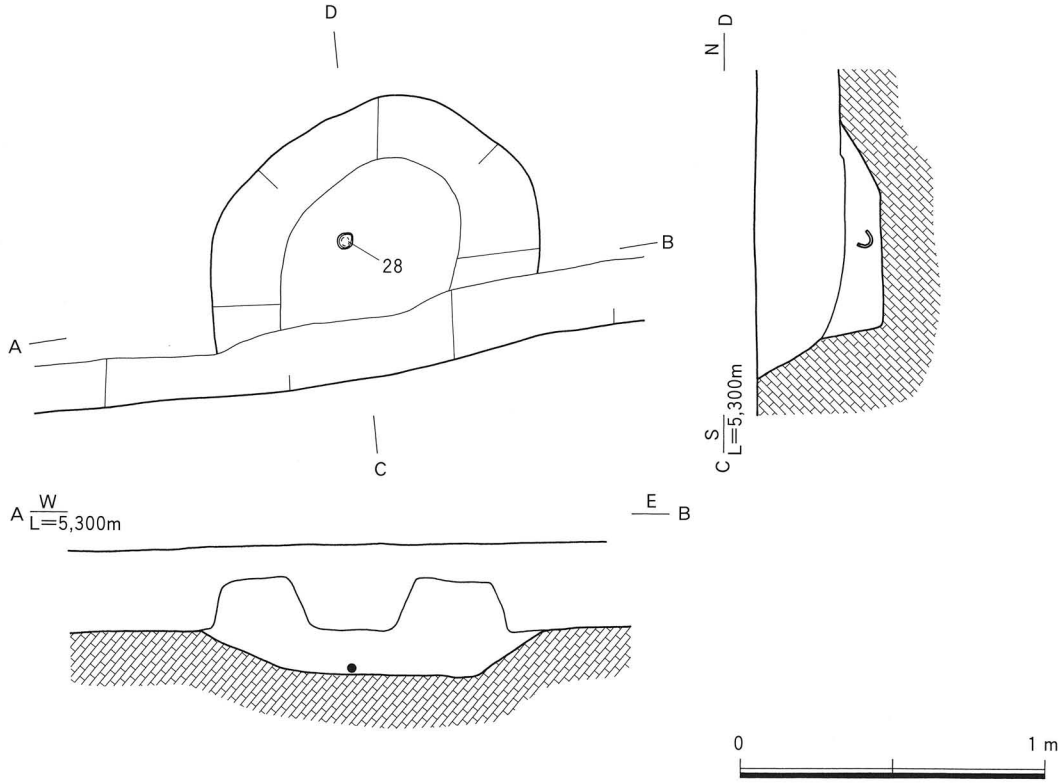
土層　14層に分層される。



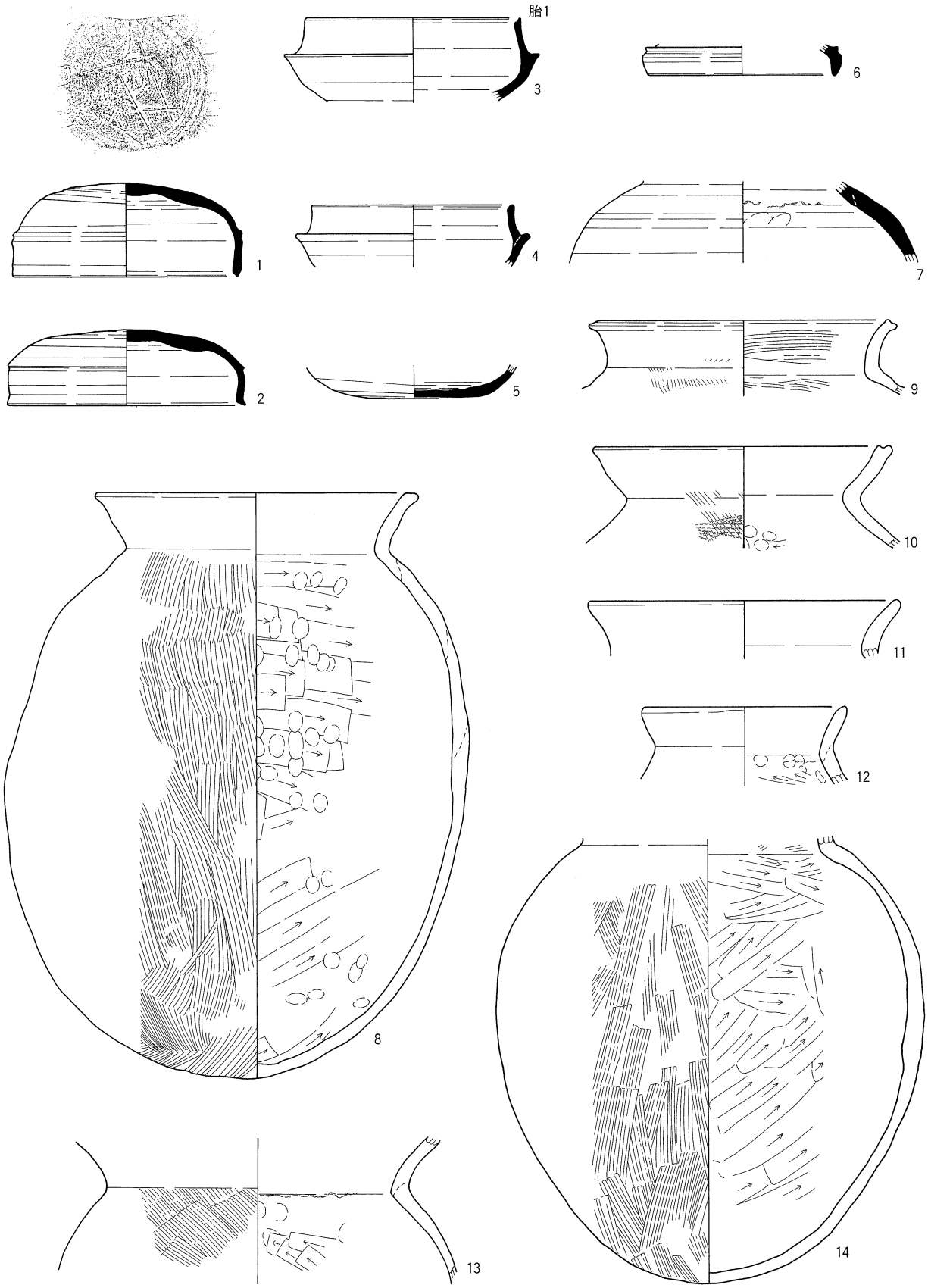
第401図　SB3022 遺物出土状況図



第402図　SB3022・EH1 遺物出土状況図

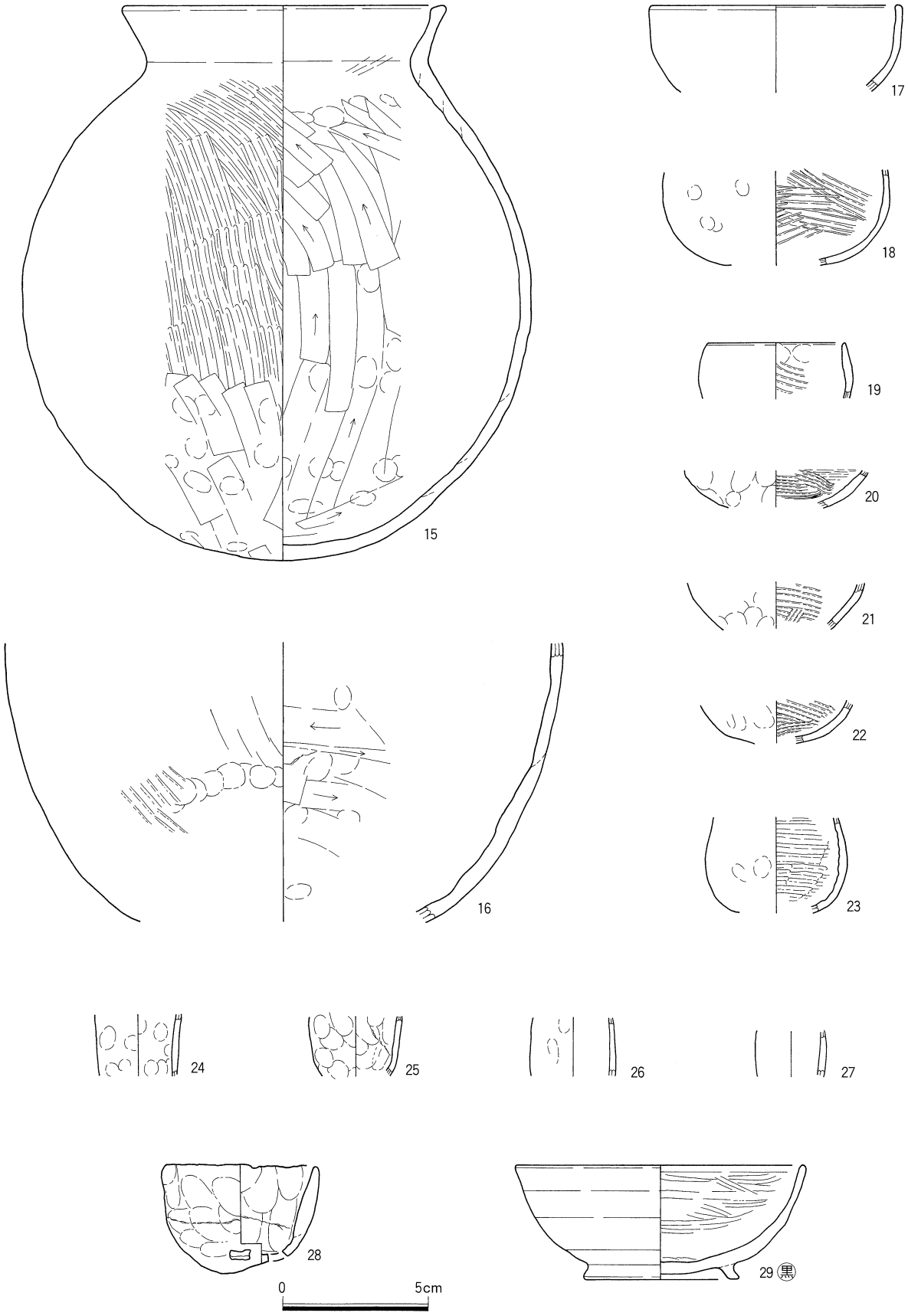


第403図　SB3022・EH1 下部構造遺物出土状況図

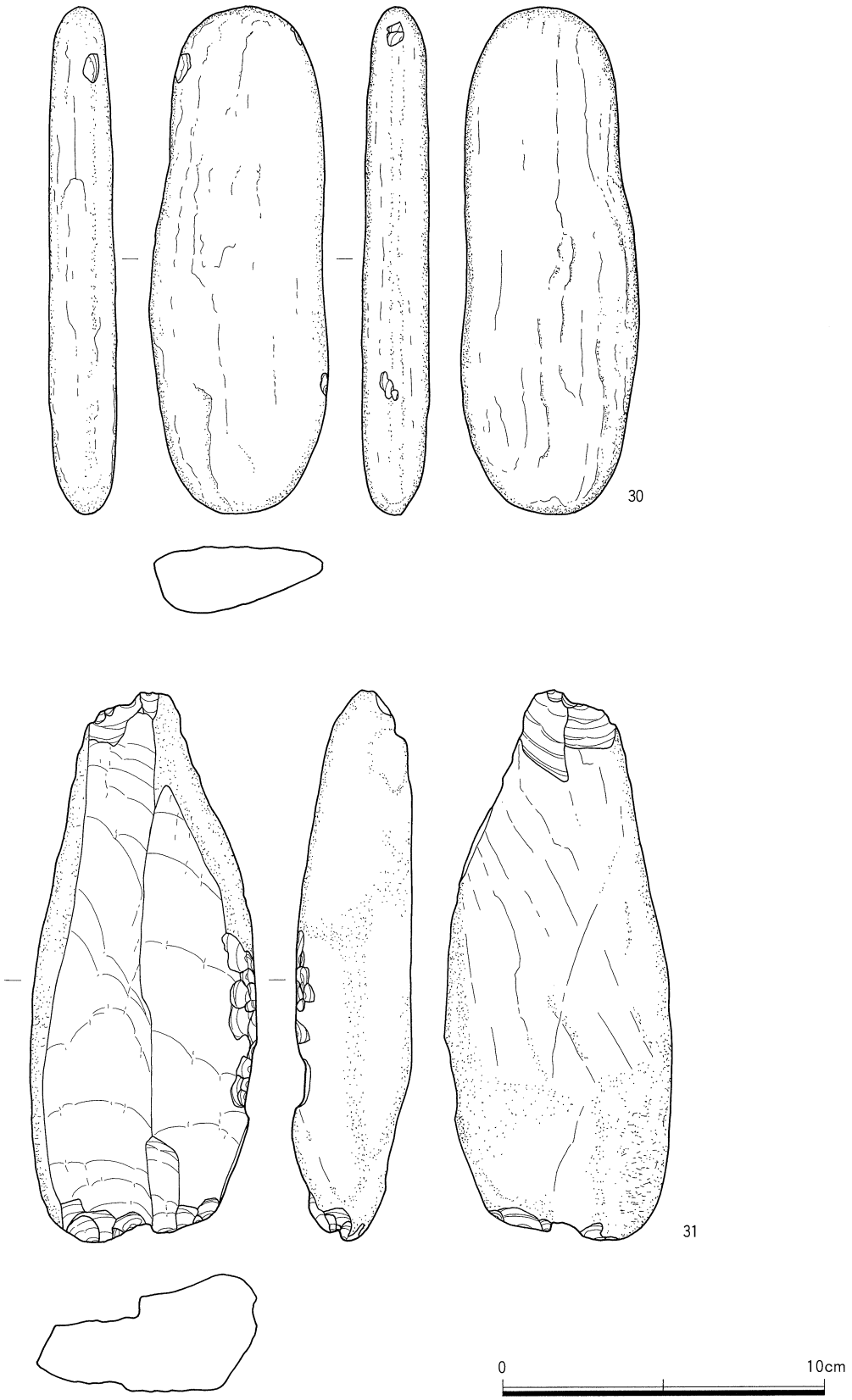


第404図　SB3022 出土遺物（1）

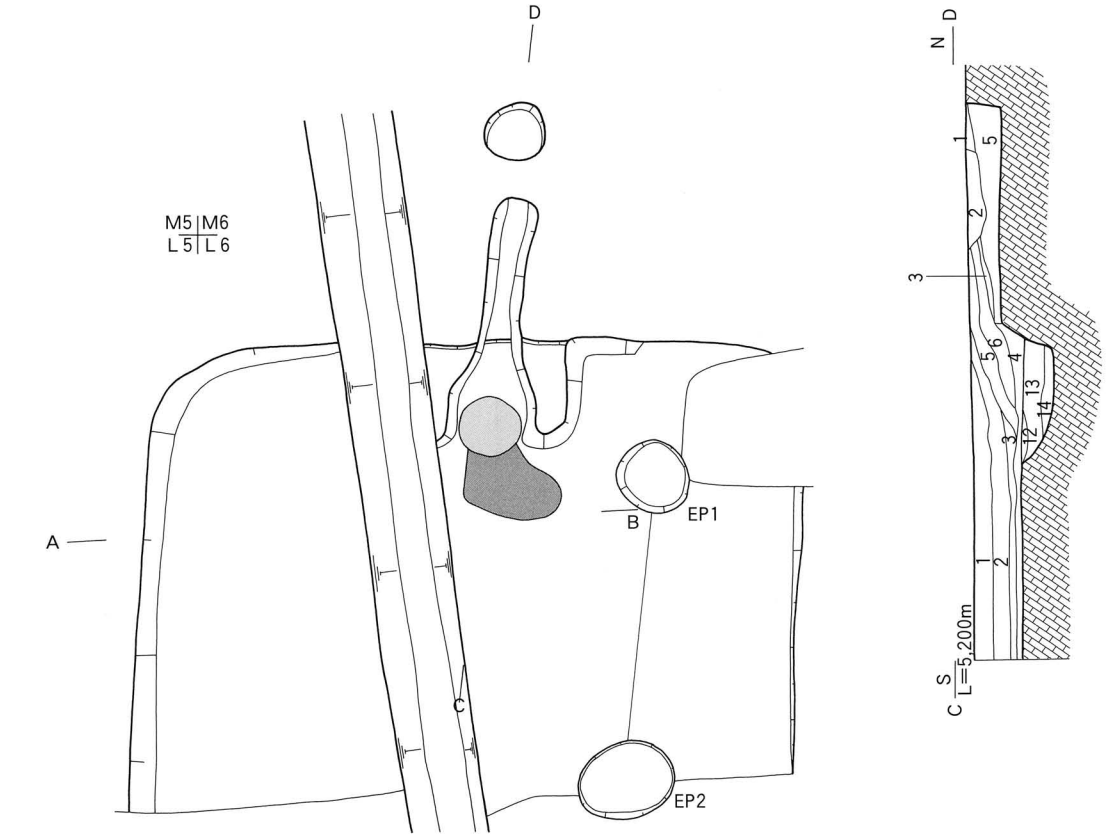
0　10cm

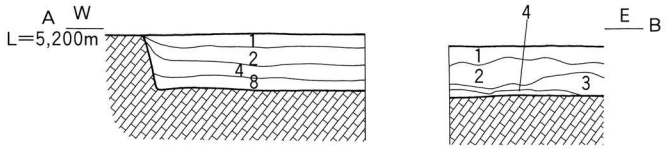


第405図　SB3022 出土遺物（2）

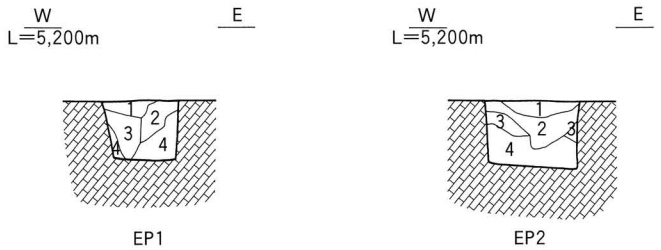


第406図　SB3022 出土遺物（3）





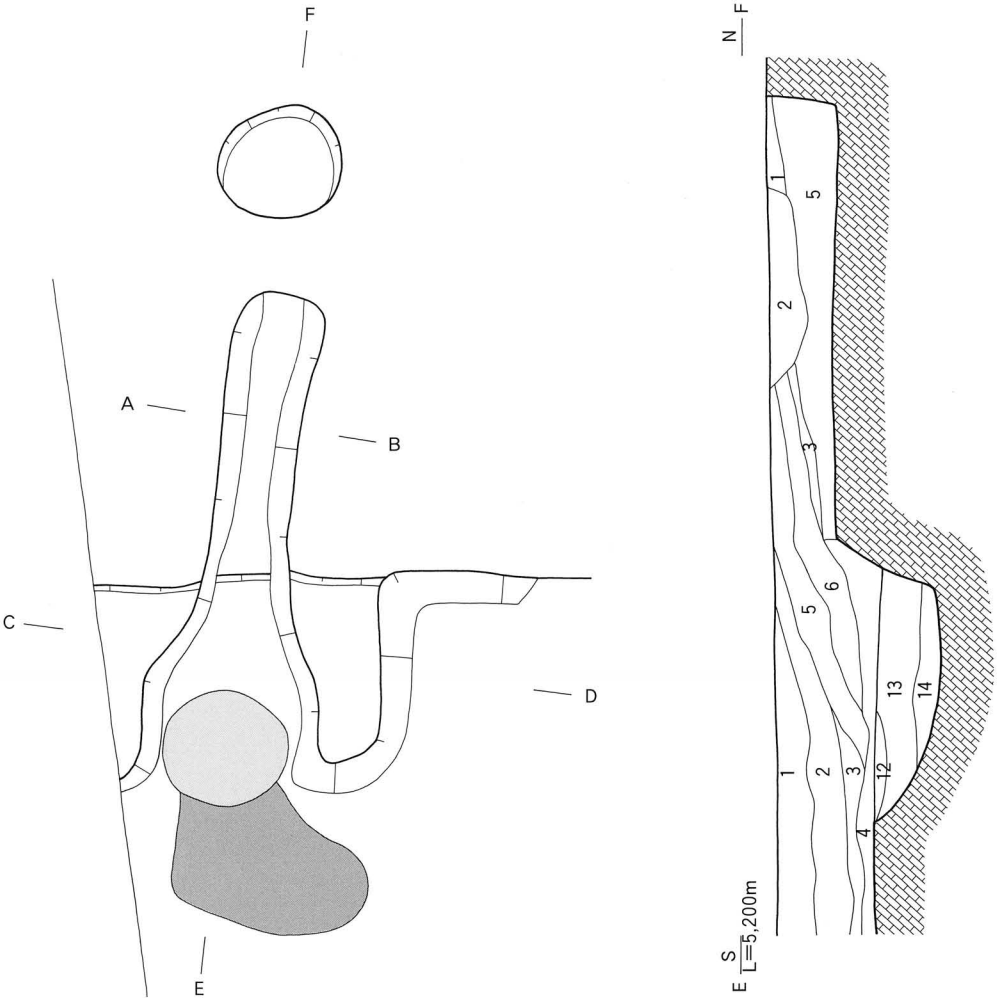
1 にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 砂 質 土
2 暗 灰 褐 色 (10YR 6/2) 粘 質 土
3 黄 灰 色 (2.5Y 6/1) 粘性砂質土 焼土含む
4 黄 褐 色 (2.5Y 5/6) 粘 質 土 焼土・炭化物含む
5 にぶい黄色 (2.5Y 6/3) 粘性砂質土 焼土含む
6 にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 粘 質 土
8 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) シ ル ト
12 にぶい赤褐色 (5YR 4/4) 焼 土
13 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 砂 質 土
14 黄 褐 色 (2.5Y 5/3) 細 砂

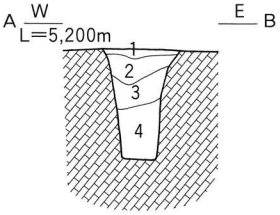


1 黄 灰 色 (2.5Y 5/1) 粘性砂質土
2 褐 色 (10YR 4/6) 粘 質 土
3 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 砂 質 土
4 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂 質 土

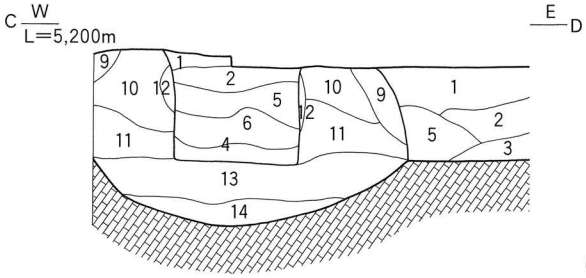
0 2 m

第407図 SB3023 平断面図

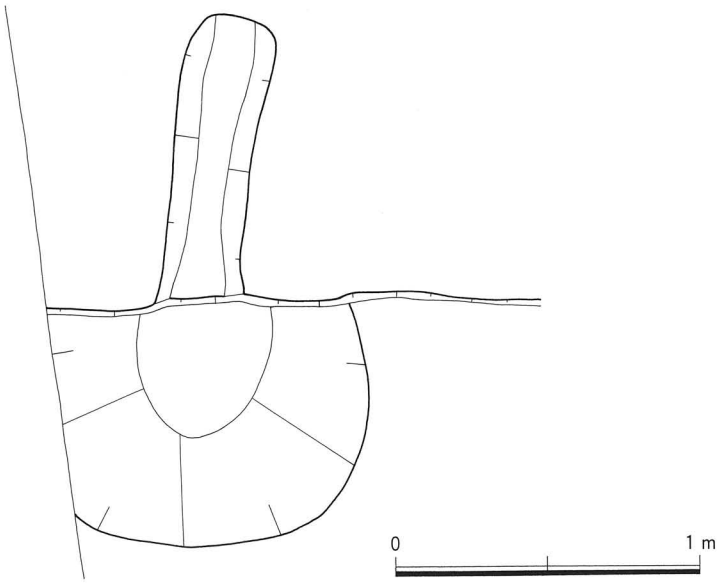




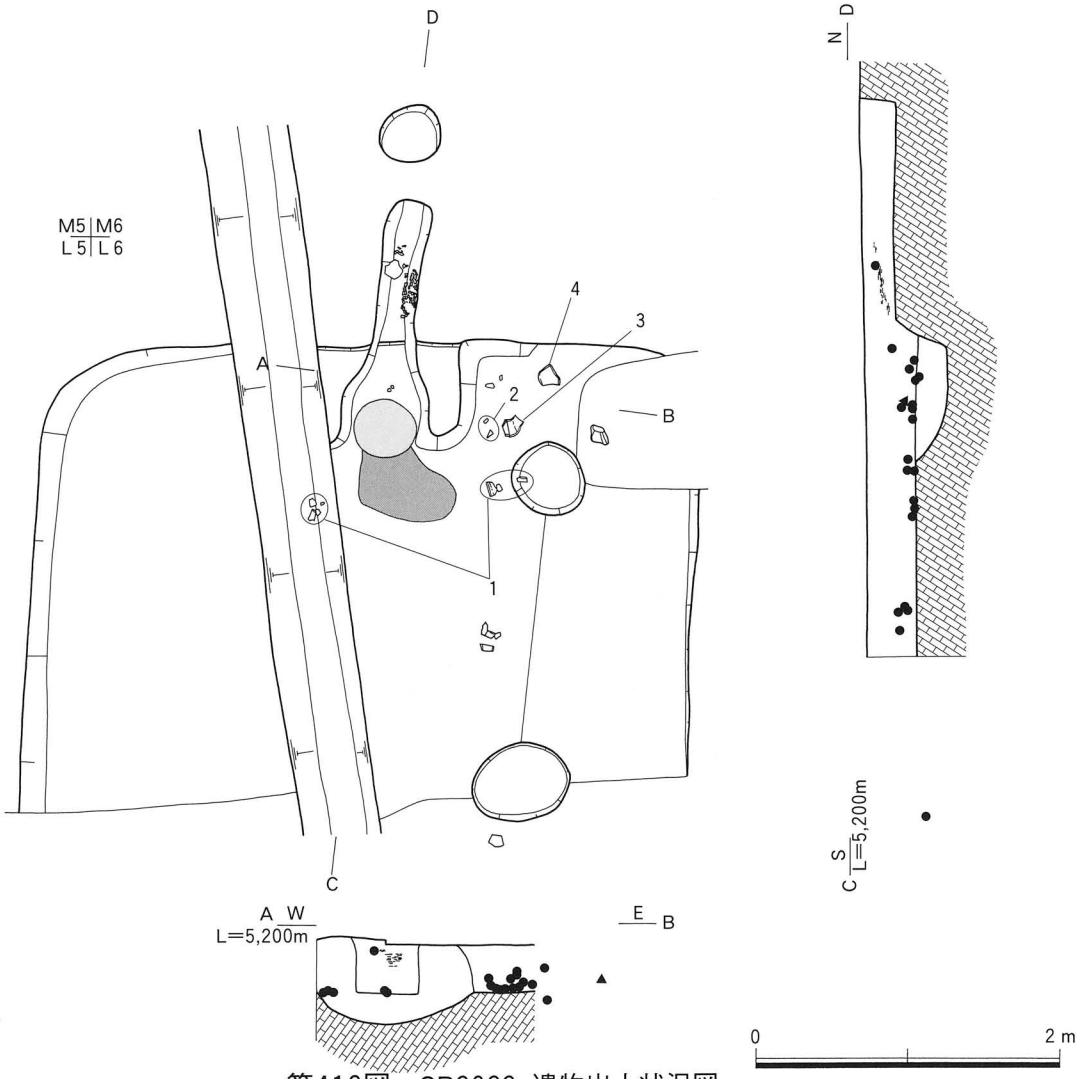
1	にぶい黄色	(2.5Y 6/4)	砂質土	
2	灰黄褐色	(10YR 6/2)	粘質土	
3	黄灰色	(2.5Y 6/1)	粘性砂質土	焼土含む
4	黄褐色	(2.5Y 5/6)	粘質土	焼土・炭化物含む
5	にぶい黄色	(2.5Y 6/3)	粘性砂質土	焼土含む
6	にぶい黄褐色	(10YR 5/4)	粘質土	
9	オリーブ褐色	(2.5Y 4/3)	砂質土	
10	黄褐色	(2.5Y 5/4)	砂質土	
11	黄褐色	(2.5Y 5/4)	砂質土	
12	にぶい赤褐色	(5YR 4/4)	焼土	
13	オリーブ褐色	(2.5Y 4/6)	砂質土	
14	黄褐色	(2.5Y 5/3)	細砂	



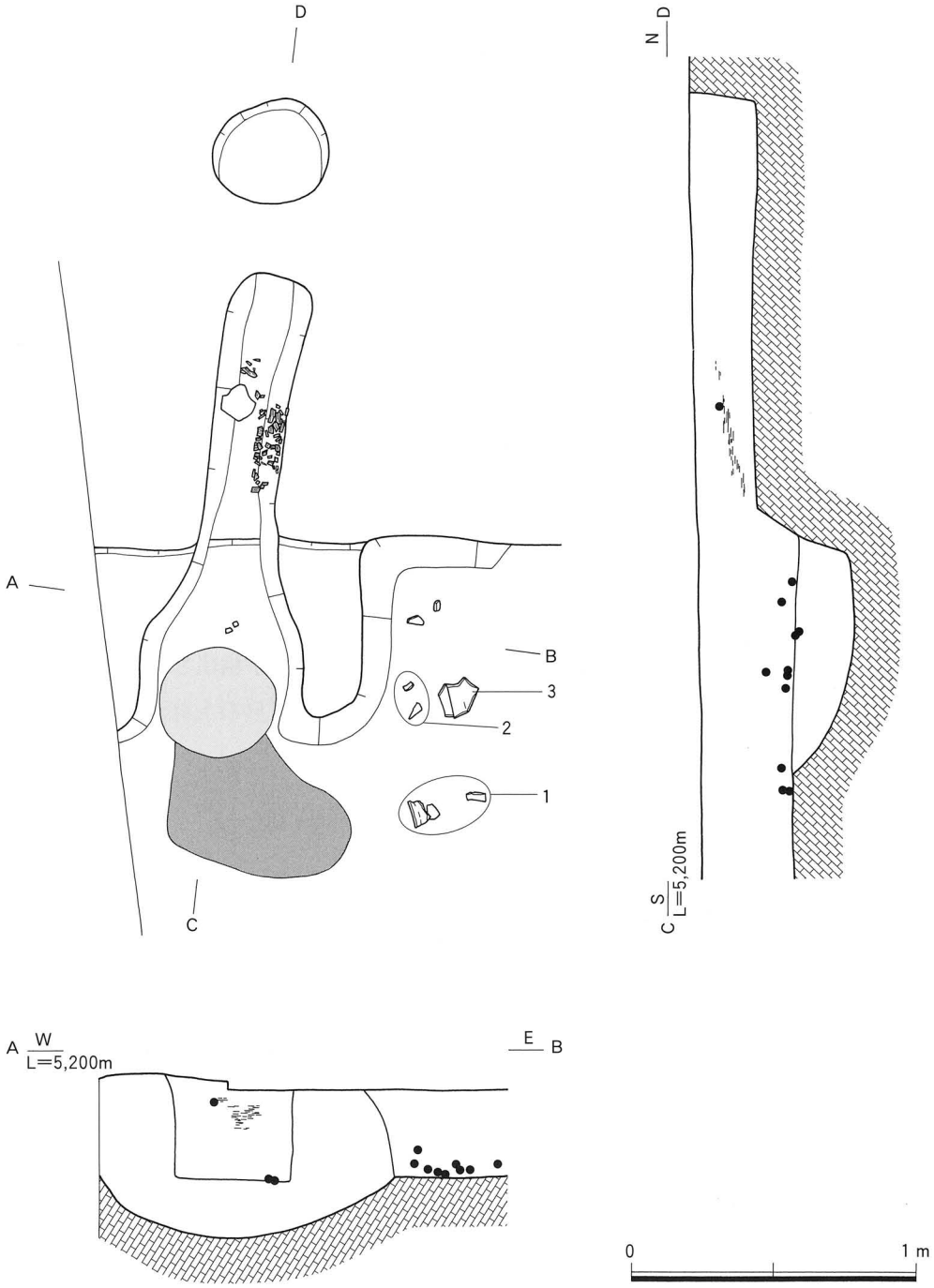
第408図　SB3023・EH1 平断面図



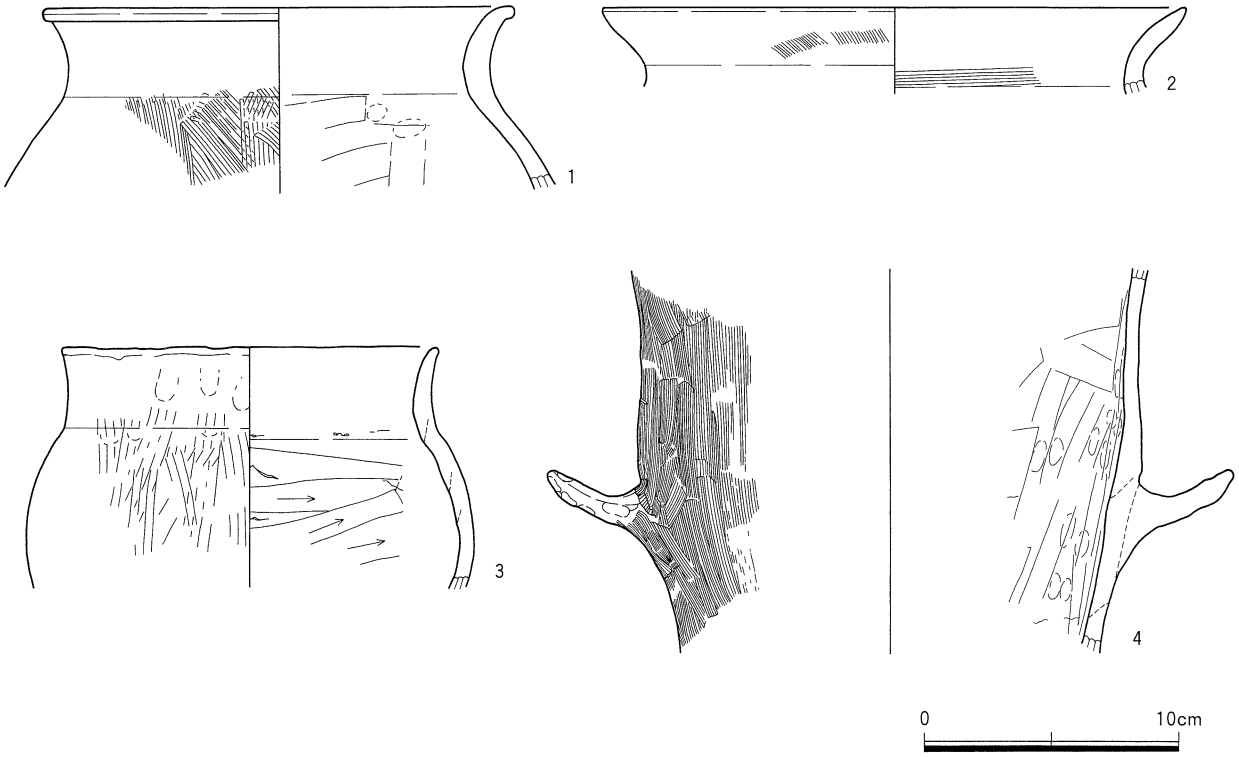
第409図　SB3023・EH1 下部構造図



第410図　SB3023 遺物出土状況図



第411図　SB3023・EH1 遺物出土状況図



第412図　SB3023 出土遺物

柱穴　柱数は４本柱と考えられるが、東側の２基が検出された。

竈　北壁のほぼ中央部に１基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、焚き口部から燃焼部にかけて焼土や炭化物の拡がりが確認された。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.05m、短軸0.85m、深度0.22mを測る。

遺物出土状況　竈周辺部を中心に検出されている。

出土遺物　１～３は土師器の甕である。４は土師器の甑である。

時期　出土した遺物や竈の形態などからから古墳時代後期と考えられる。

24号竪穴住居跡（SB3024）（第413～421図）

検出場所　2003年度調査２－２区　Loc.G１・βⅢ・L４・５・M４・５グリッド

形態・規模　平面形態は長方形を呈し、長軸5.25m、短軸4.20m、表面積は約22.1m²を測る。残存する深度は0.35mである。

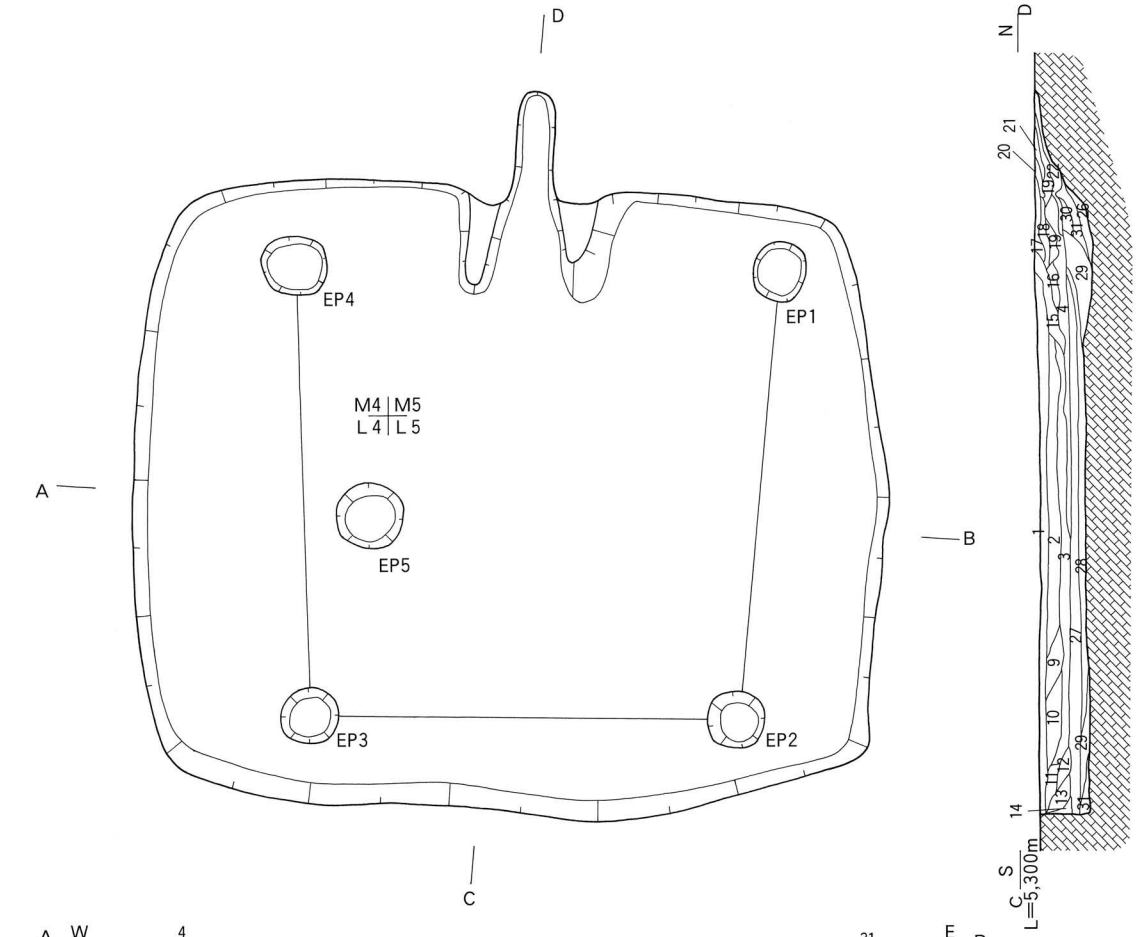
土層　32層に分層される。

柱穴　主柱穴は４本で、５基の柱穴が検出されている。

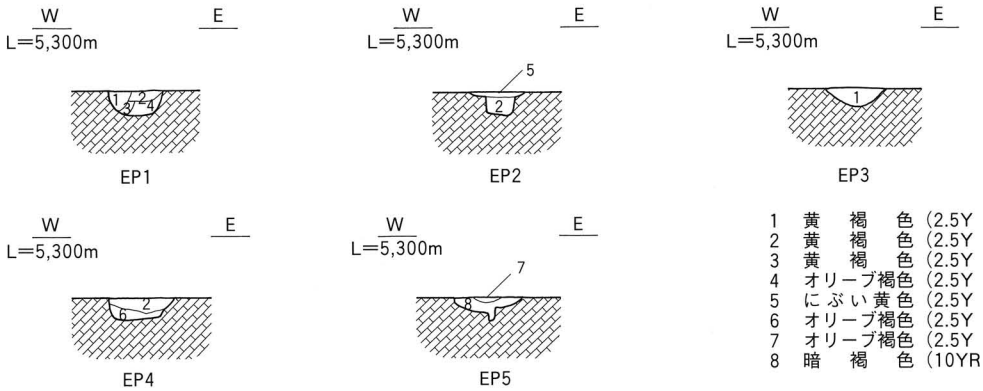
竈　北壁のほぼ中央部に１基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.04m、短軸0.61m、深度0.18mを測る。

遺物出土状況　竈内および周辺部と南壁際を中心に遺物が検出された。

出土遺物　１は須恵器の杯身である。２～17は土師器の甕である。18は土師器の甑である。19は土師器の鉢である。20は製塩土器である。21は土錘である。22・23はミニチュア土器である。24・25は砂質片



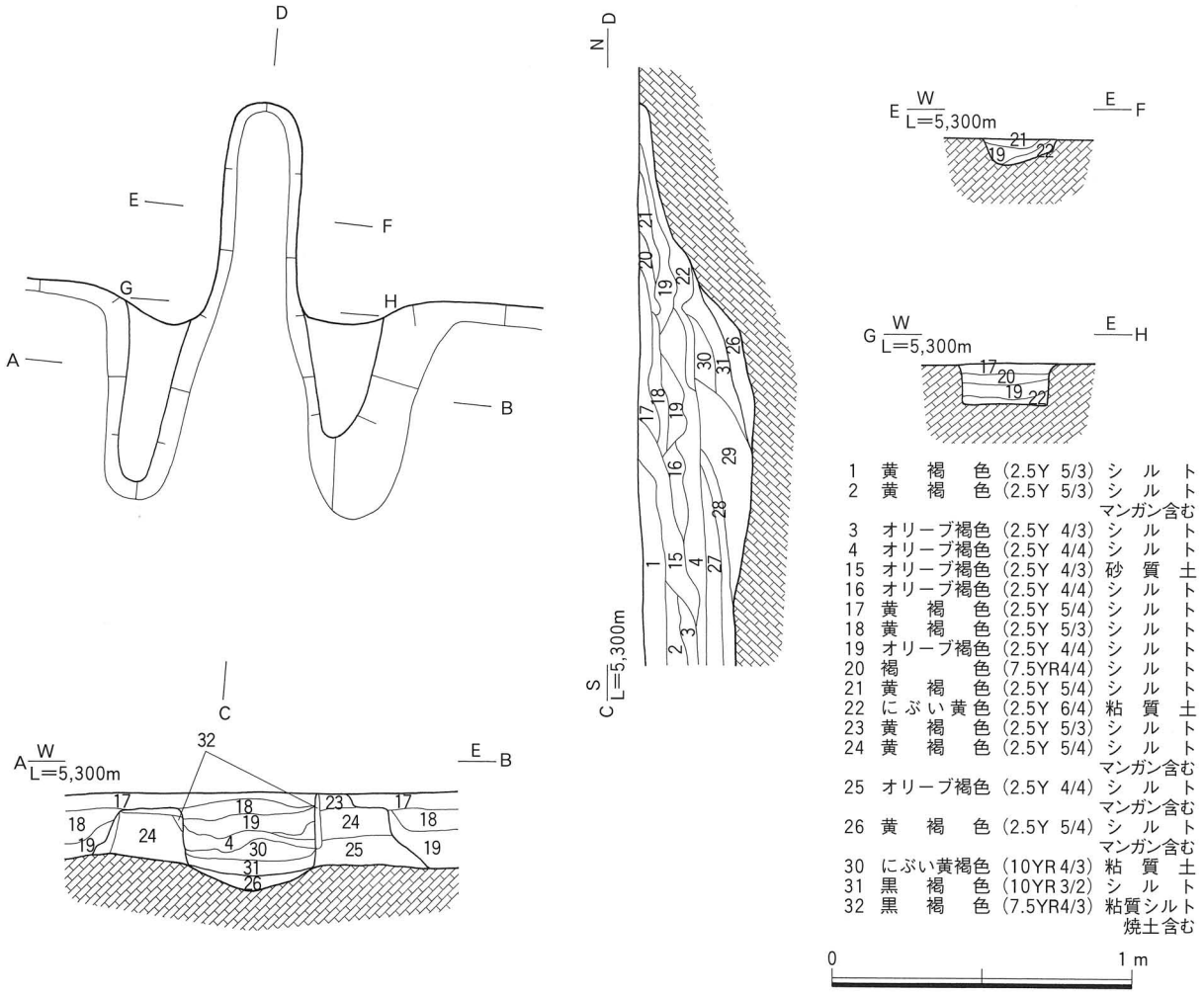
1 黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
2 黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト マンガン含む
3 オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
4 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
5 にぶい黄色（2.5Y 6/4）シルト
6 黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
7 黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
8 黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト マンガン含む
9 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土 マンガン含む
10 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
11 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト マンガン含む
12 オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
13 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
14 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
27 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト マンガン含む
28 褐　色（7.5YR4/6）粘質土 焼土含む
29 にぶい黄褐色（10YR 4/3）粘質土
31 黒　褐　色（10YR 3/2）シルト



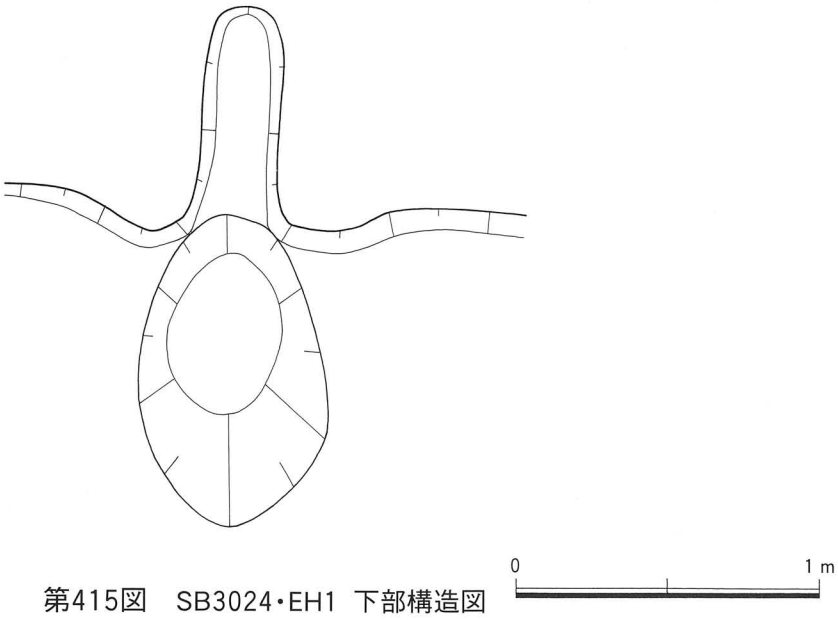
1 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
2 黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
3 黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
4 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト
5 にぶい黄色（2.5Y 6/4）シルト
6 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
7 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
8 暗　褐　色（10YR 3/3）粘質土 炭化物含む

0　2 m

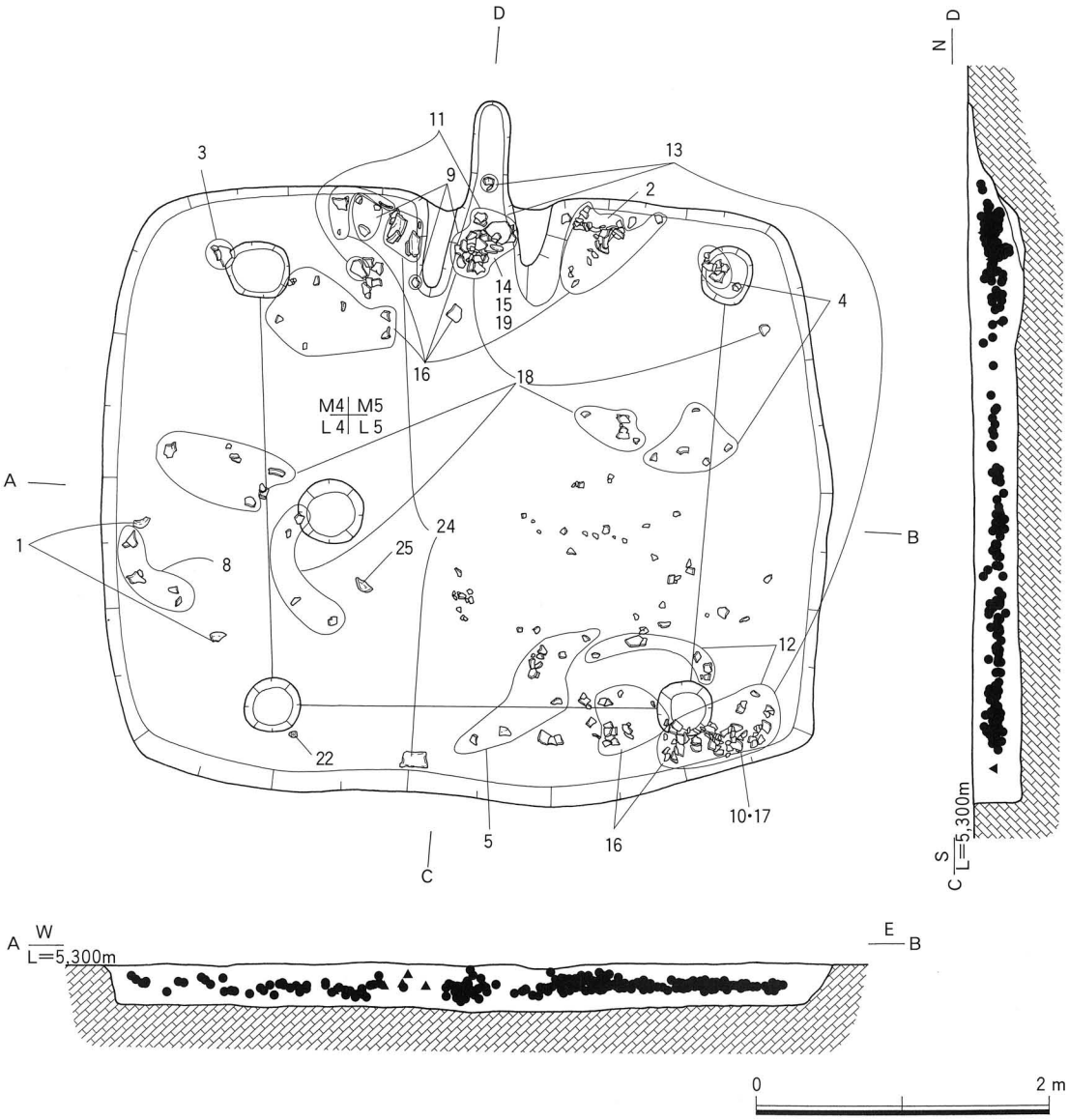
第413図　SB3024 平断面図



第414図　SB3024・EH1 平断面図



第415図　SB3024・EH1 下部構造図



第416図　SB3024 遺物出土状況図

岩の剥片で、ともに受熱しており竈の部材と考えられる。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。

25号竪穴住居跡（SB3025）（第422・423図）

検出場所　2003年度調査２－２区　Loc.G１・βⅢ・L４・５・M４・５グリッド

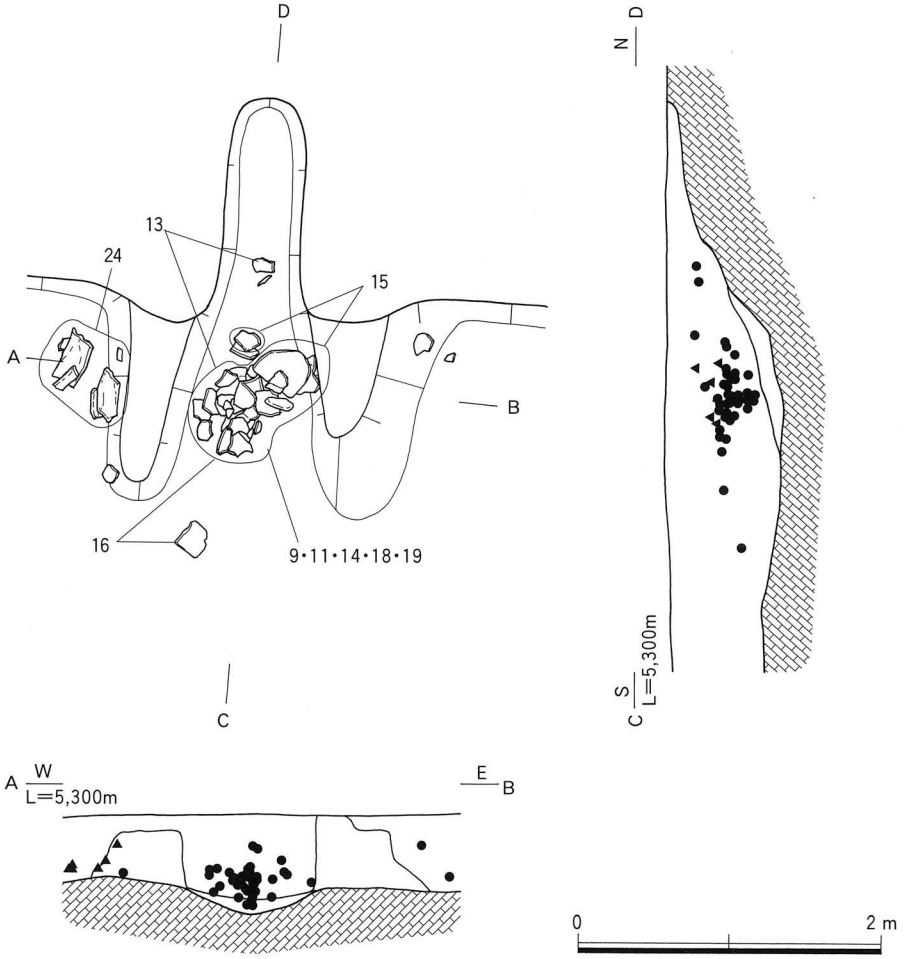
形態・規模　西側および南側を後世の遺構に切られているため、平面形態は不明である。長軸5.35m（残存値）、短軸2.40m（残存値）、深度は0.20mを測る。

土層　２層に分層される。

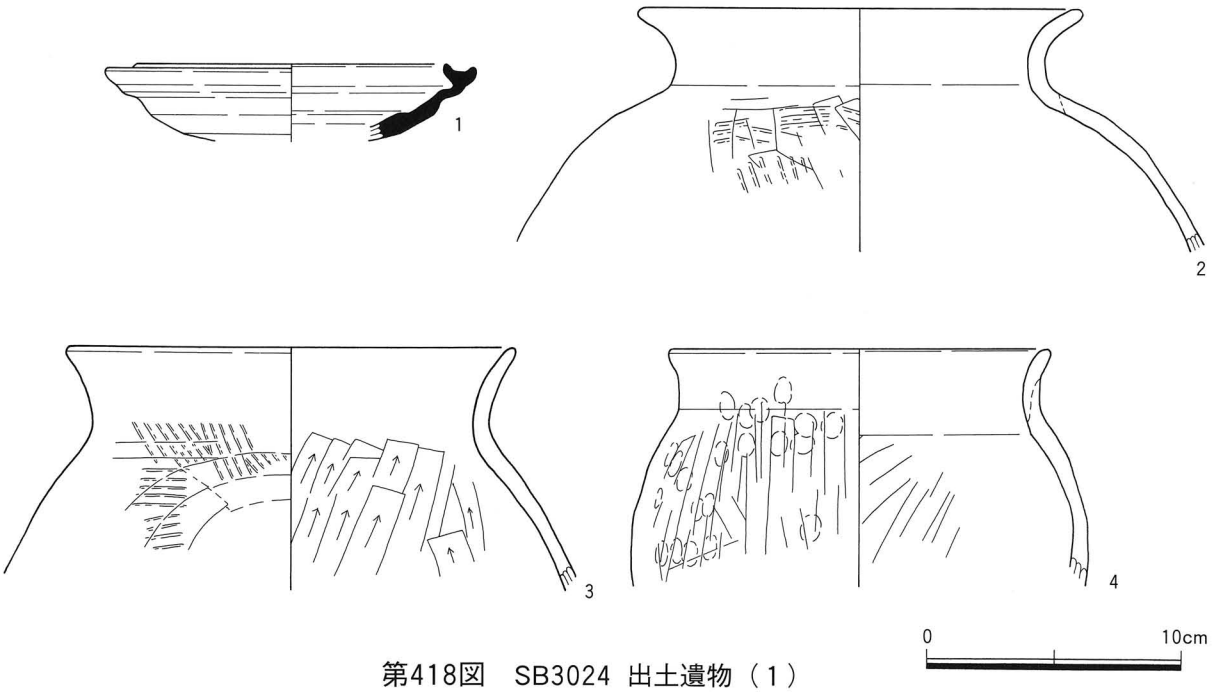
柱穴　検出されていない。

竈　検出されていない。

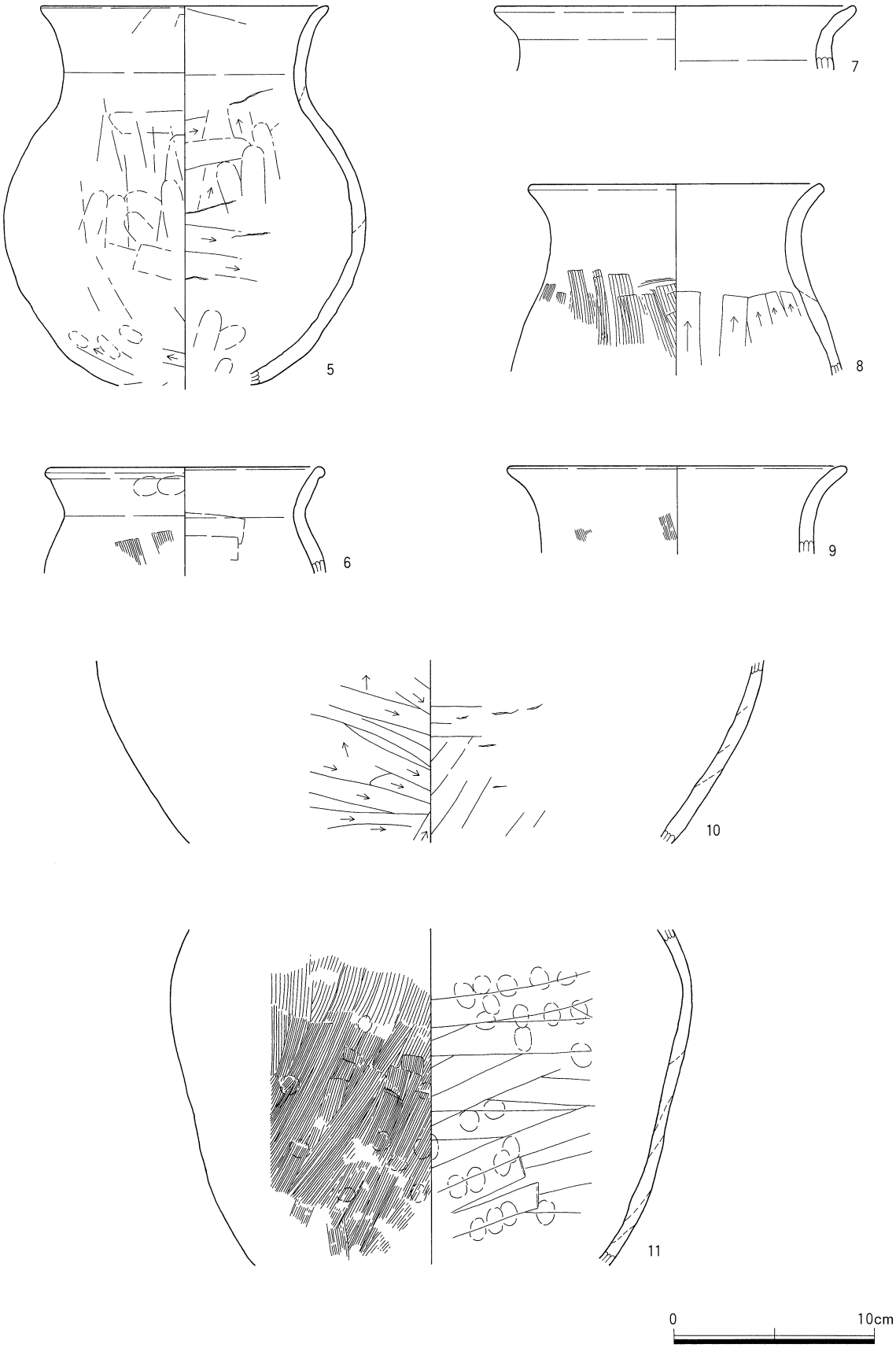
遺物出土状況　北壁際より検出されている。



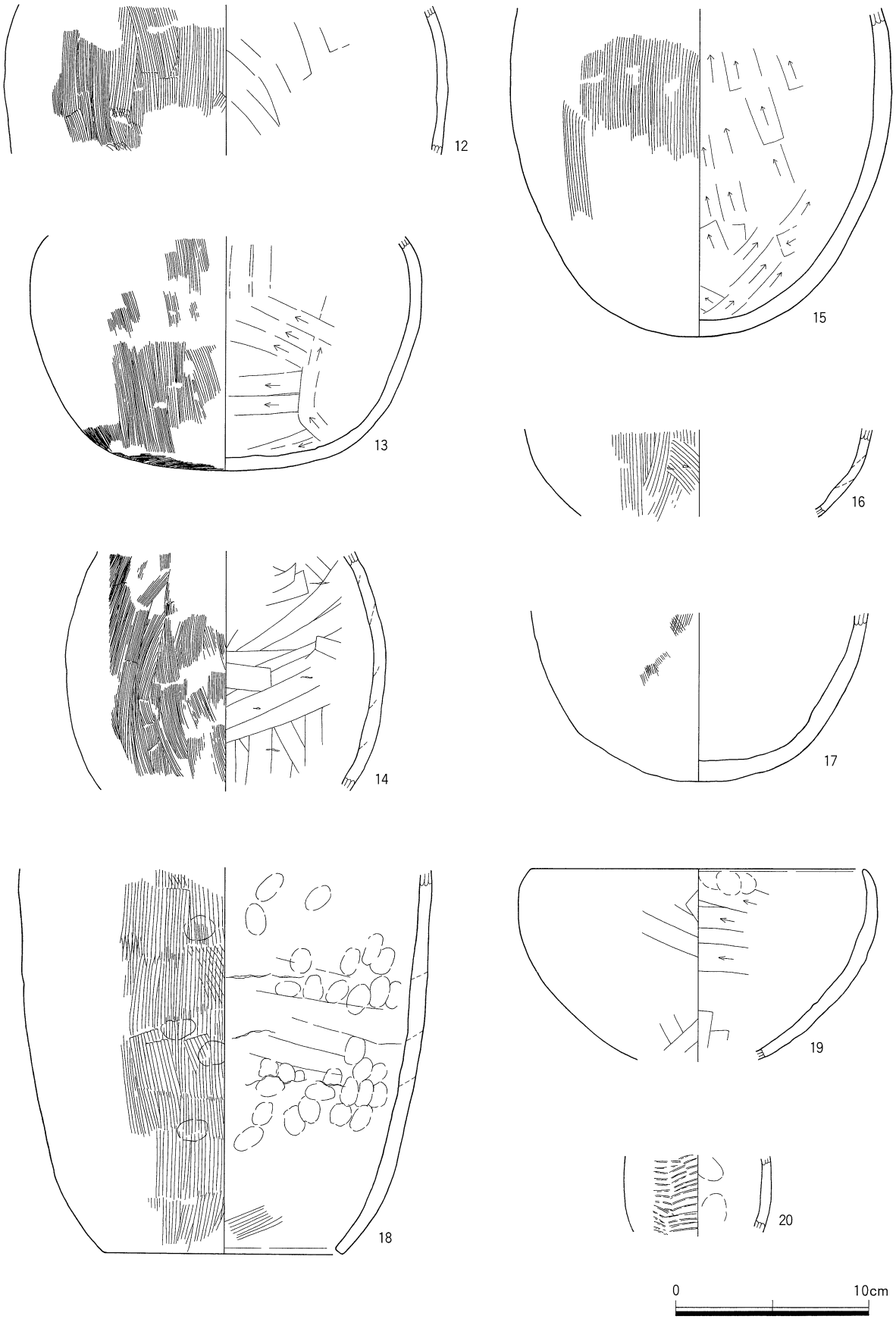
第417図　SB3024・EH1 遺物出土状況図



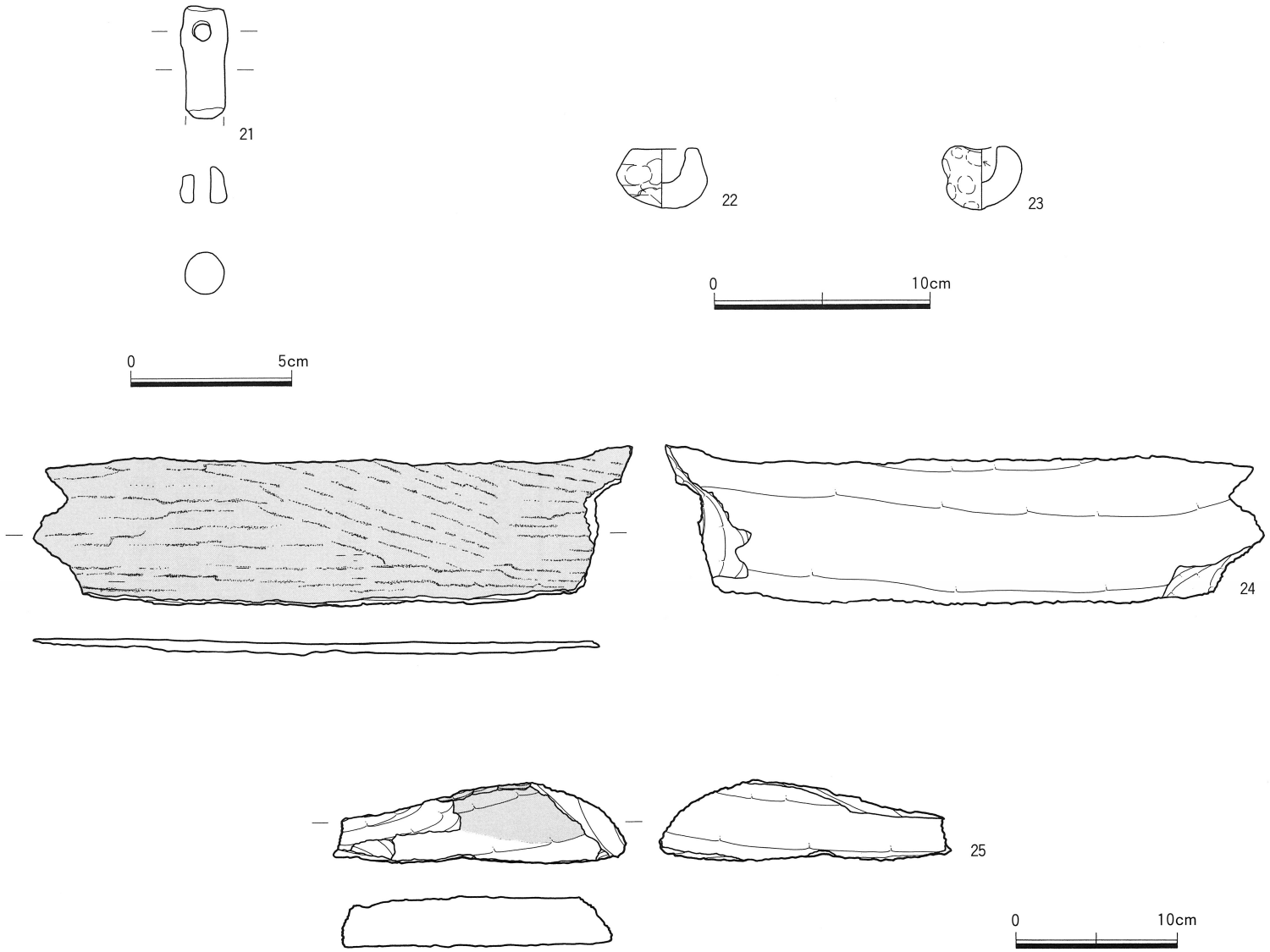
第418図　SB3024 出土遺物（1）



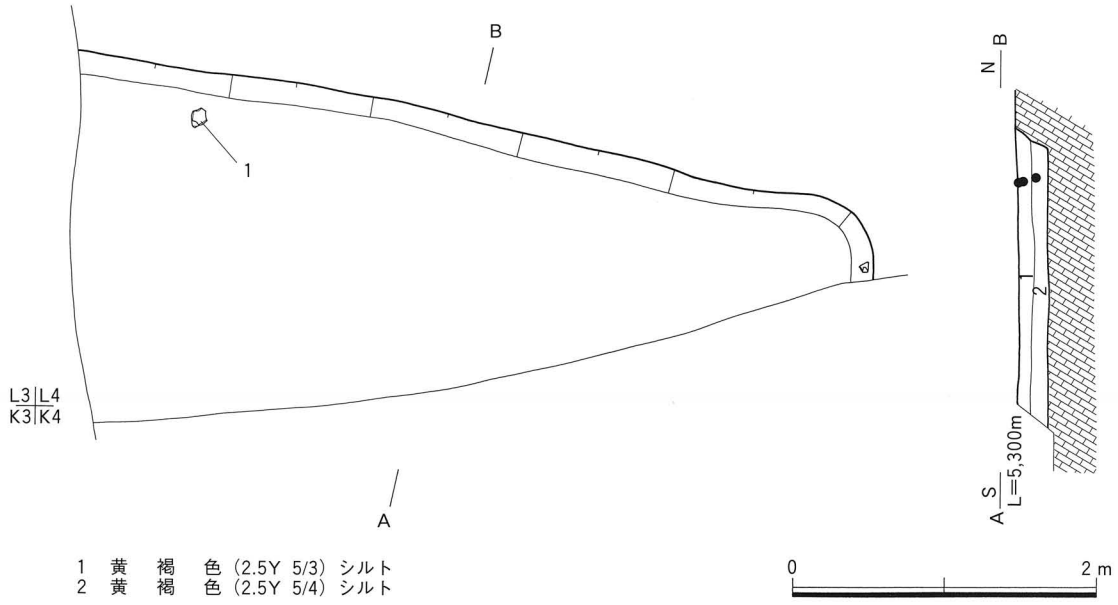
第419図　SB3024 出土遺物（2）



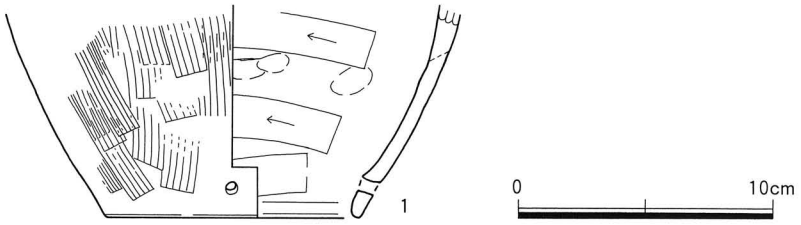
第420図　SB3024 出土遺物（3）



第421図　SB3024 出土遺物（4）



第422図　SB3025 平断面図



第423図　SB3025 出土遺物

出土遺物　1は土師器の甑である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期以後と考えられる。

26号竪穴住居跡（SB3026）（第424・425図）

検出場所　2003年度調査２－２区　Loc.G１・βⅢ・I２・３グリッド

形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。長軸4.33m、短軸2.95m（残存値）、表面積は約12.8㎡（残存値）を測る。残存する深度は0.15mである。

土層　２層に分層される。

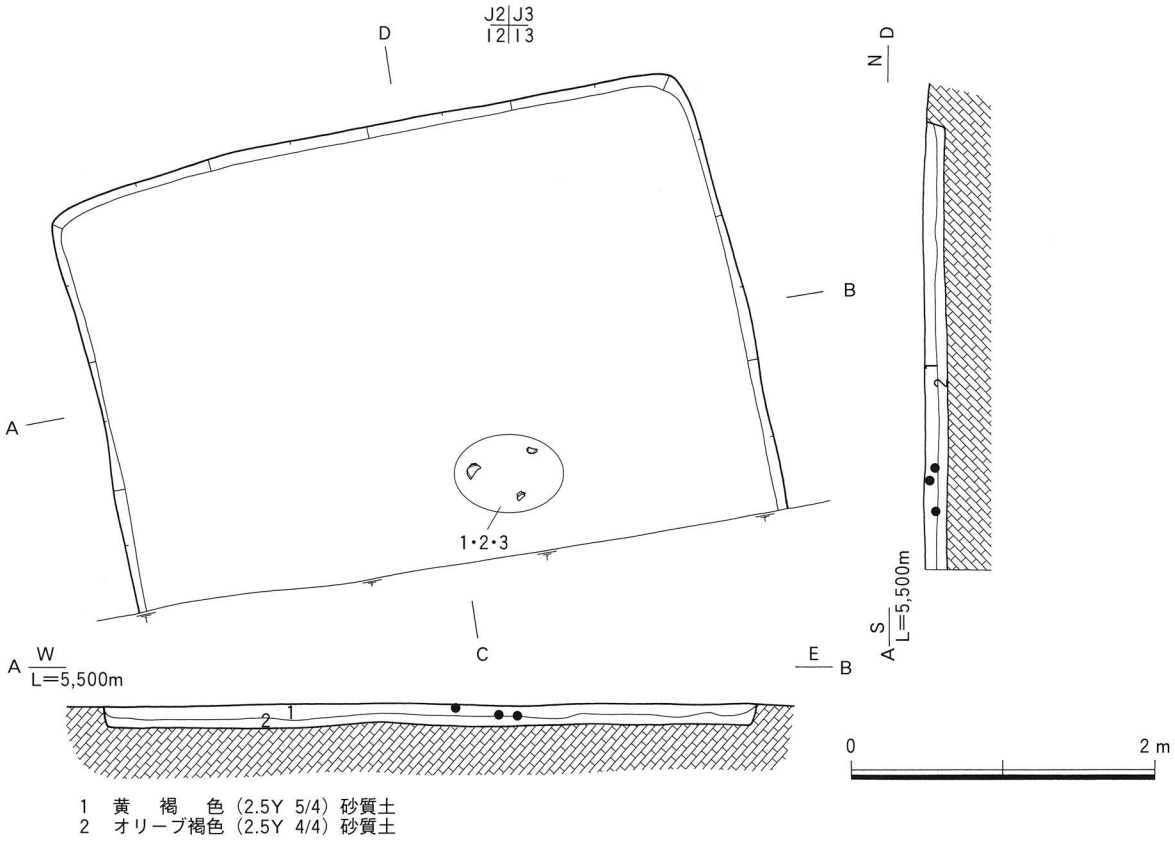
柱穴　検出されていない。

竈　検出されていない。

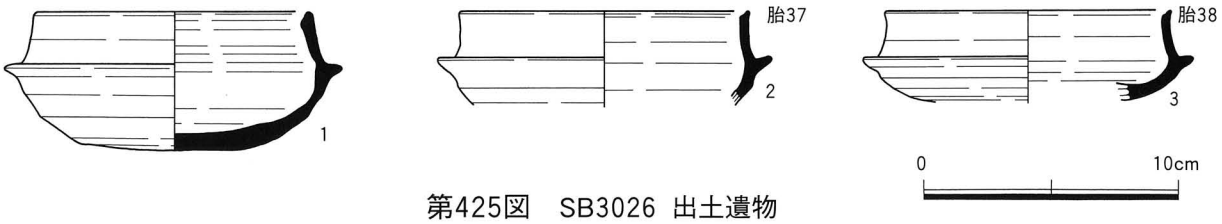
遺物出土状況　床面中央部の南寄りから遺物か検出された。

出土遺物　１～３は須恵器の杯身である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期初頭（６世紀第１四半期・TK47並行期）以降と考えられる。



第424図 SB3026 平断面図



第425図 SB3026 出土遺物

27号竪穴住居跡（SB3027）（第426～431図）

検出場所 2003年度調査２－２区 Loc.G１・βⅢ・J２・３グリッド

形態・規模 平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、南側は後世の遺構に切られている。長軸4.43m、短軸3.78m（残存値）、表面積は約16.7m²（残存値）を測る。残存する深度は0.19mである。

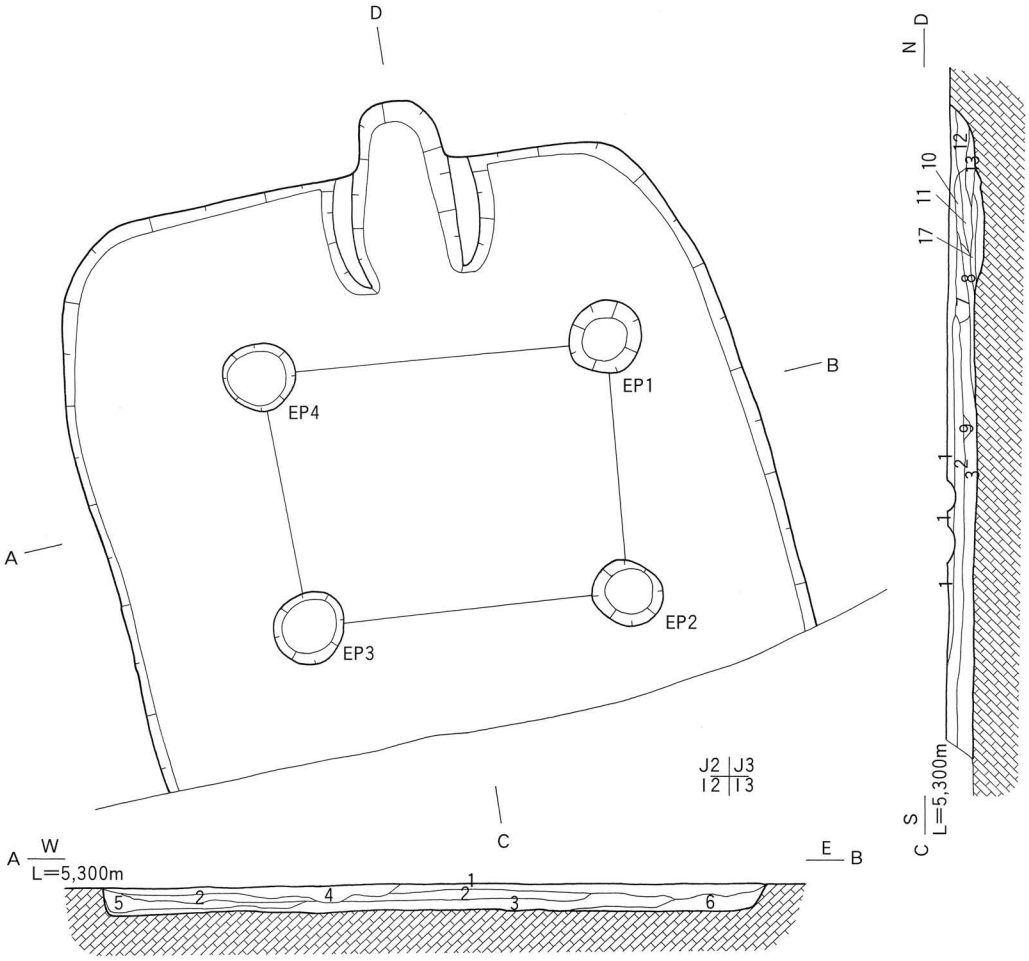
土層 24層に分層される。

柱穴 柱穴は４基検出されている。

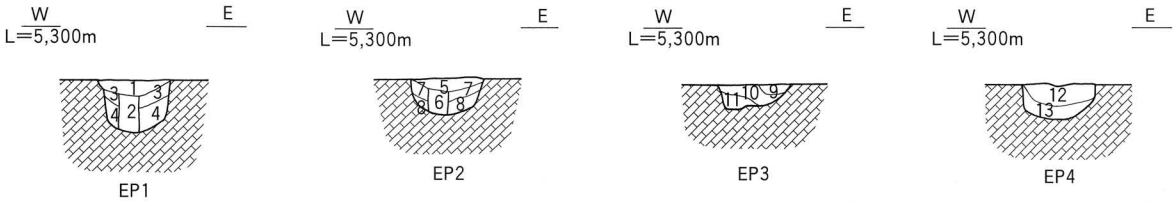
竈 北壁のやや東寄りに１基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。

遺物出土状況 竈内と右袖部の東側、床面中央部とEP４上面よりそれぞれ遺物が集中して検出された。

出土遺物 １は須恵器の杯身である。２～８は土師器の甕である。９・10は土師器の高杯である。11は土製の紡錘車である。12は砂岩製の敲石である。13は砂質片岩の剥片である。

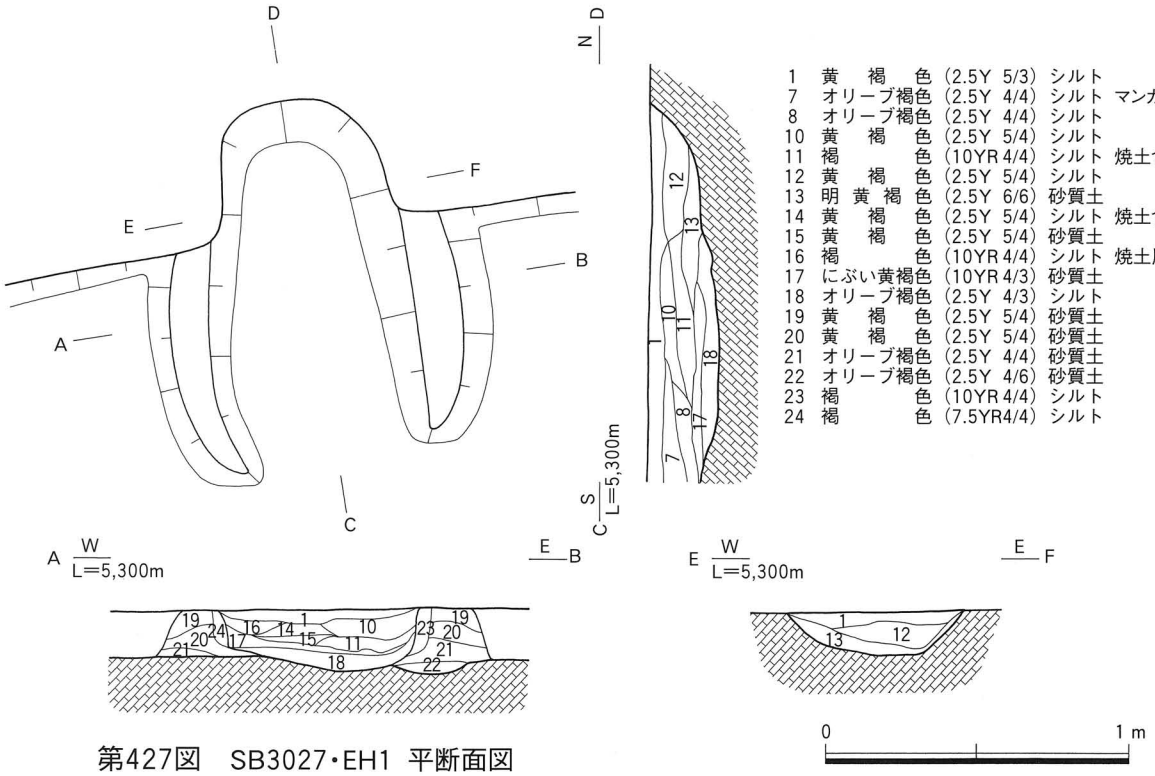


1 黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
2 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
3 オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト マンガン含む
4 オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
5 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
6 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
7 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト マンガン含む
8 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
9 暗 灰 黄 色（2.5Y 5/2）砂質土



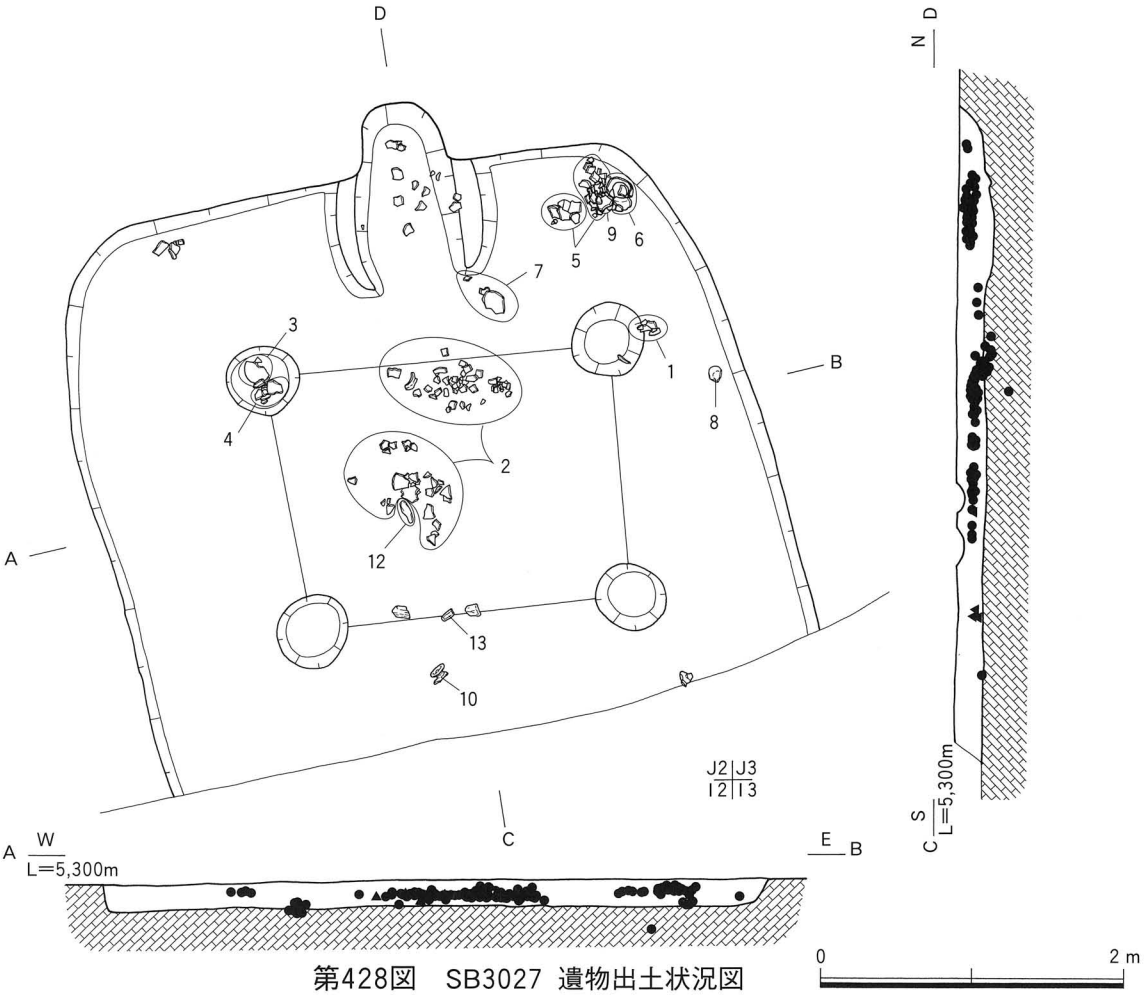
1 黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト マンガン含む
2 黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
3 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
4 黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
5 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
6 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
7 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
8 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
9 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂
10 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土 マンガン含む
11 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
12 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
13 オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土

第426図　SB3027 平断面図

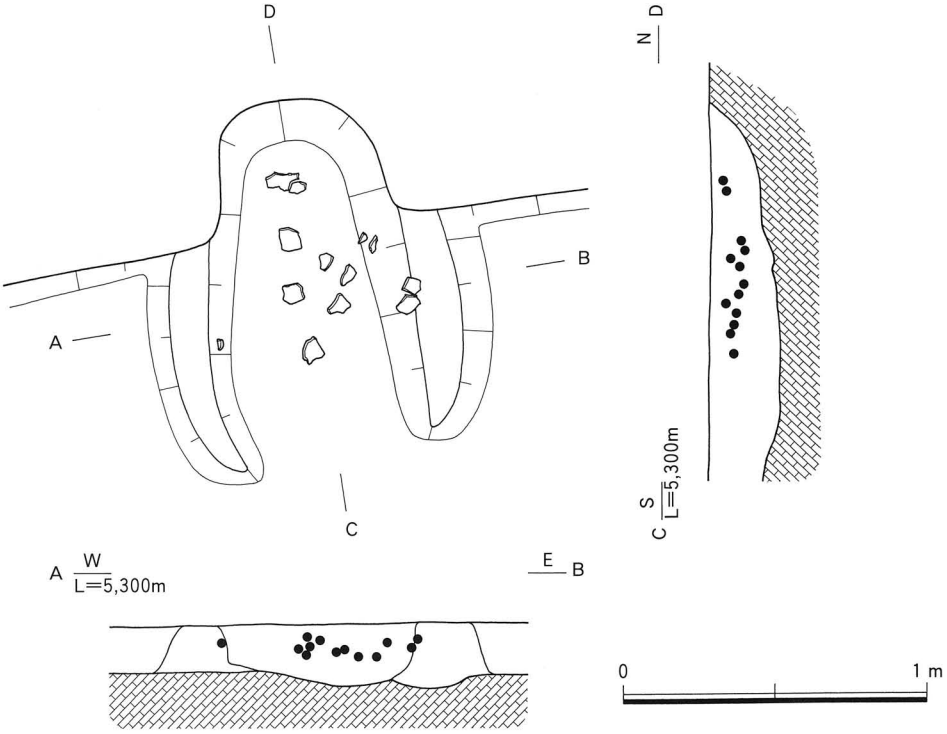


1 黄　褐　色 (2.5Y 5/3) シルト
7 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) シルト マンガン含む
8 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) シルト
10 黄　褐　色 (2.5Y 5/4) シルト
11 褐　　色 (10YR 4/4) シルト 焼土含む
12 黄　褐　色 (2.5Y 5/4) シルト
13 明 黄 褐 色 (2.5Y 6/6) 砂質土
14 黄　褐　色 (2.5Y 5/4) シルト 焼土含む
15 黄　褐　色 (2.5Y 5/4) 砂質土
16 褐　　色 (10YR 4/4) シルト 焼土層
17 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 砂質土
18 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) シルト
19 黄　褐　色 (2.5Y 5/4) 砂質土
20 黄　褐　色 (2.5Y 5/4) 砂質土
21 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂質土
22 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 砂質土
23 褐　　色 (10YR 4/4) シルト
24 褐　　色 (7.5YR4/4) シルト

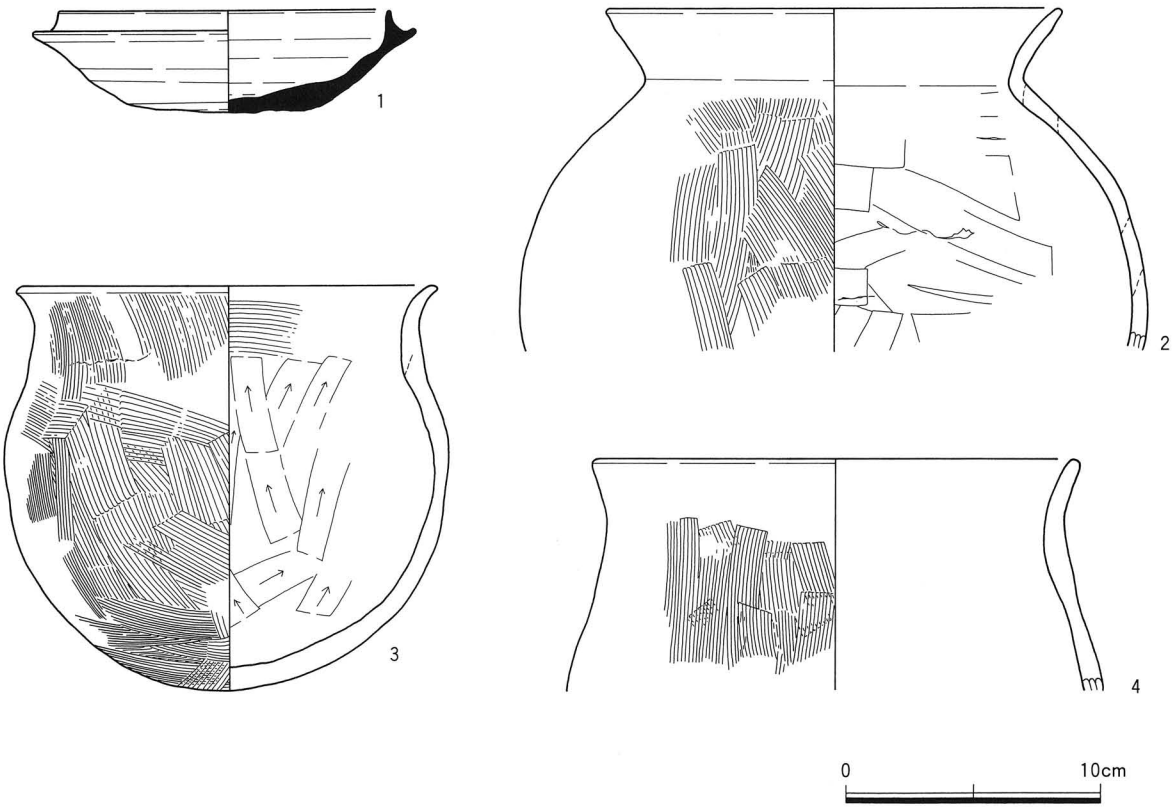
第427図　SB3027・EH1 平断面図



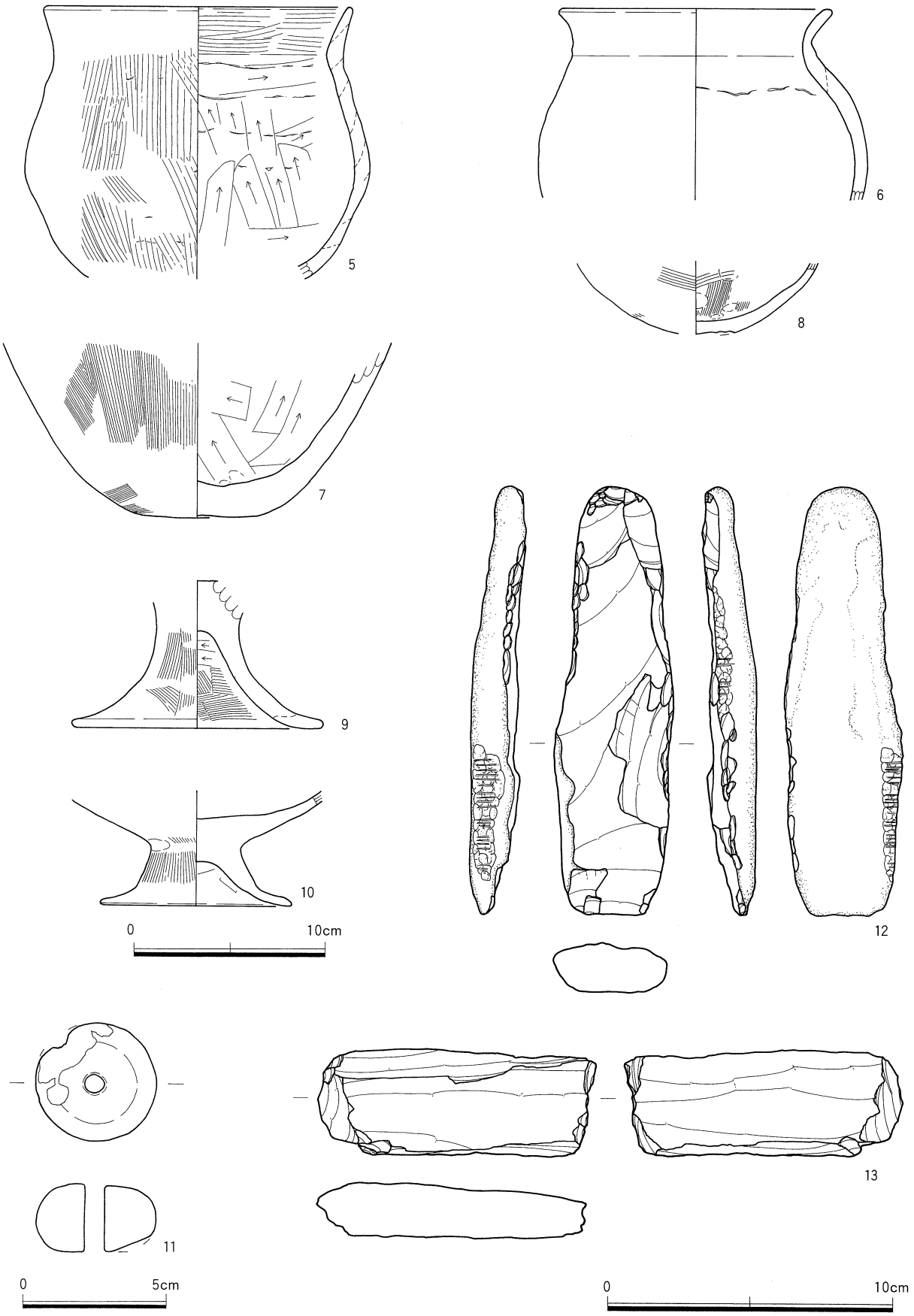
第428図　SB3027 遺物出土状況図



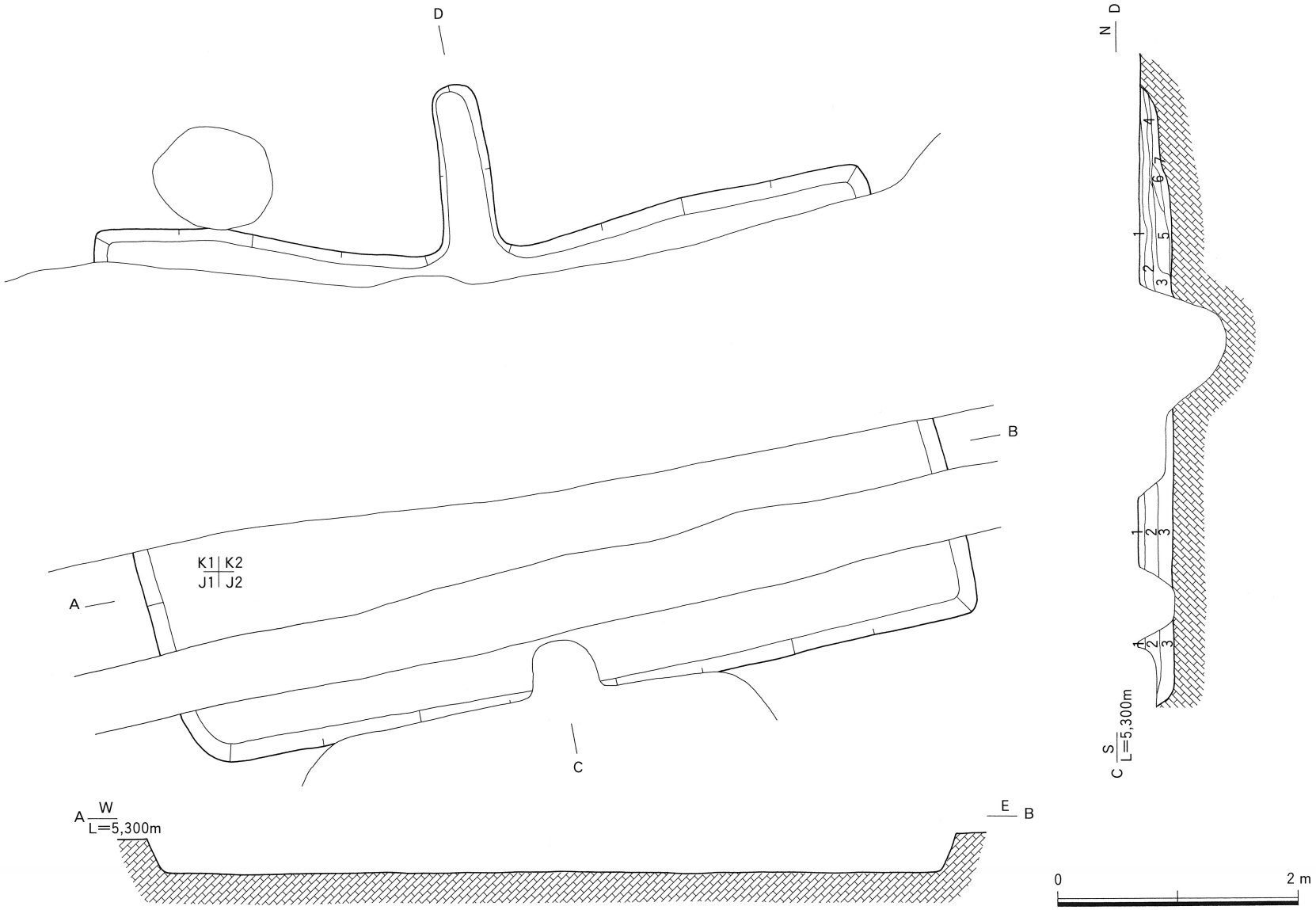
第429図　SB3027・EH1 遺物出土状況図



第430図　SB3027 出土遺物（1）

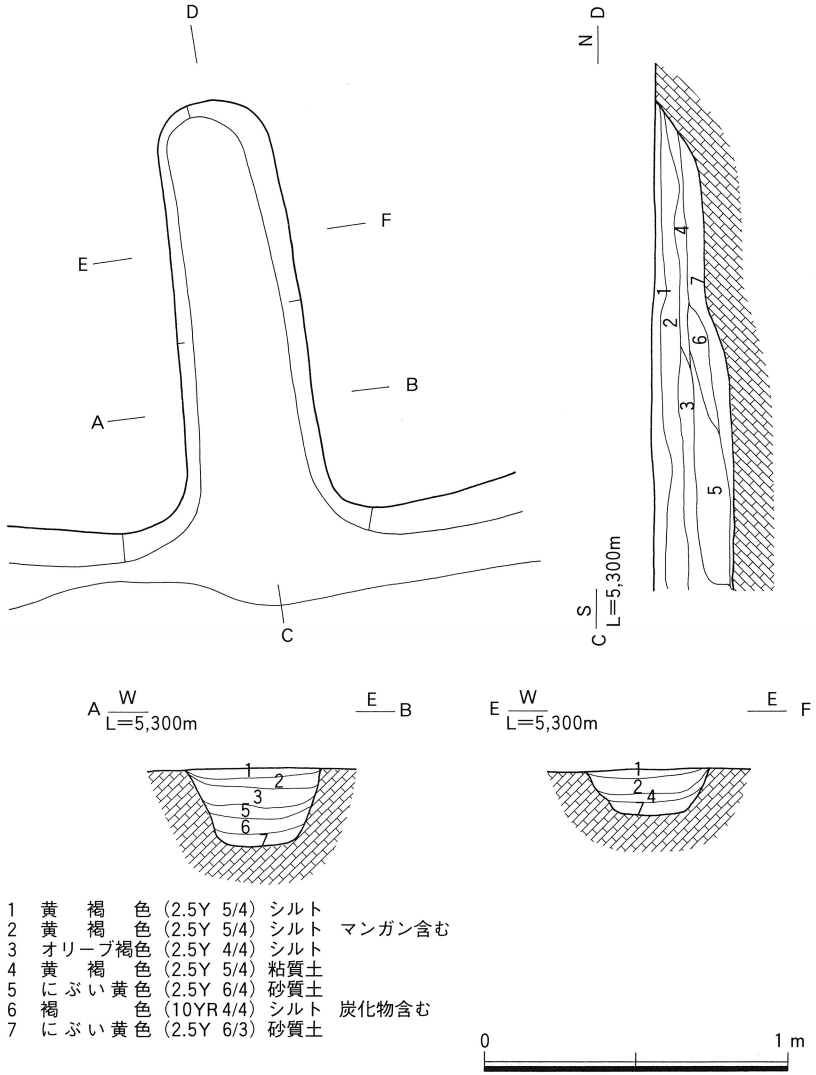


第431図　SB3027 出土遺物（2）

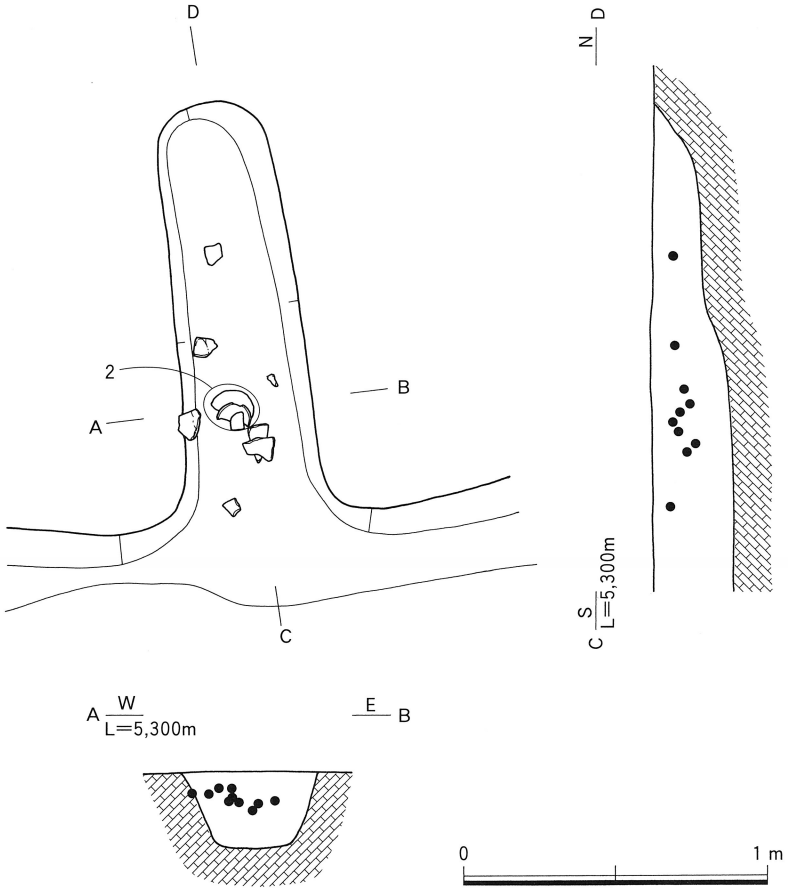


1　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
2　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト　マンガン含む
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト

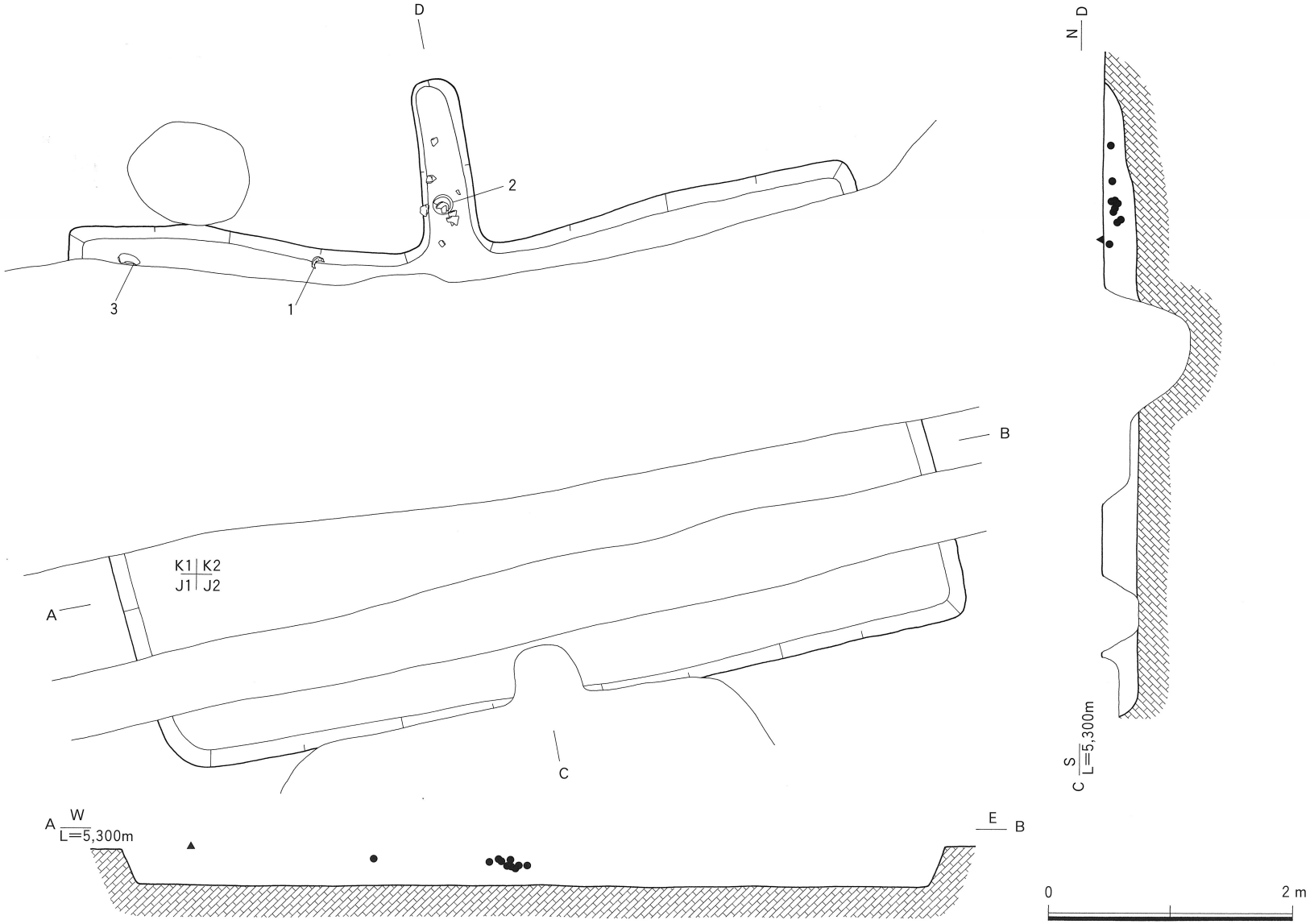
第432図　SB3028 平断面図



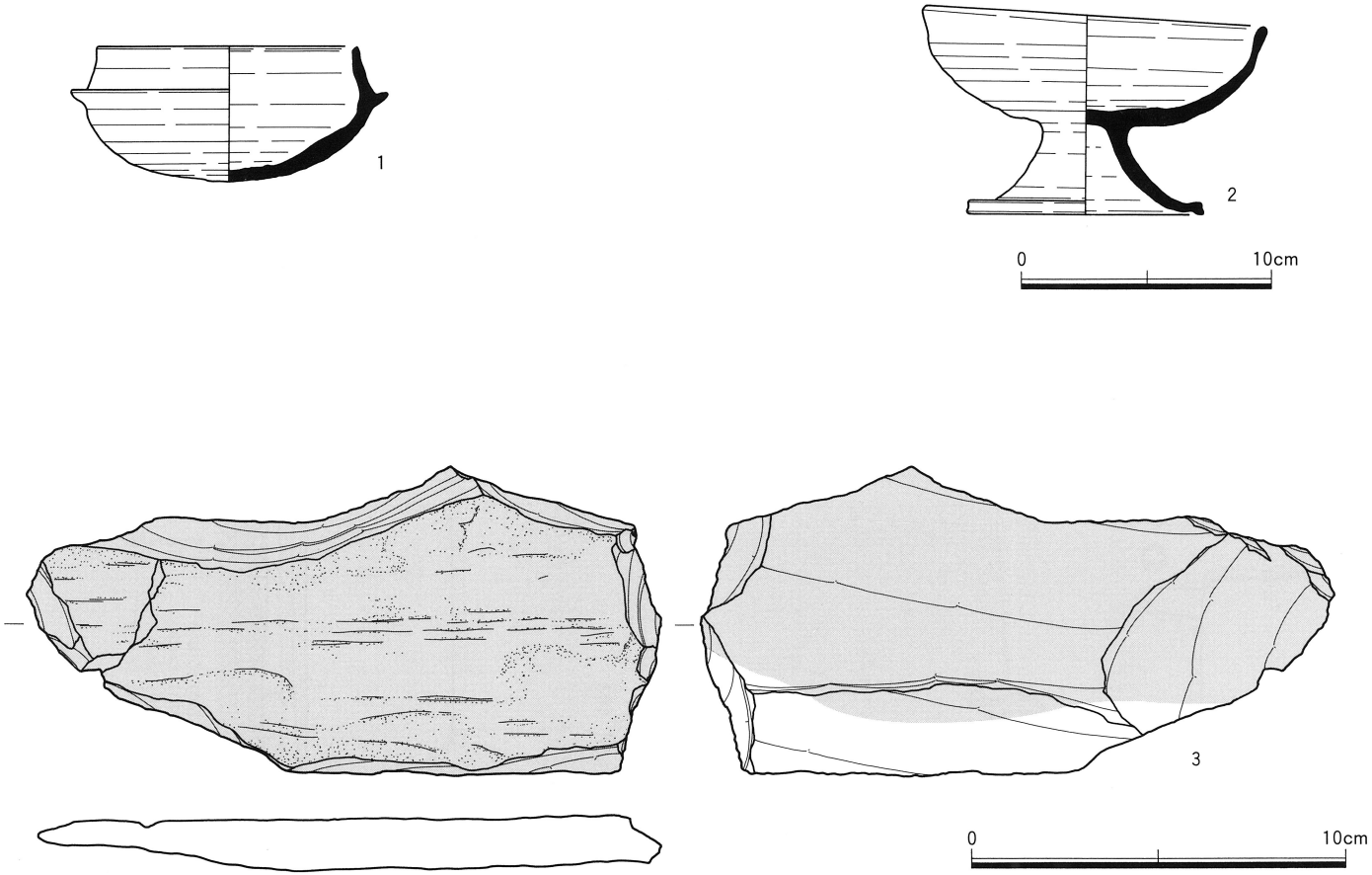
第433図　SB3028・EH1 平断面図



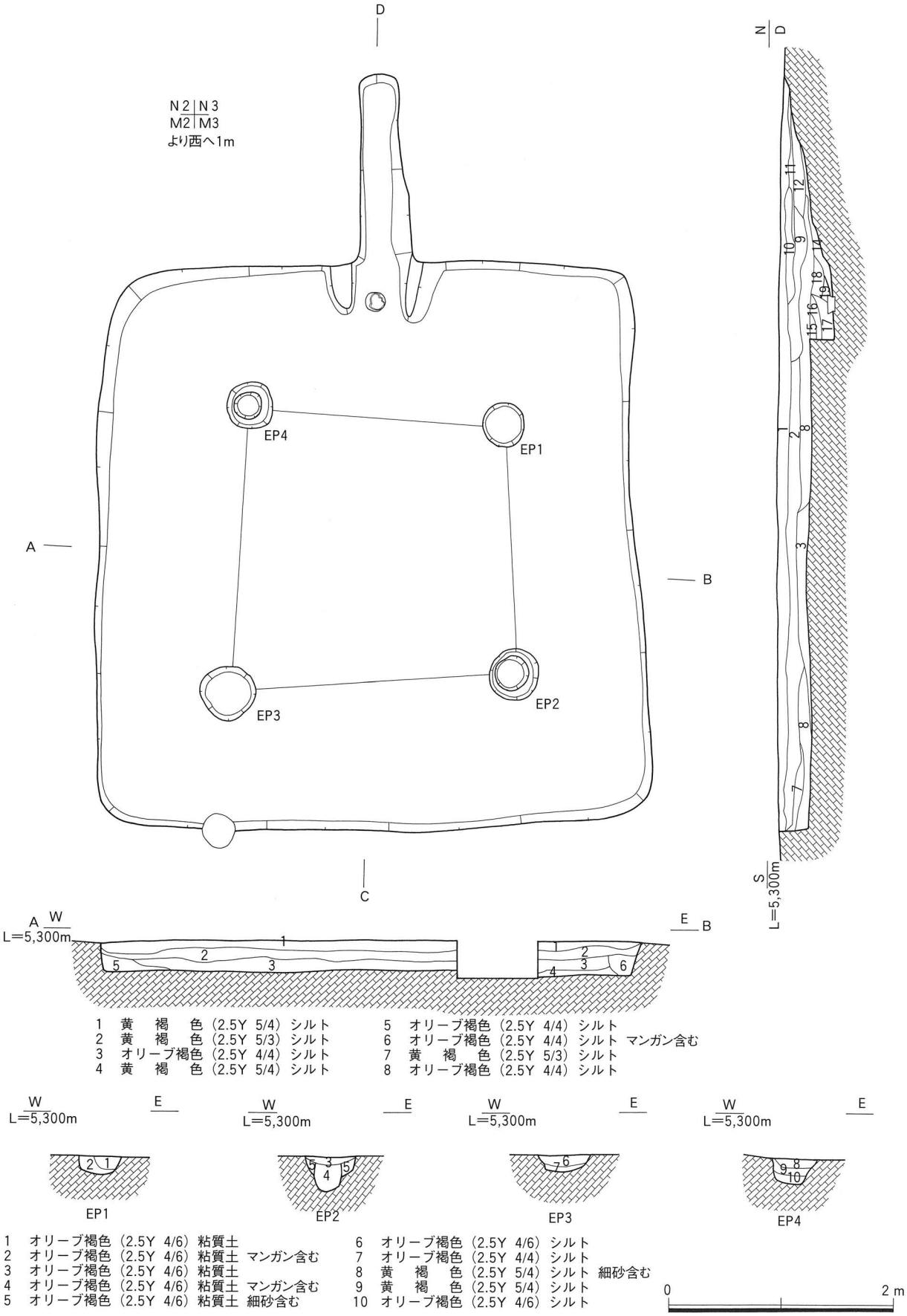
第434図　SB3028・EH1 遺物出土状況図



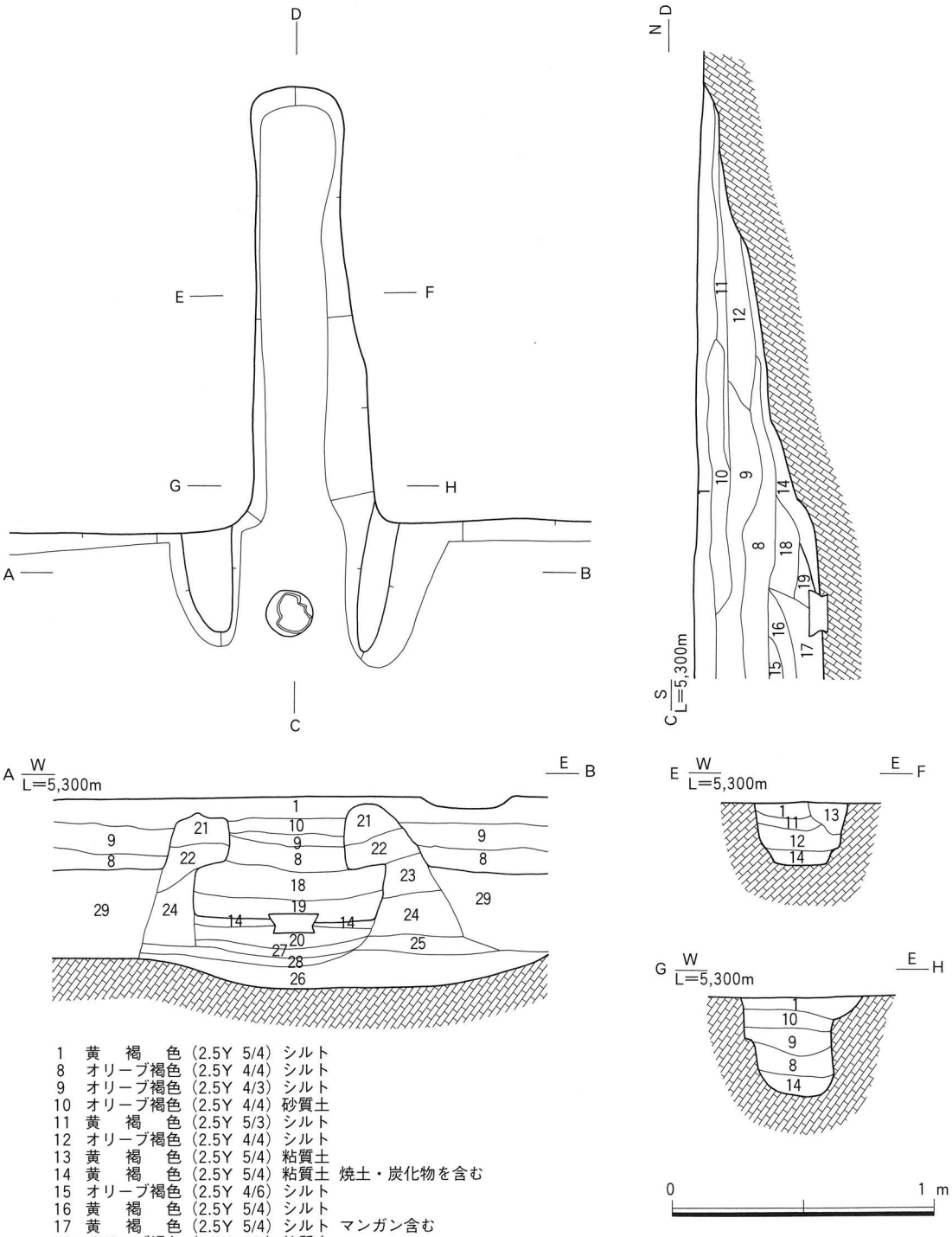
第435図　SB3028 遺物出土状況図



第436図　SB3028 出土遺物

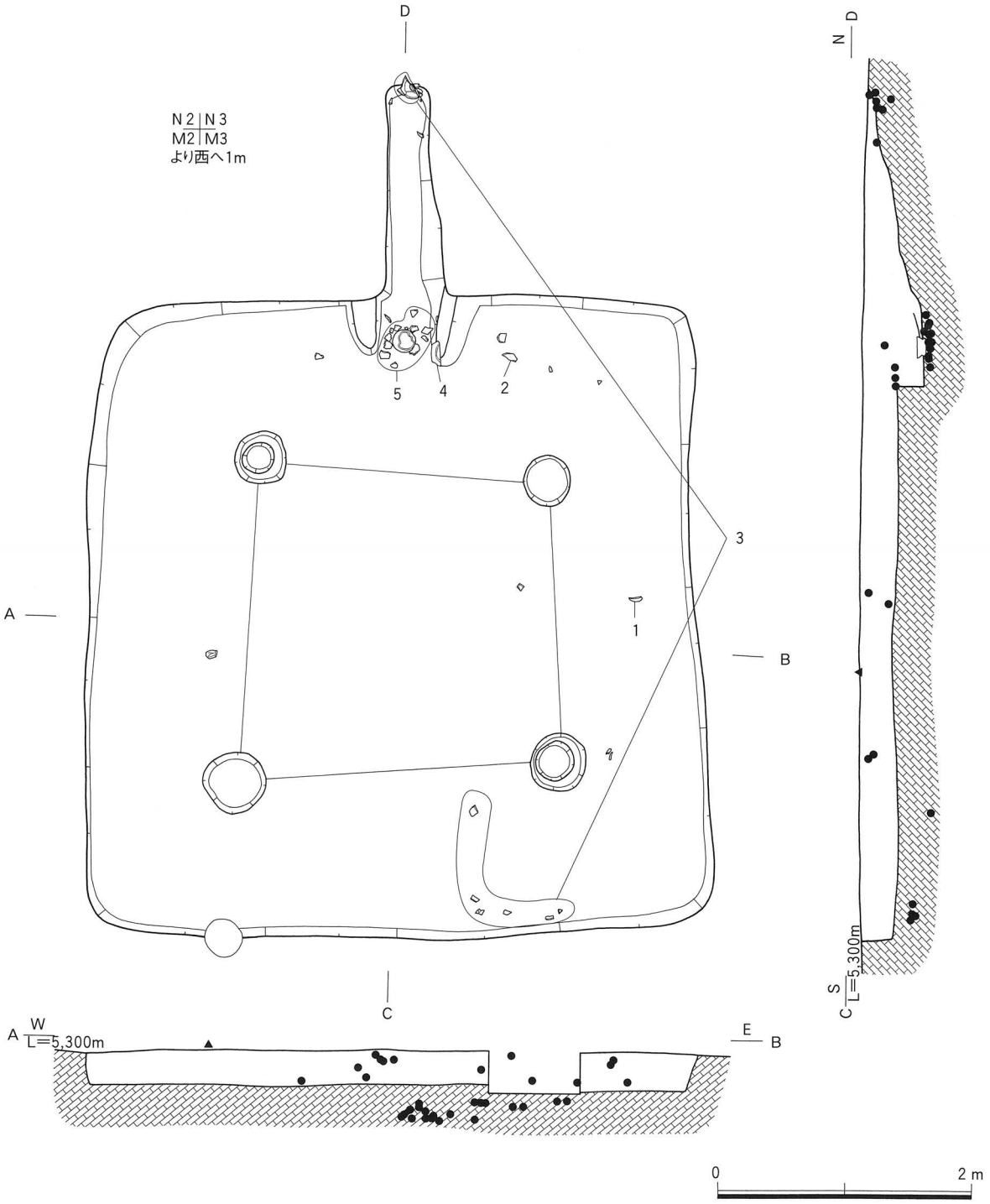


第437図 SB3029 平断面図

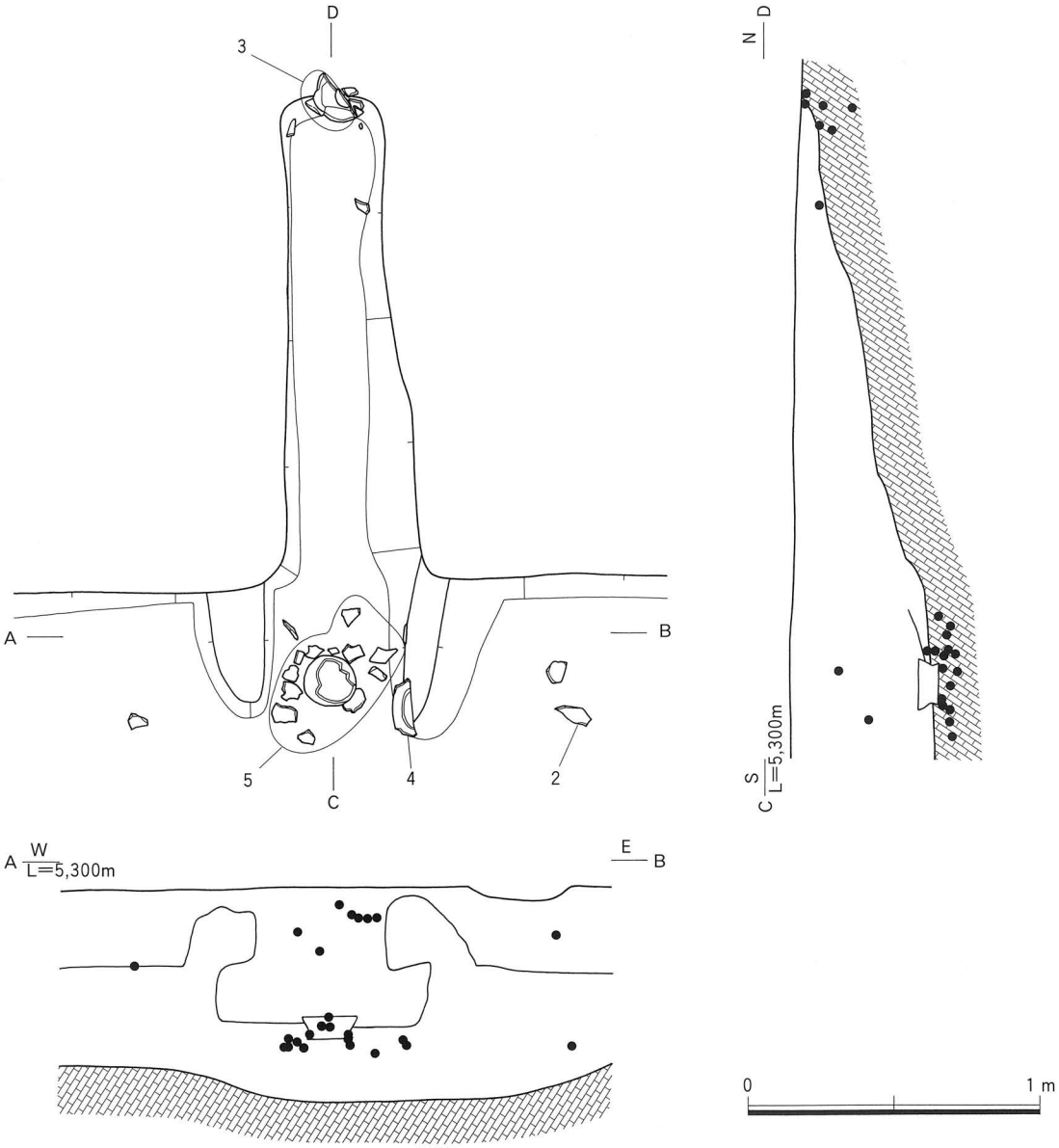


1　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
8　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
10　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
11　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
12　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
13　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土
14　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土　焼土・炭化物を含む
15　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト
16　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
17　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト　マンガン含む
18　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
19　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト
20　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
21　黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
22　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
23　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土　焼土を層状に含む
24　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト　マンガンを含む
25　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト
26　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
27　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト
28　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
29　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト

第438図　SB3029・EH1 平断面図



第439図　SB3029 遺物出土状況図



第440図　SB3029・EH1 遺物出土状況図

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。

28号竪穴住居跡（SB3028）（第432～436図）

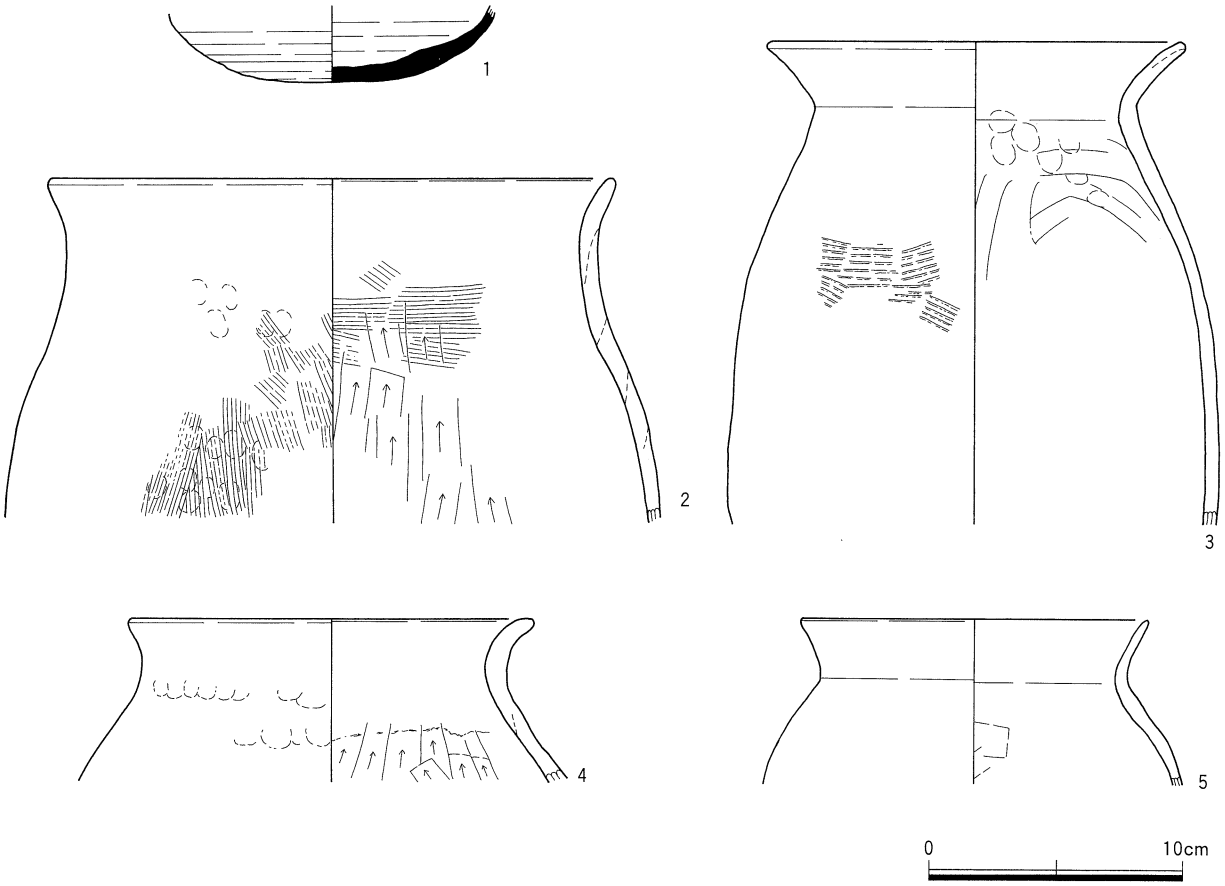
検出場所　2003年度調査２－２区　Loc.G１・βⅢ・J１・２・K１・２グリッド

形態・規模　平面形態は長方形を呈し、長軸6.78m、短軸4.58m、表面積は約31.1㎡を測る。残存する深度は0.34mである。

土層　７層に分層される。

柱穴　検出されていない。

竈　北壁のほぼ中央部に１基検出されており、煙道部のみが検出された。



第441図　SB3029 出土遺物

遺物出土状況　煙道部内より遺物が検出されている。

出土遺物　1は須恵器の杯身である。2は須恵器の高杯である。3は砂質片岩の剥片で、受熱しており竈の部材と考えられる。

時期　出土した高杯の年代から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。

29号竪穴住居跡（SB3029）（第437～441図）

検出場所　2003年度調査2－2区　Loc.G1・βⅢ・L2・3・M2・3・N3グリッド

形態・規模　平面形態はほぼ方形を呈し、長軸5.02m、短軸4.92m、表面積は約24.7㎡を測る。残存する深度は0.28mである。

土層　29層に分層される。

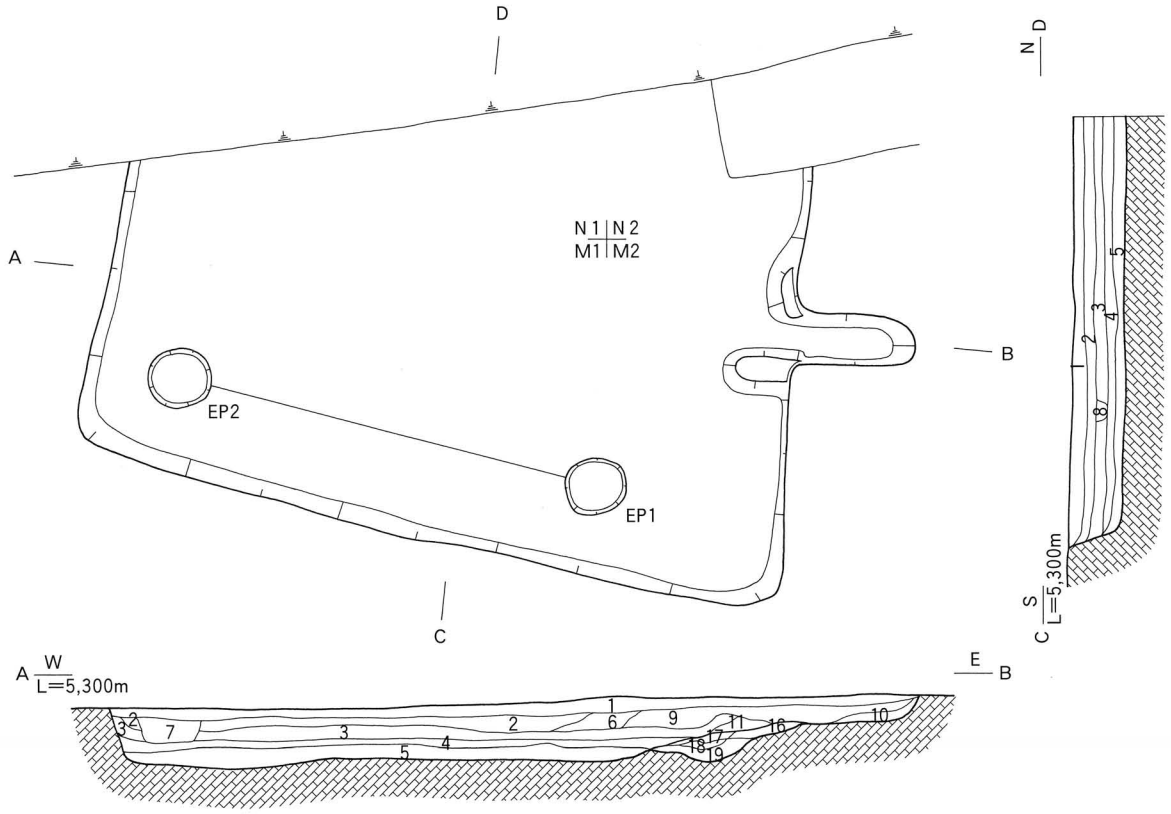
柱穴　柱穴は4基検出されている。

竈　北壁のほぼ中央部から1基検出された。支脚に土師器の甕を倒置して利用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は検出されていない。

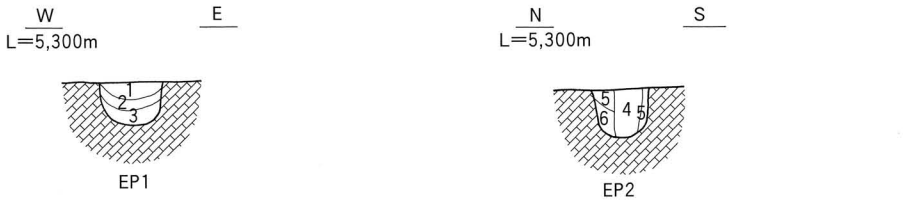
遺物出土状況　竈内を中心として遺物が検出されている。

出土遺物　1は須恵器の杯身である。2～5は土師器の甕である。

時期　出土した遺物や竈の形態などからから古墳時代後期と考えられる。

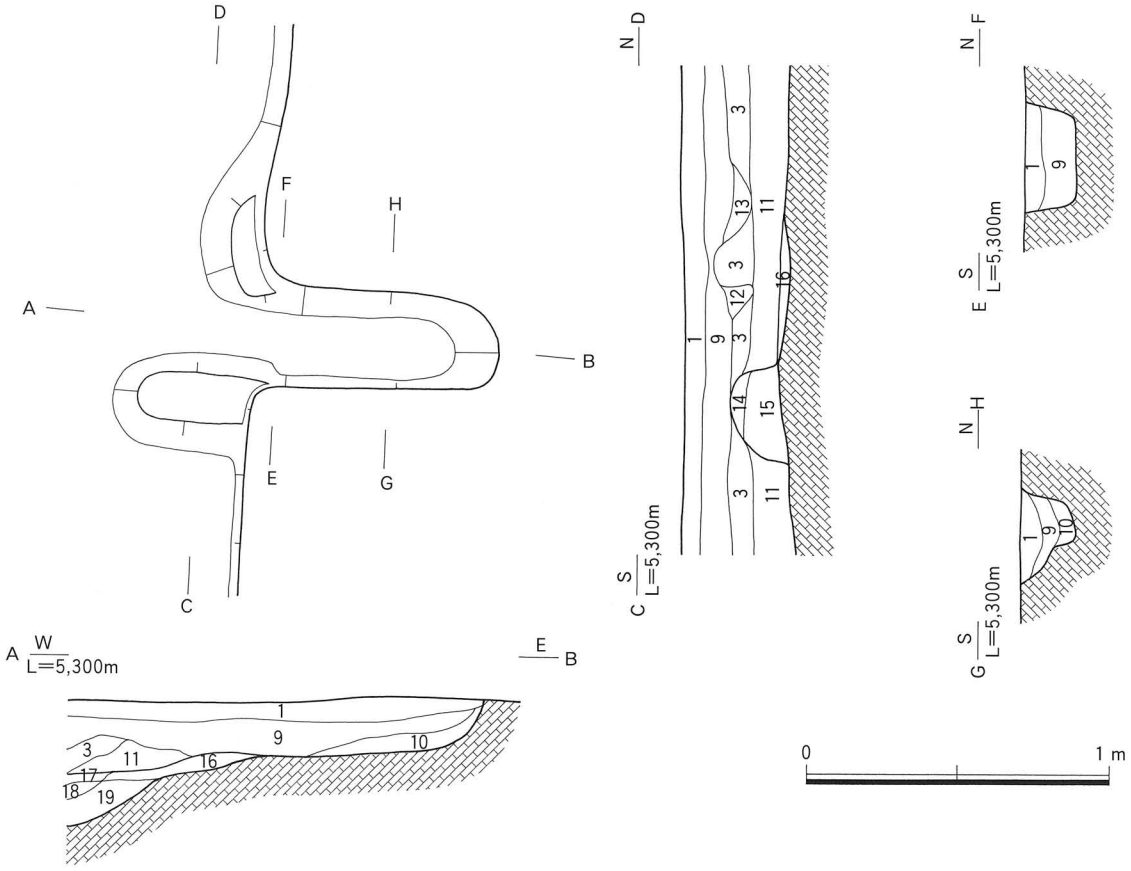


1　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
2　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト マンガン含む
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
4　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
5　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト マンガン含む
6　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
7　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
8　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト



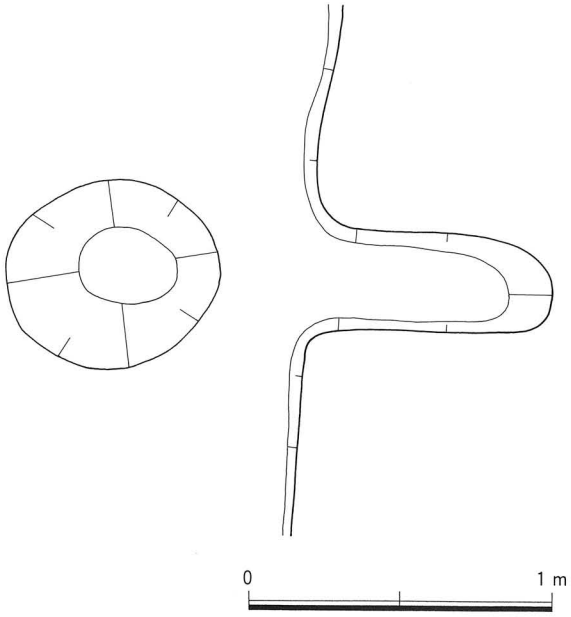
1　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土 マンガン含む
2　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土
3　黄　褐　色（2.5Y 5/6）シルト
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
5　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
6　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト マンガン含む

第442図　SB3030 平断面図

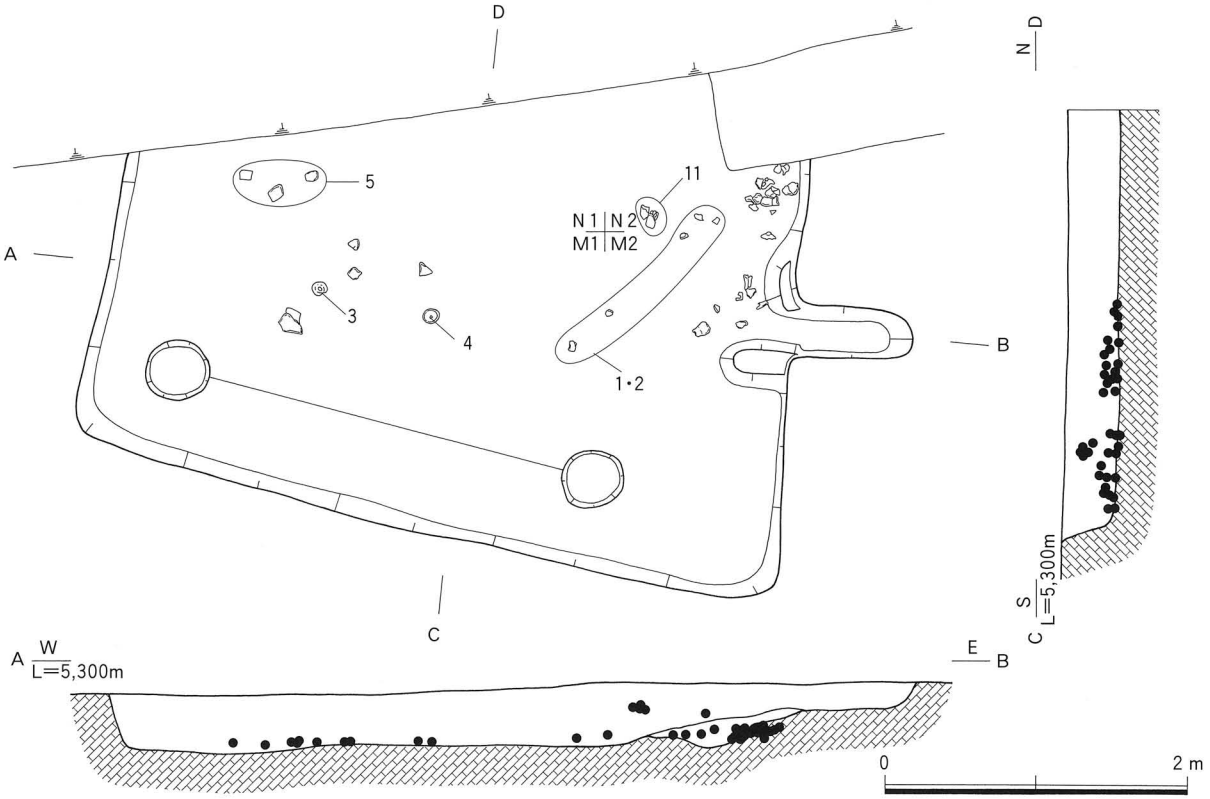


1　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト　マンガン含む
10　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
11　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト　マンガン含む
12　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
13　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
14　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
15　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
16　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粘質土
17　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土
18　褐　　色（7.5YR4/4）粘質土（焼土）
19　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土

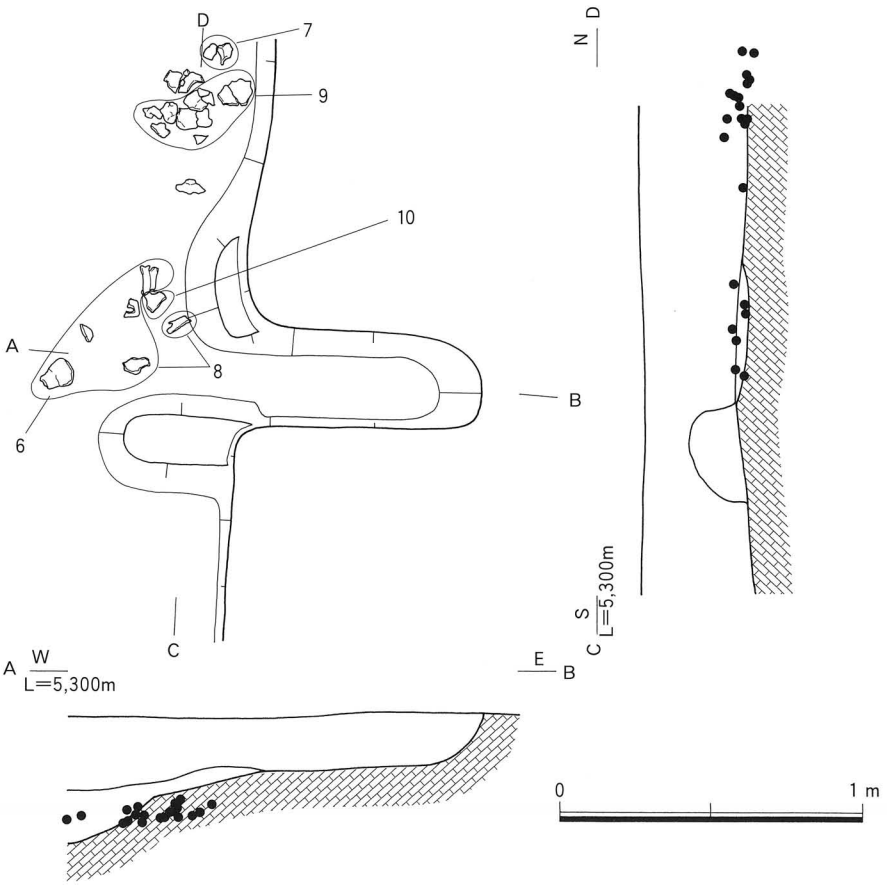
第443図　SB3030・EH1 平断面図



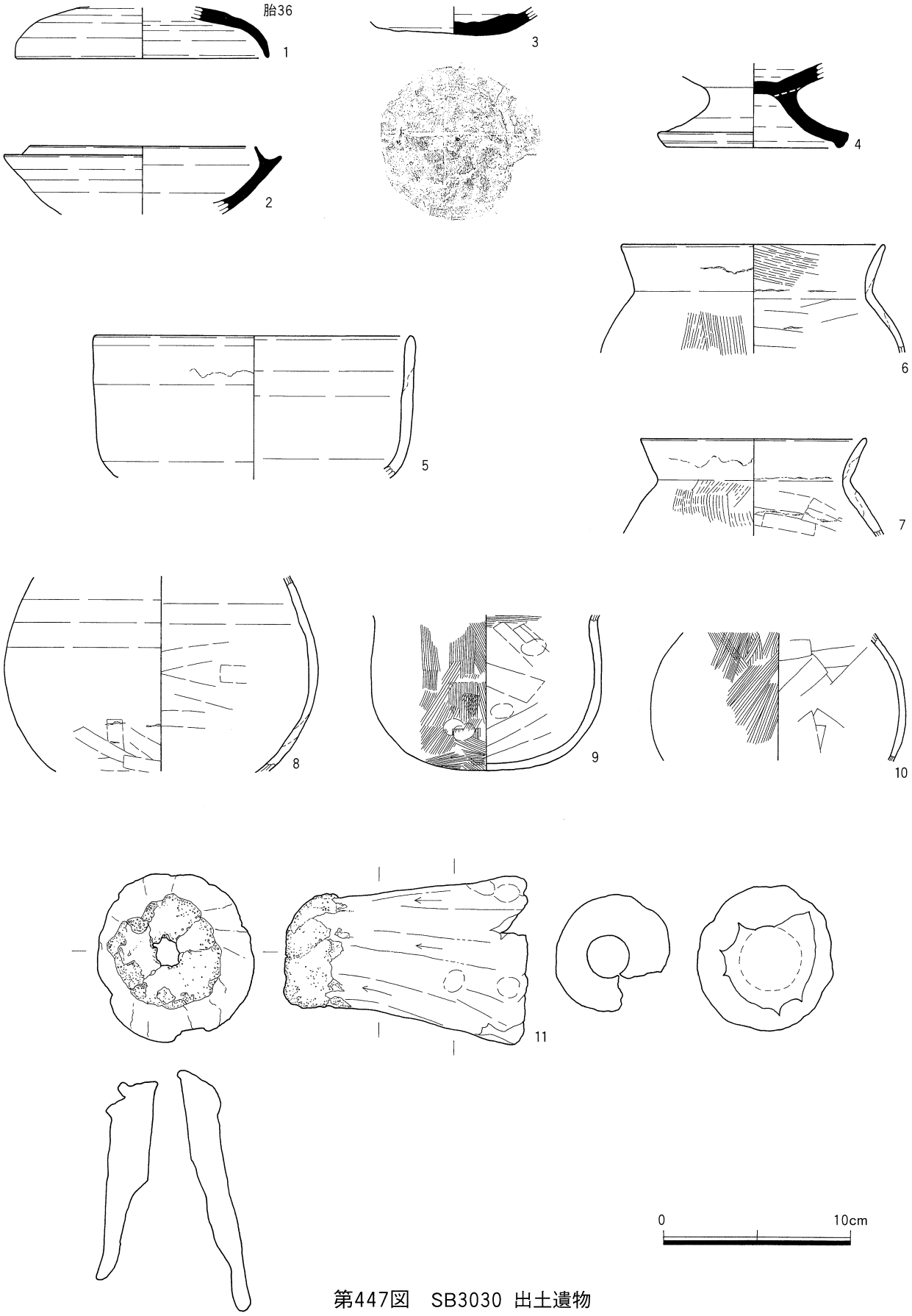
第444図　SB3030・EH1 下部構造図



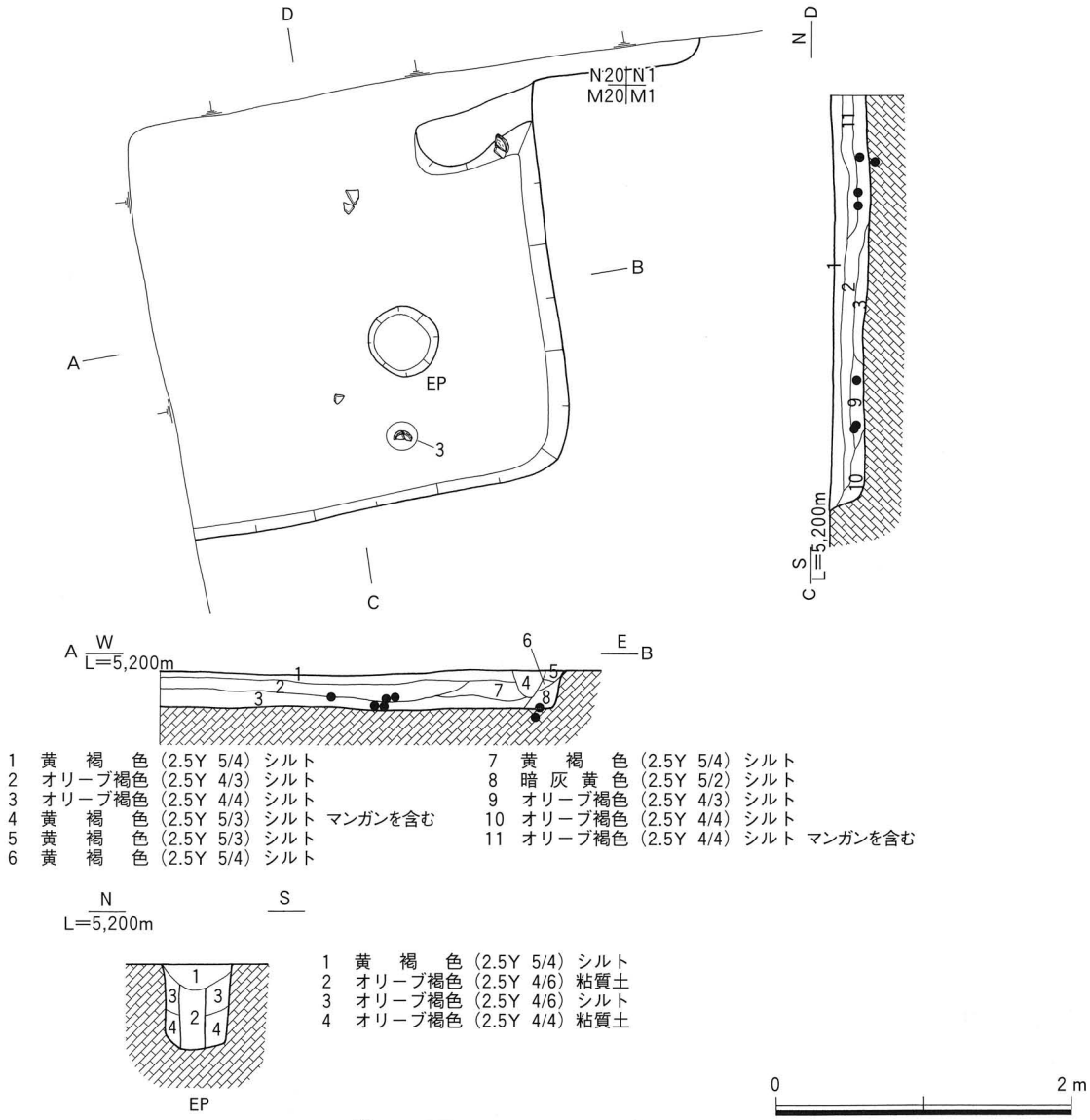
第445図　SB3030 遺物出土状況図



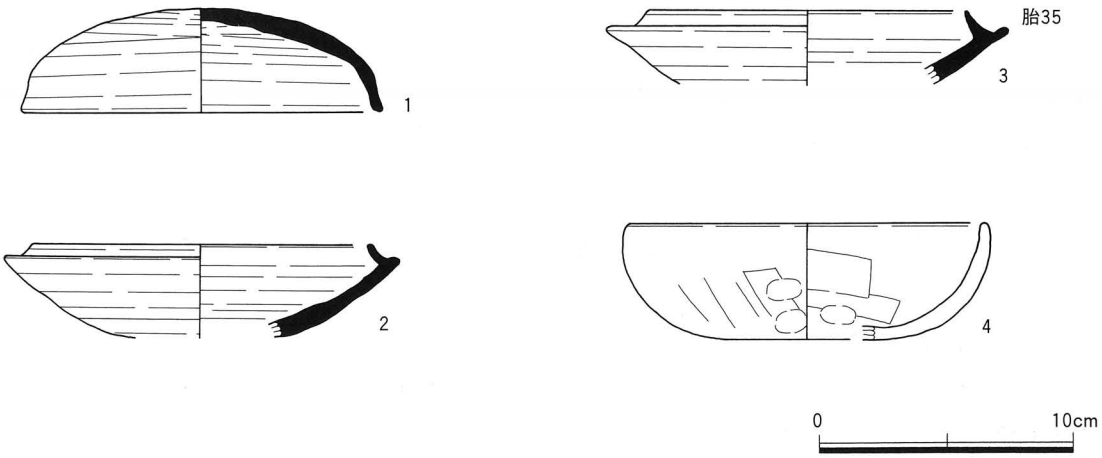
第446図　SB3030・EH1 遺物出土状況図



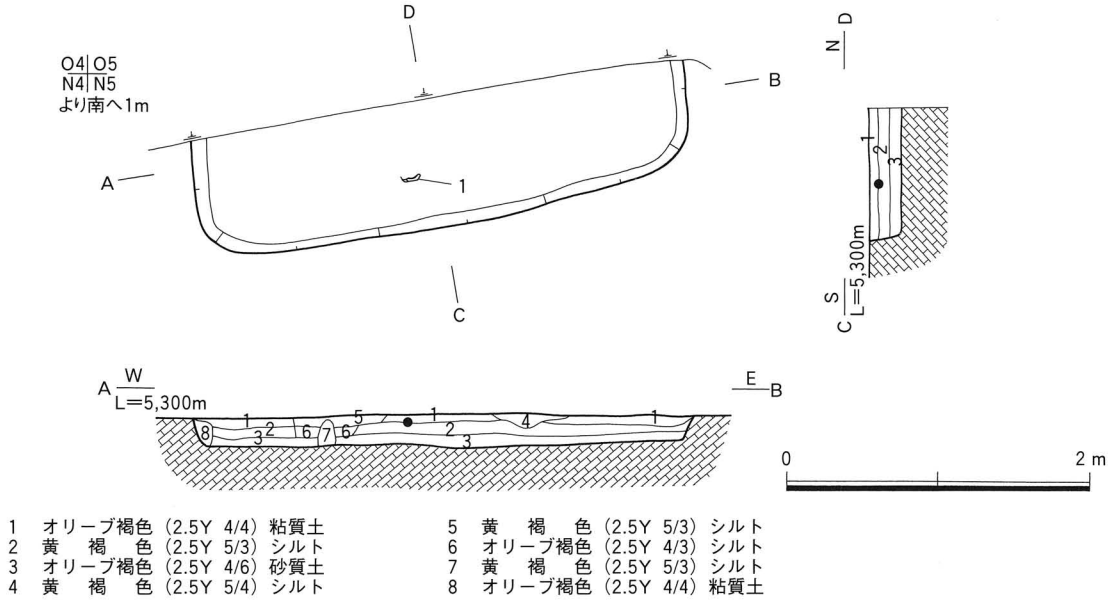
第447図　SB3030 出土遺物



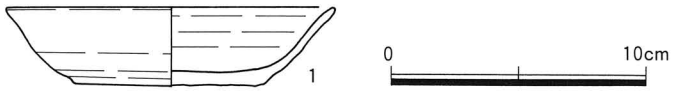
第448図　SB3031 平断面図



第449図　SB3031 出土遺物



第450図　SB3032 平断面図



第451図　SB3032 出土遺物

30号竪穴住居跡（SB3030）（第442～447図）

検出場所　2003年度調査２－２区　Loc.G１・βⅢ・M１・２・N１・２グリッド

形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びており、長軸4.60m、短軸3.43m（残存値）、表面積は15.8m²（残存値）を測る。残存する深度は0.35mである。

土層　19層に分層される。

柱穴　柱数は４本柱と考えられるが、南側の２基が検出された。

竈　東壁に１基検出されている。支脚は不明で、右袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は楕円形の土坑が掘削されている。

遺物出土状況　竈の周辺部および床面のほぼ中央付近から検出されている。

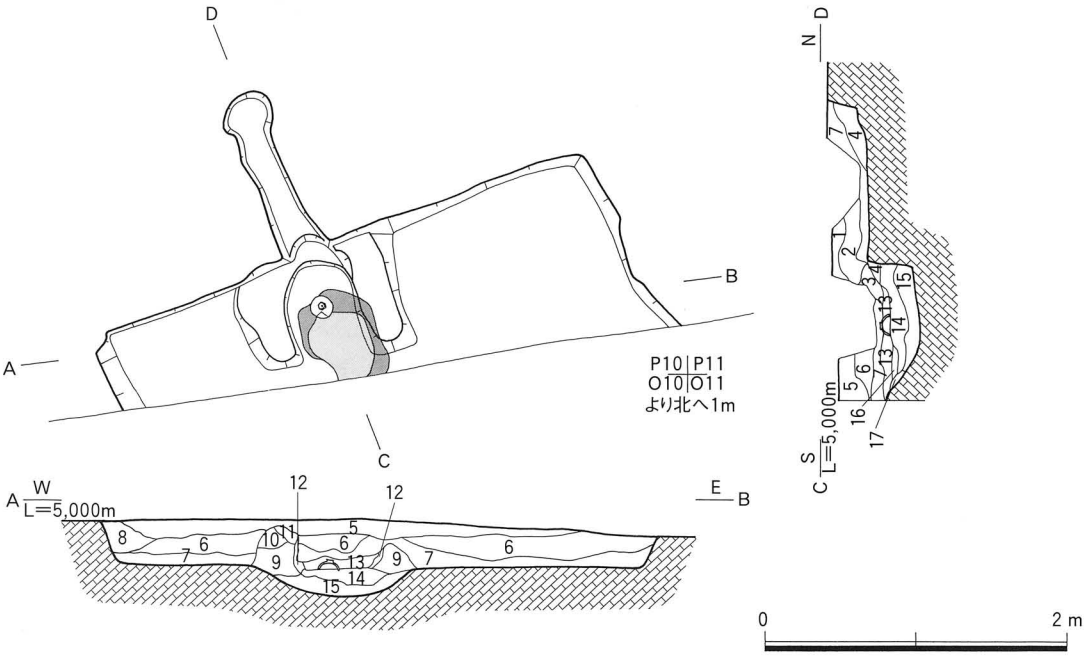
出土遺物　１は須恵器の杯蓋である。２・３は須恵器の杯身である。４は須恵器の高杯である。５は土師器の椀である。６～10は土師器の甕である。11は鞴の羽口である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。

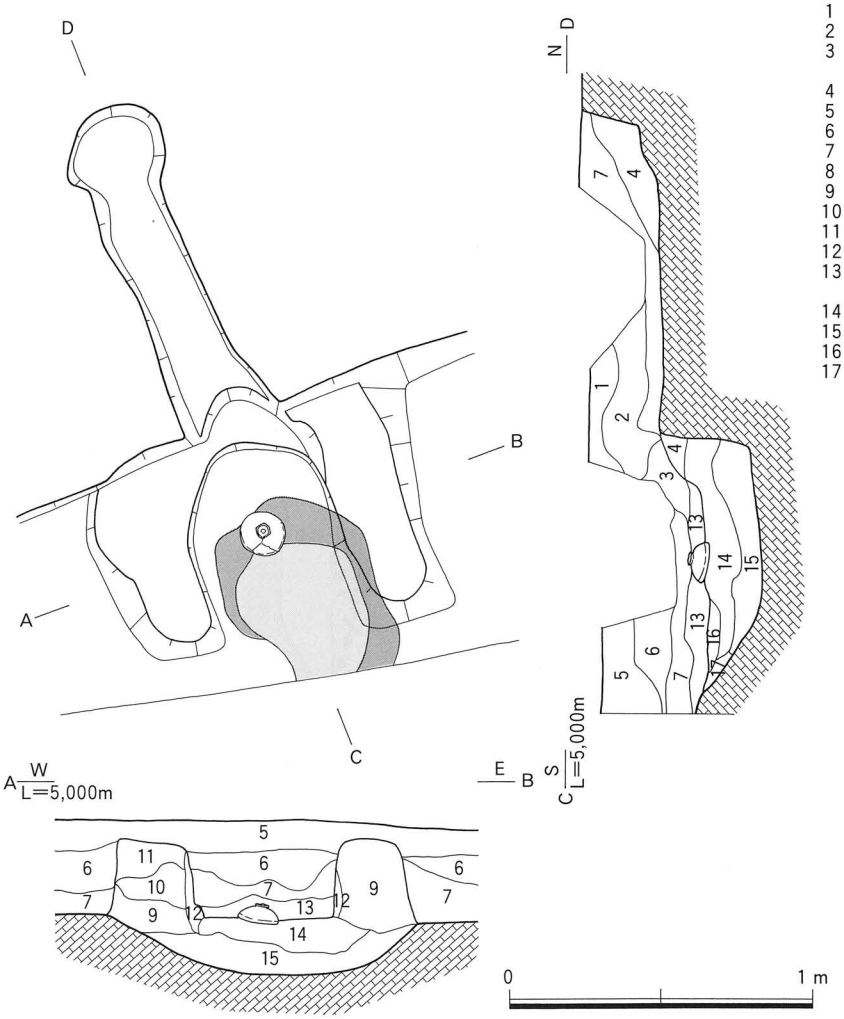
31号竪穴住居跡（SB3031）（第448・449図）

検出場所　2003年度調査２－２区　Loc.G１・βⅡ・M20・N20・βⅢN１グリッド

形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、北側および西側が調査区外に延びている。残存する深度は0.25mを測る。

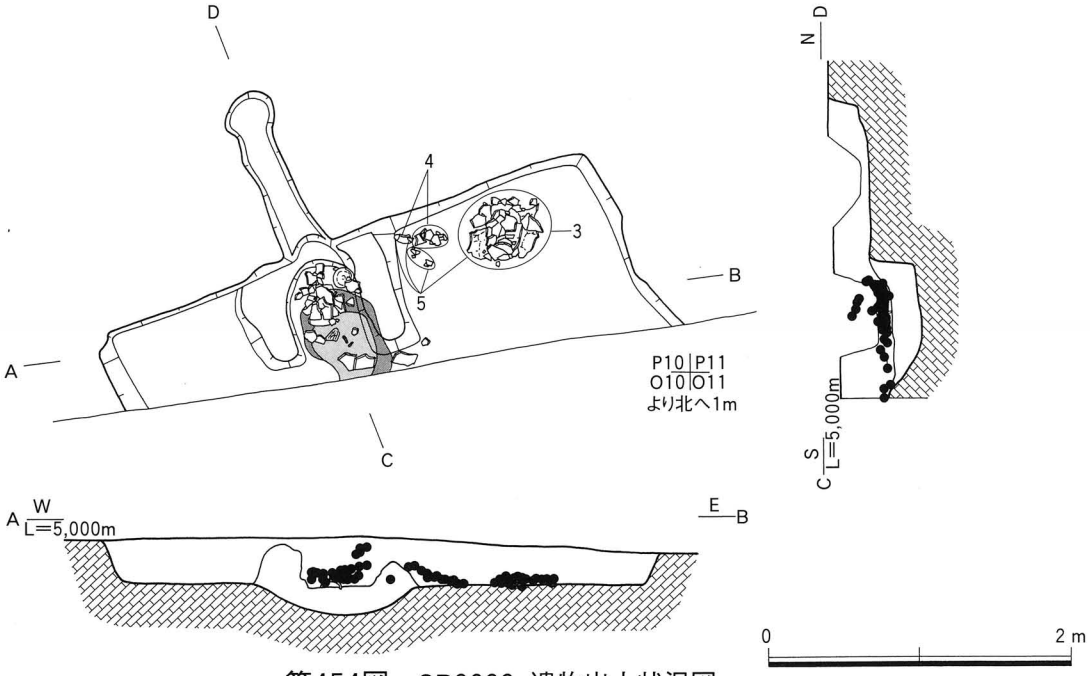


第452図　SB3033 平断面図

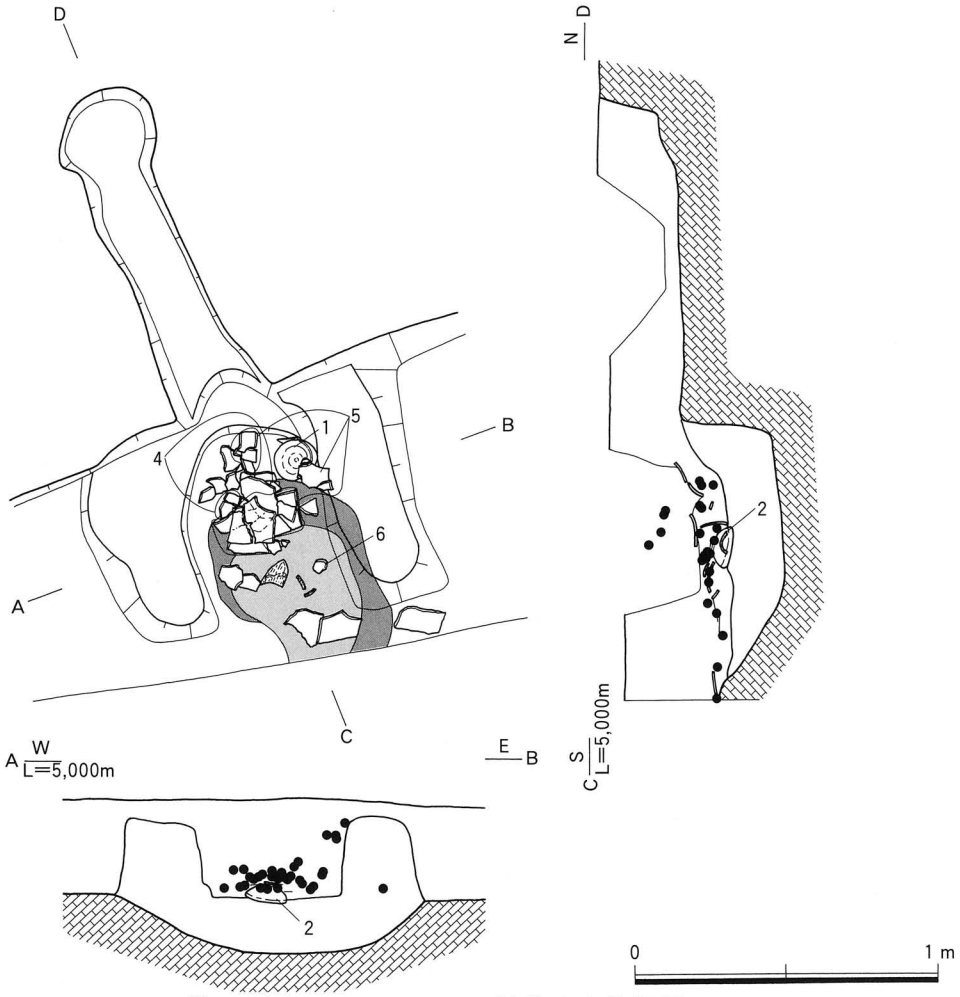


1　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘性砂質土
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘性砂質土
3　褐　　色（10YR 4/4）粘性砂質土
　　焼土・炭化物含む
4　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂　質　土
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂　質　土
6　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘性砂質土
7　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粘性砂質土
8　黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂　質　土
9　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂　質　土
10　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘性砂質土
11　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂　質　土
12　褐　　色（7.5YR4/4）砂　質　土（焼土）
13　褐　　色（7.5YR4/6）粘性砂質土
　　炭化物・灰多く含む
14　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘性砂質土
15　黄　褐　色（2.5Y 5/6）砂　質　土
16　褐　　色（7.5YR4/4）砂　質　土（焼土）
17　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂　質　土

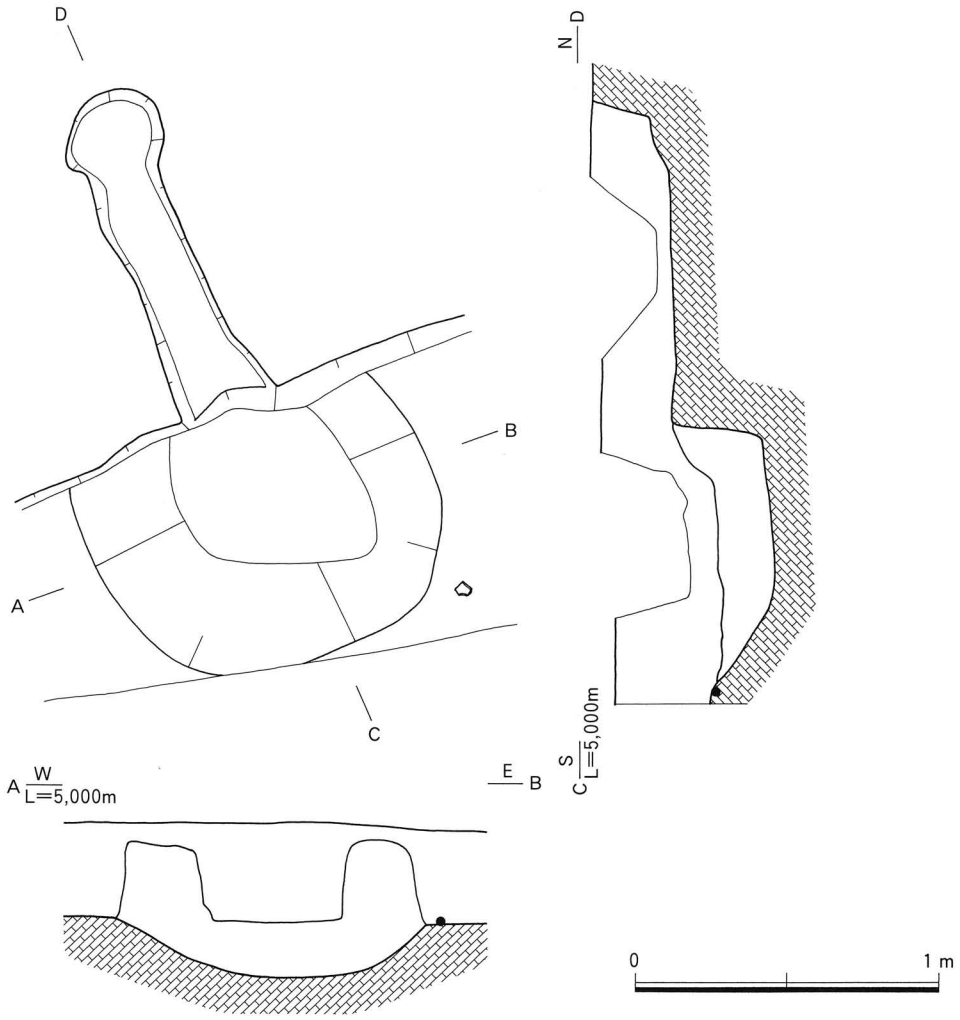
第453図　SB3033・EH1 平断面図



第454図　SB3033 遺物出土状況図



第455図　SB3033・EH1 遺物出土状況図



第456図　SB3033・EH1 下部構造 遺物出土状況図

土層　11層に分層される。

柱穴　南東部に１基検出されている。

竈　東壁に１基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況　床面付近を中心に検出されている。

出土遺物　１は須恵器の杯蓋である。２・３は須恵器の杯身である。４は土師器の杯である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半世紀・TK217並行期）と考えられる。

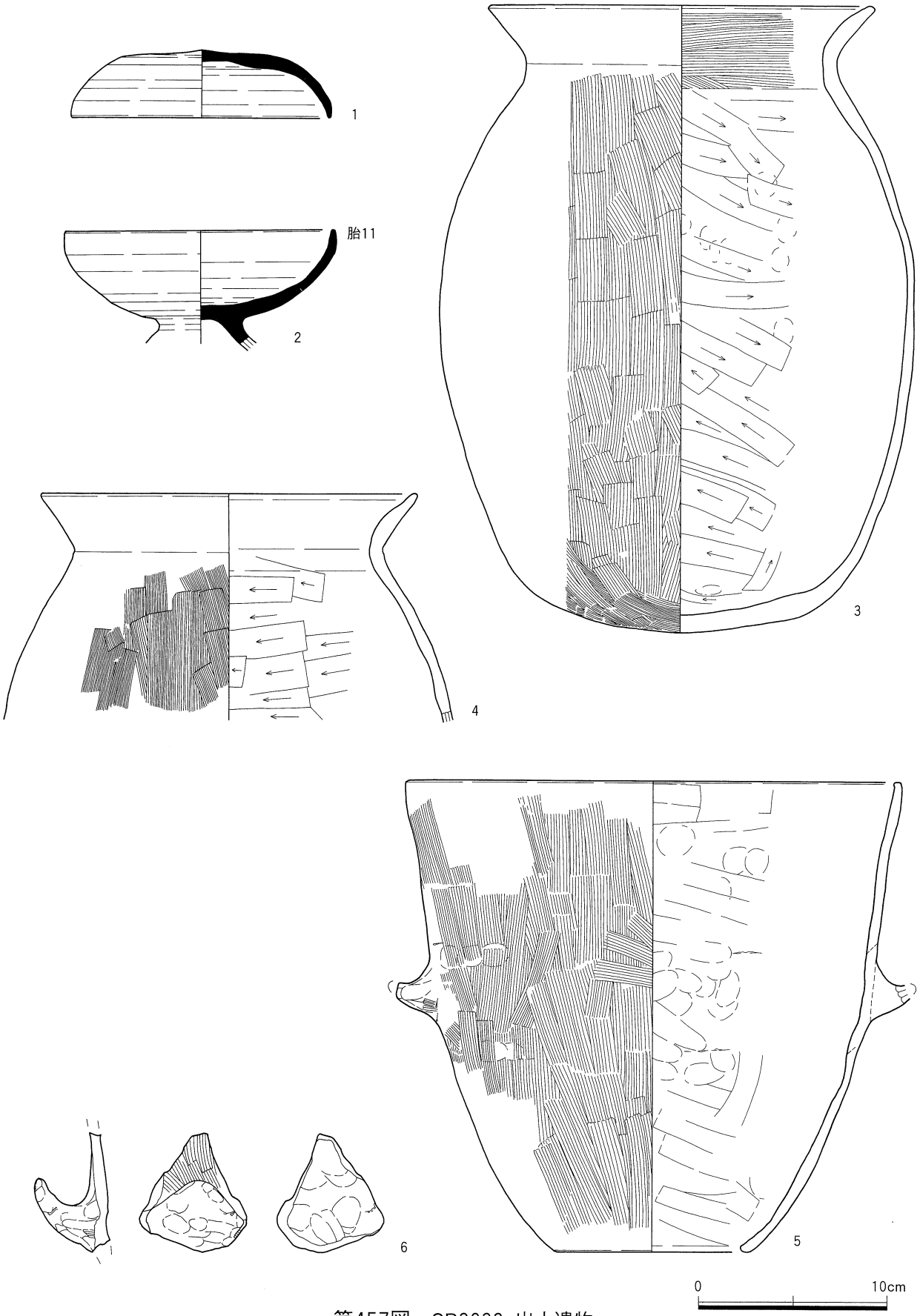
32号竪穴住居跡（SB3032）（第450・451図）

検出場所　2003年度調査２－２区　Loc.G１・βⅢN５グリッド

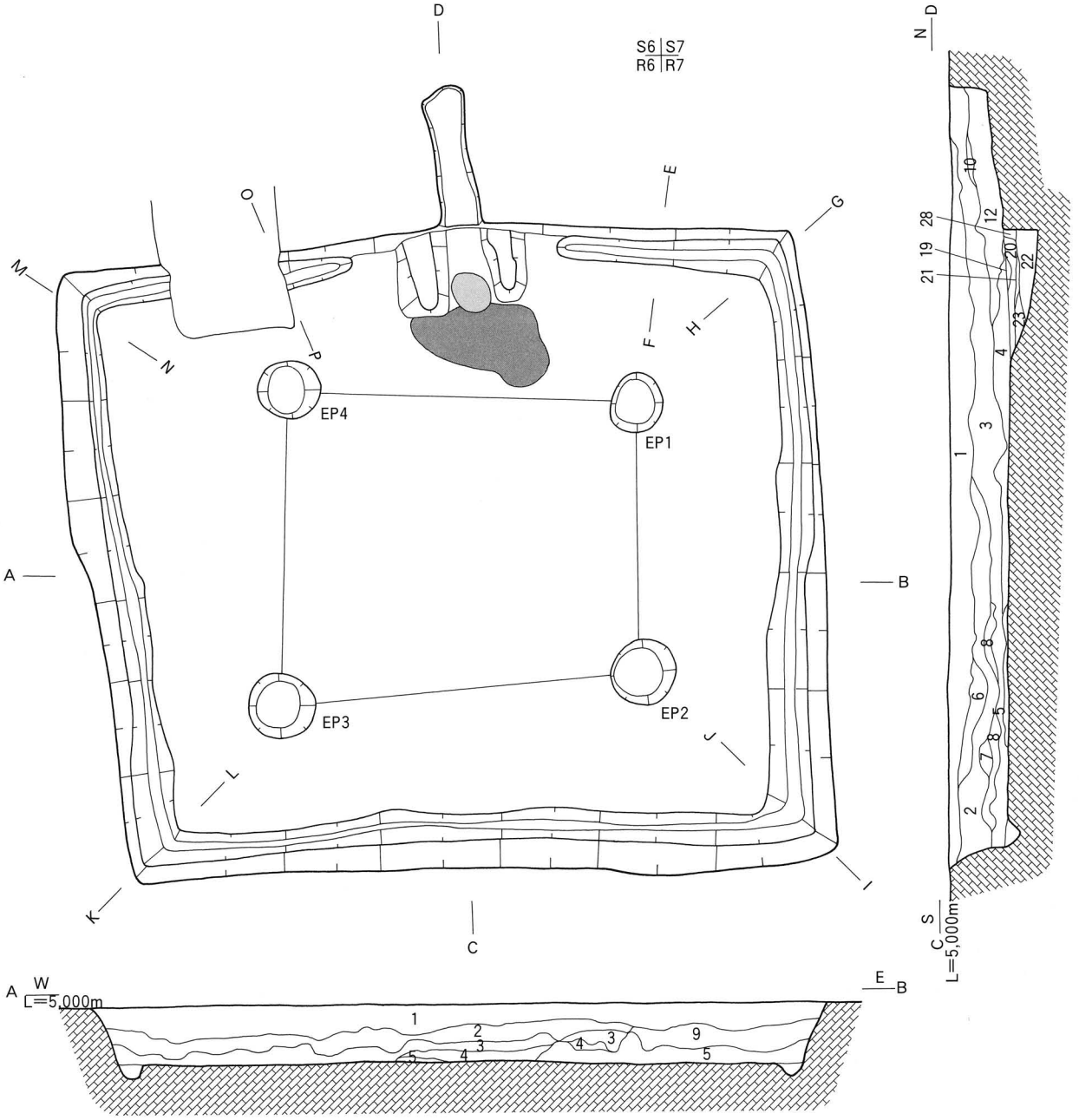
形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、北側が調査区外に延びている。残存する深度は0.23mを測る。

土層　８層に分層される。

柱穴　検出されていない。



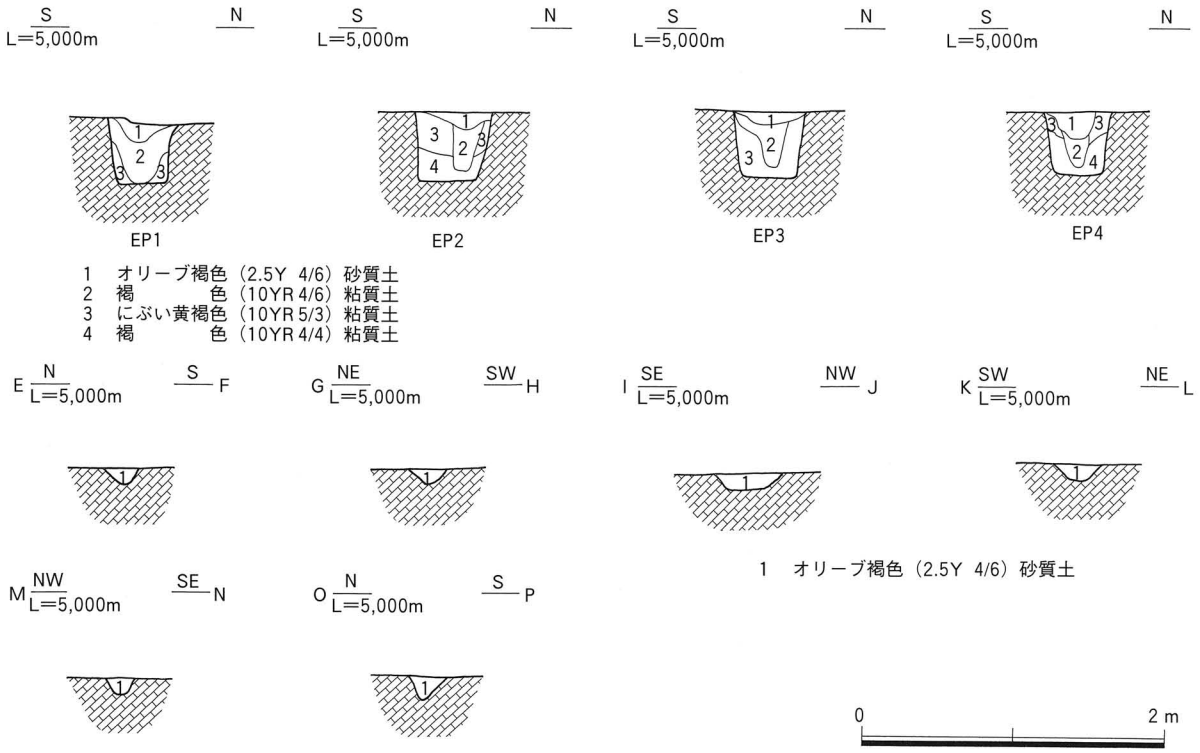
第457図　SB3033 出土遺物



1　にぶい黄色（2.5Y 6/3）砂質土
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
3　黄　褐　色（10YR 5/6）砂質土
4　暗灰黄色（2.5Y 4/2）粘性砂質土
5　にぶい黄褐色（10YR 5/3）砂質土
6　明黄褐色（2.5Y 6/6）粘性砂質土
7　黄　褐　色（2.5Y 5/6）砂質土
8　にぶい黄褐色（10YR 5/4）砂質土
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘性砂質土

0　2 m

第458図　SB3034 平断面図



第459図　SB3034・EP・ED 断面図

竈　検出されていない。

遺物出土状況　南壁近くの１層中より検出されている。

出土遺物　１は土師器の杯である。

時期　出土遺物から平安時代以後と考えられる。

33号竪穴住居跡（SB3033）（第452～457図）

検出場所　1998年度調査８区　Loc.G１・βⅢP10グリッド

形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、南側が調査区外に延びている。残存する深度は0.30mを測る。

土層　17層に分層される。

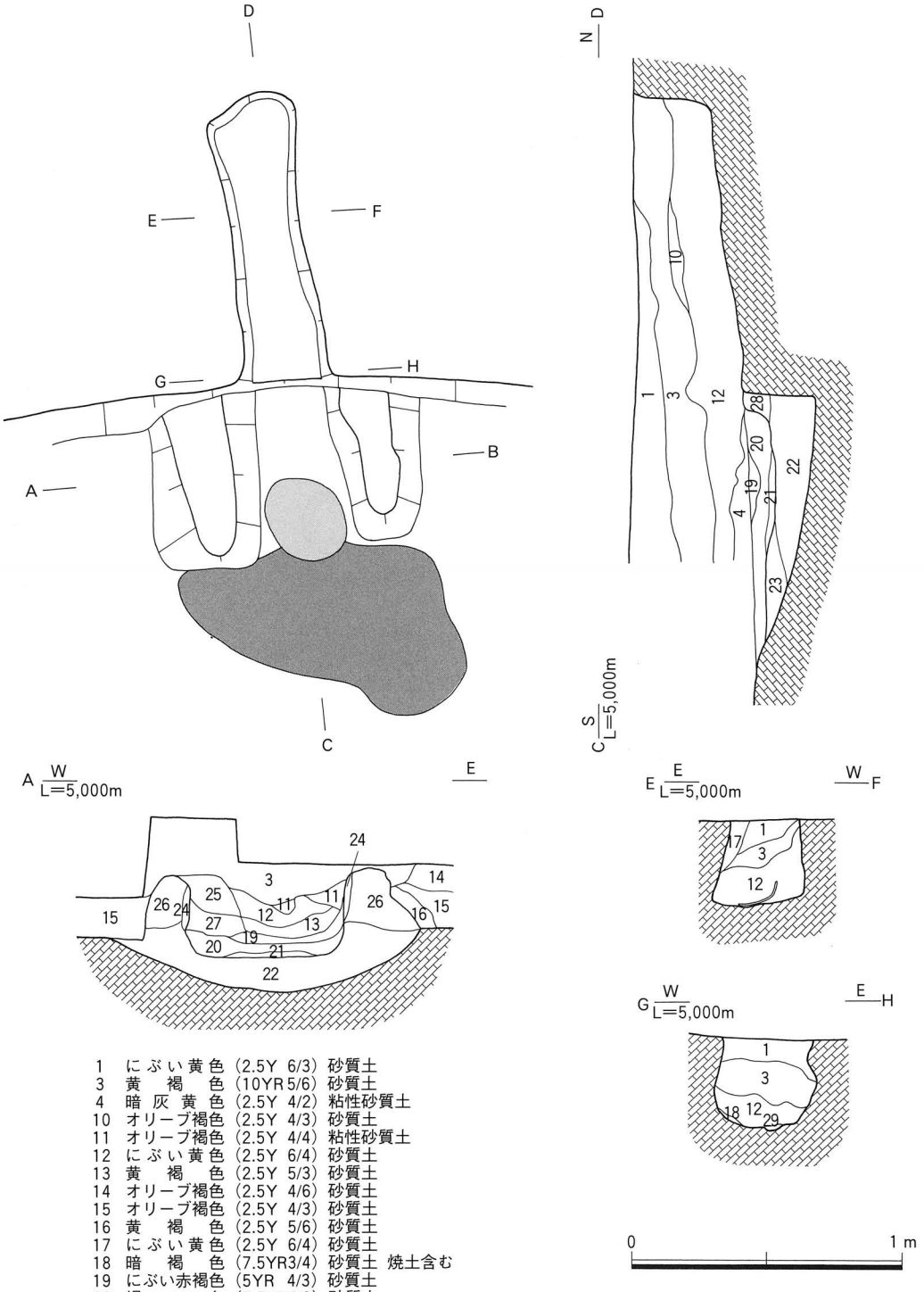
柱穴　検出されていない。

竈　北壁のほぼ中央に１基検出されている。支脚に須恵器の高杯を倒置して利用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.14m、短軸0.93、深度0.29mを測る。

遺物出土状況　竈内およびその東側を中心に検出されている。

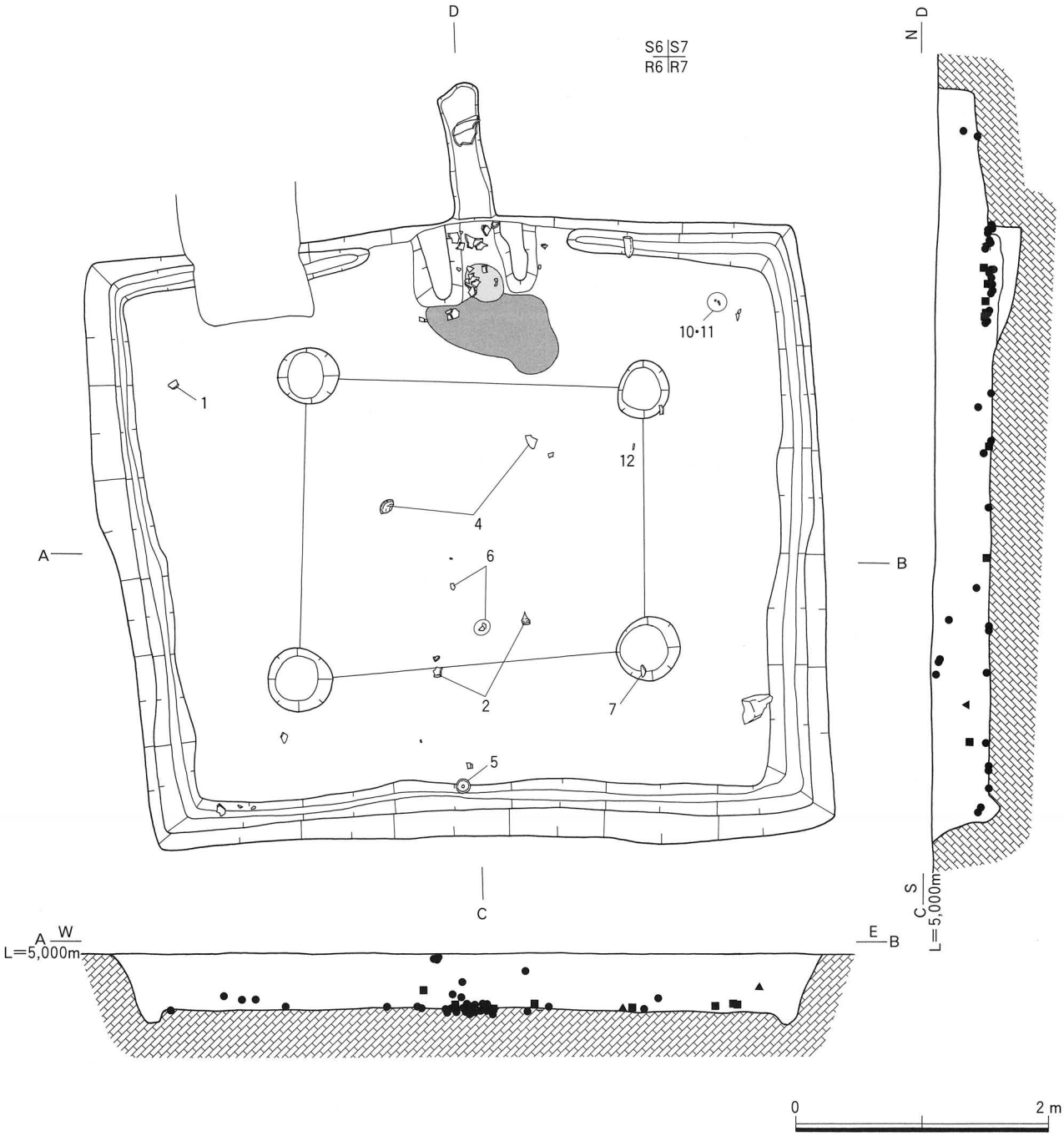
出土遺物　１は須恵器の杯蓋である。２は須恵器の高杯である。３・４は土師器の甕である。５・６は土師器の甑である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第１四半世紀・TK209並行期）と考えられる。

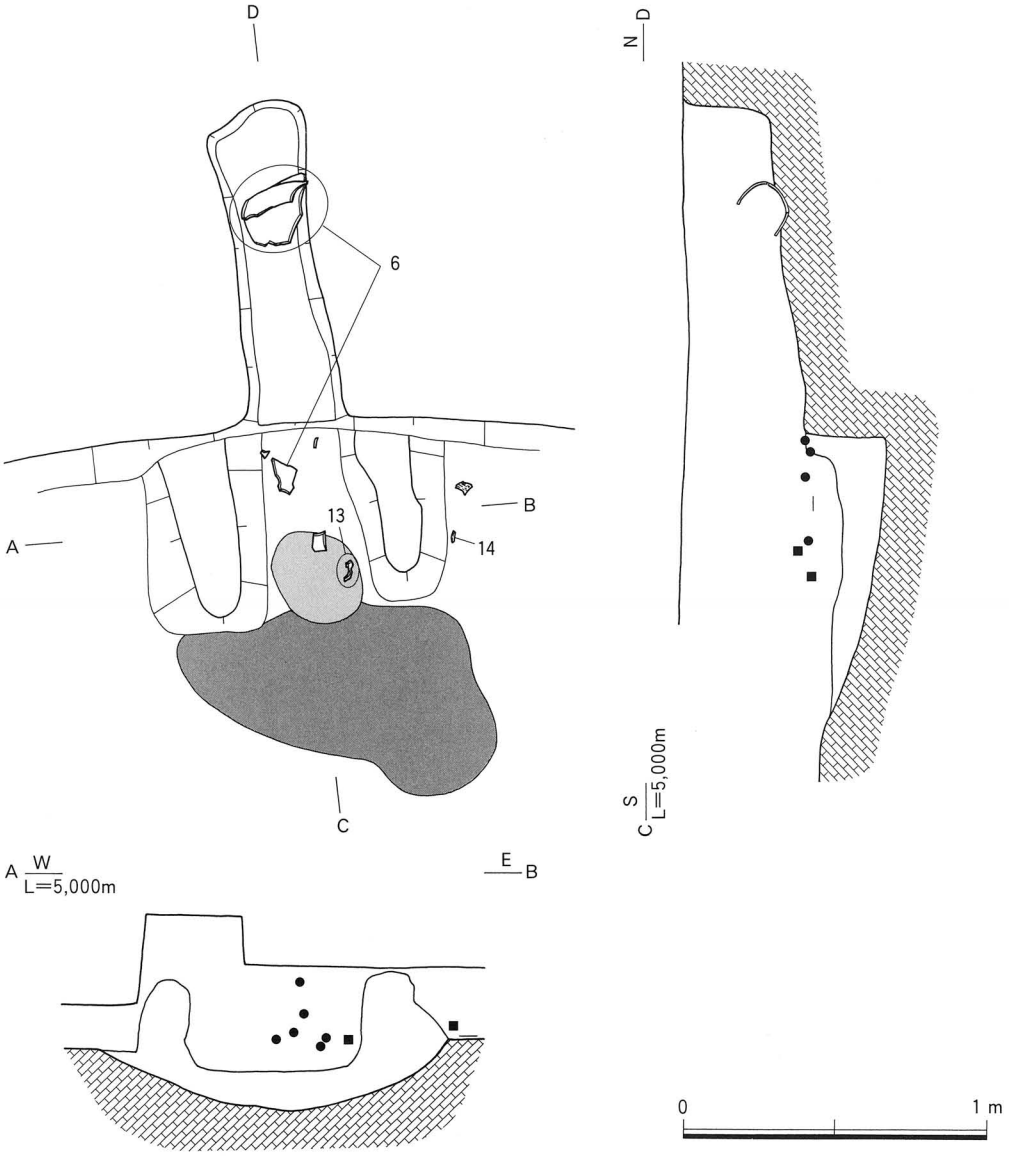


1 にぶい黄色 (2.5Y 6/3) 砂質土
3 黄 褐 色 (10YR 5/6) 砂質土
4 暗 灰 黄 色 (2.5Y 4/2) 粘性砂質土
10 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 砂質土
11 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 粘性砂質土
12 にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 砂質土
13 黄 褐 色 (2.5Y 5/3) 砂質土
14 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 砂質土
15 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 砂質土
16 黄 褐 色 (2.5Y 5/6) 砂質土
17 にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 砂質土
18 暗 褐 色 (7.5YR3/4) 砂質土 焼土含む
19 にぶい赤褐色 (5YR 4/3) 砂質土
20 褐 色 (7.5YR4/3) 砂質土
21 にぶい赤褐色 (5YR 4/4) 砂質土
22 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 粘性砂質土
23 黄 褐 色 (2.5Y 5/4) 砂質土
24 にぶい赤褐色 (5YR 4/4) 砂質土
25 黄 褐 色 (2.5Y 5/3) 砂質土
26 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 砂質土
27 にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 砂質土
28 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 粘性砂質土
29 炭 化 物

第460図 SB3034・EH1 平断面図



第461図　SB3034 遺物出土状況図



第462図　SB3034・EH1 遺物出土状況図

34号竪穴住居跡（SB3034）（第458～465図）

検出場所　1998年度調査８区　Loc.G１・βⅢQ６・７・R６・７グリッド

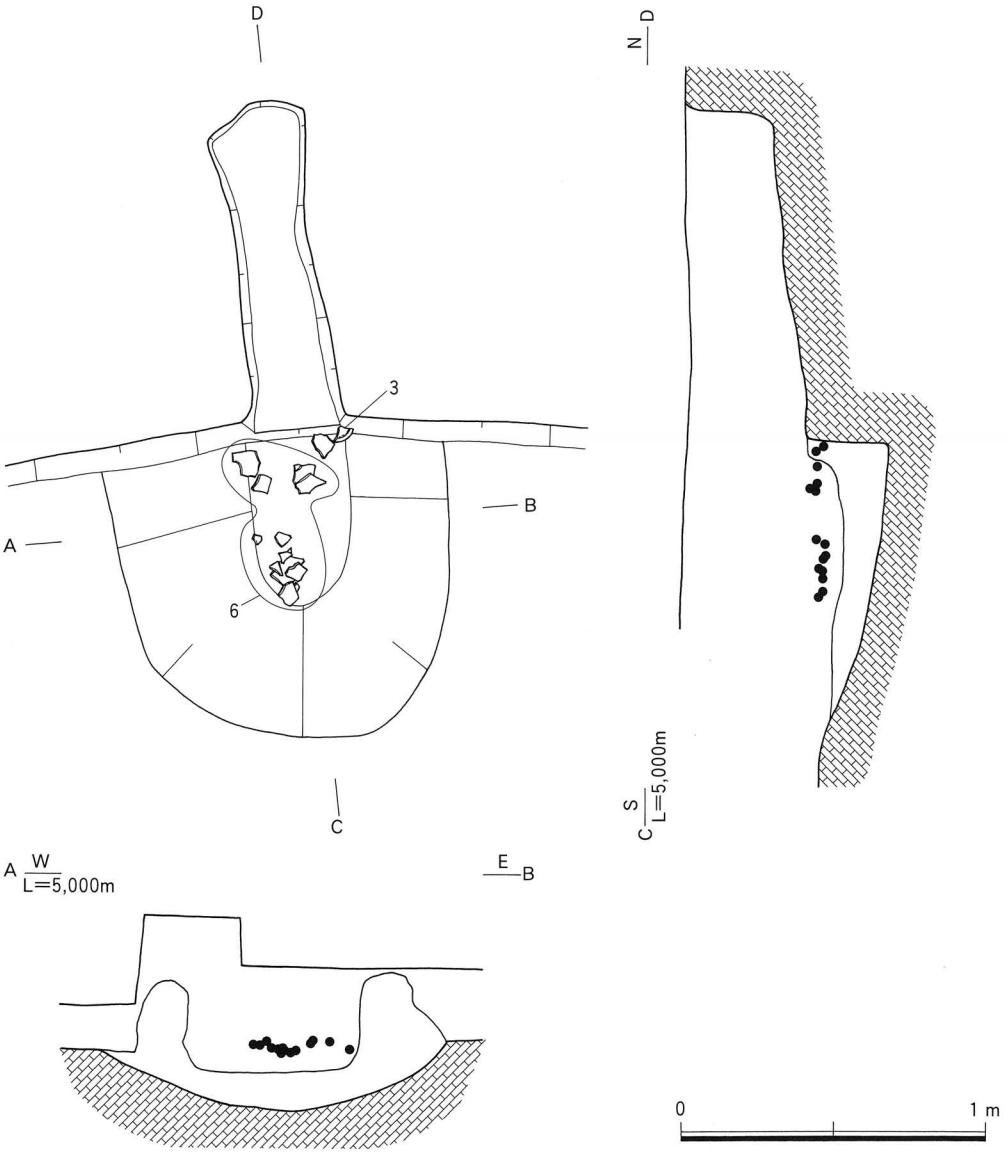
形態・規模　平面形態は長方形を呈し、長軸5.78m、短軸4.88m、表面積は約28.2㎡を測る。残存する深度は0.48mである。

土層　29層に分層される。

柱穴　柱穴は４基検出されている。

周壁溝　４方向の壁沿いより検出された。

竈　北壁のほぼ中央部に１基検出されている。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。燃焼部内より焼土の集中部、袖口周辺では炭化物の集中部がそれぞれ検出されている。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.1m、短軸1.03m、深度0.28mを測る。



第463図　SB3034・EH1 下部構造 遺物出土状況図

遺物出土状況　竈内および床面の中央部付近から検出されている。

出土遺物　1は須恵器の杯蓋である。2～4は須恵器の杯身である。5須恵器の高杯である。6は土師器の甕である。7は鞴の羽口である。8は花崗岩の石核である。9は砂質片岩の敲石である。10～12は鉄製の刀子である。13～15は棒状鉄器である。

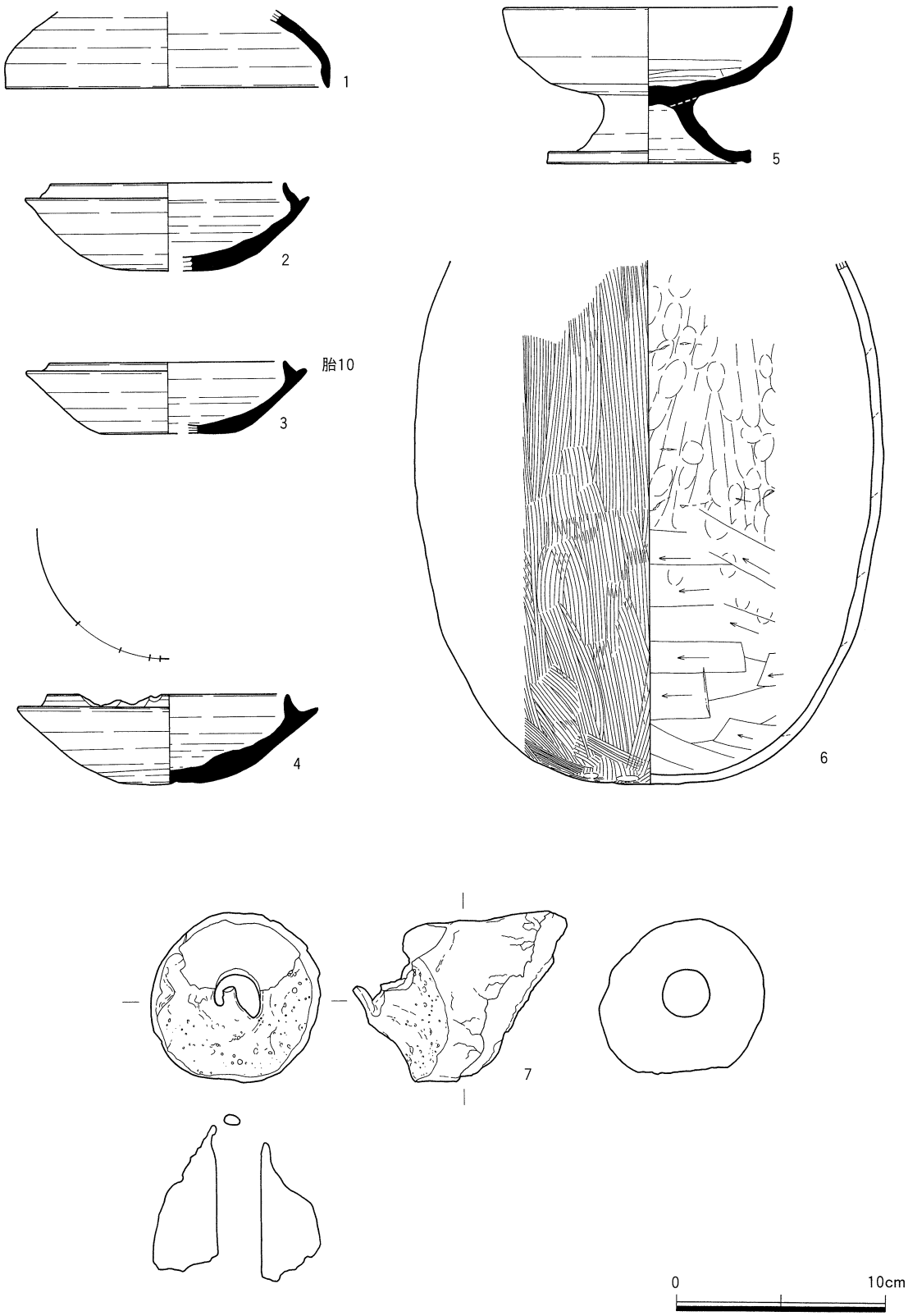
時期　出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。

35号竪穴住居跡（SB3035）（第466～472図）

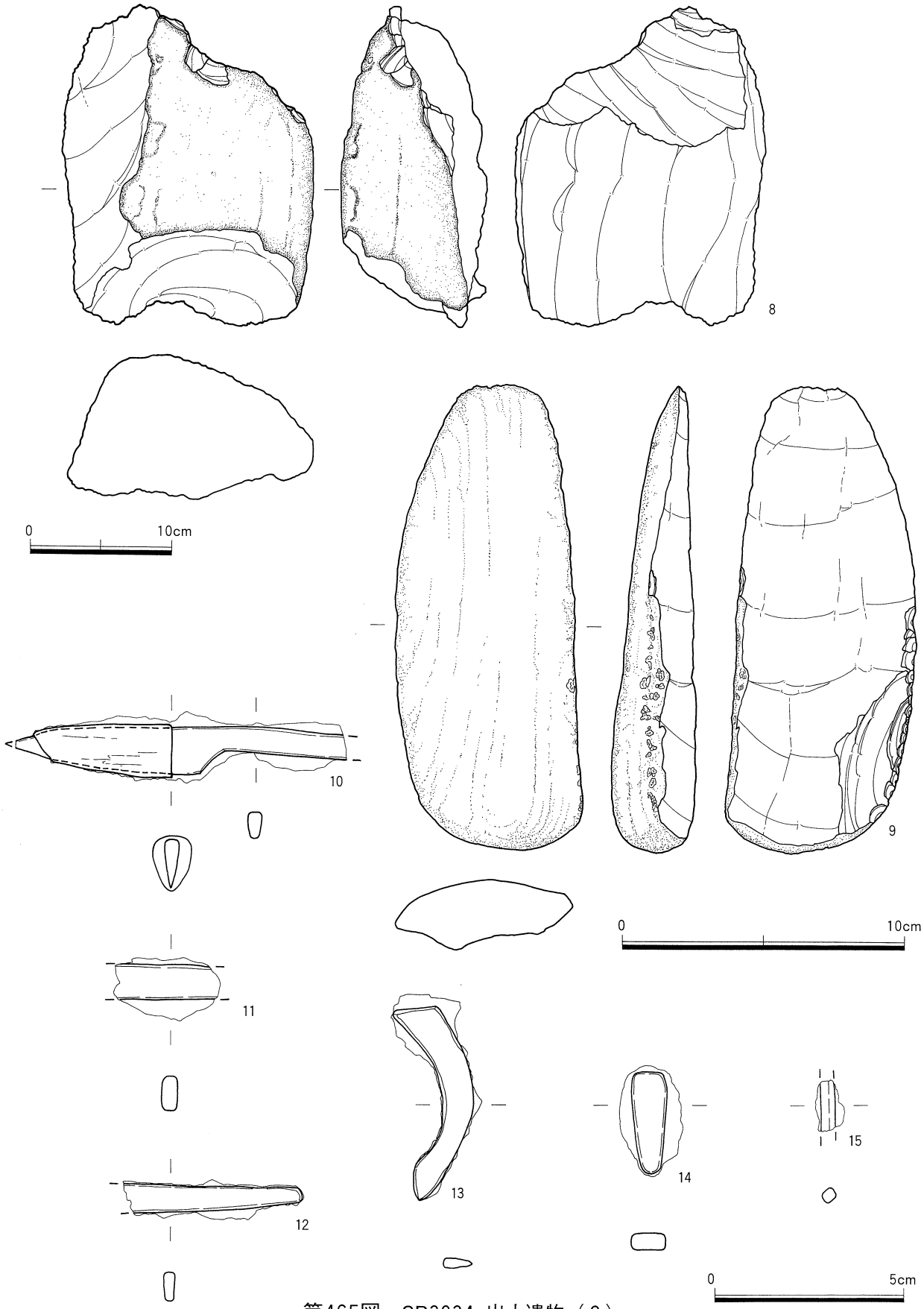
検出場所　1998年度調査8区　Loc.G1・βⅢP4・5グリッド

形態・規模　平面形態はほぼ方形を呈し、長軸3.88m、短軸3.60m、表面積は約14.0m²を測る。残存する深度は0.25mである。

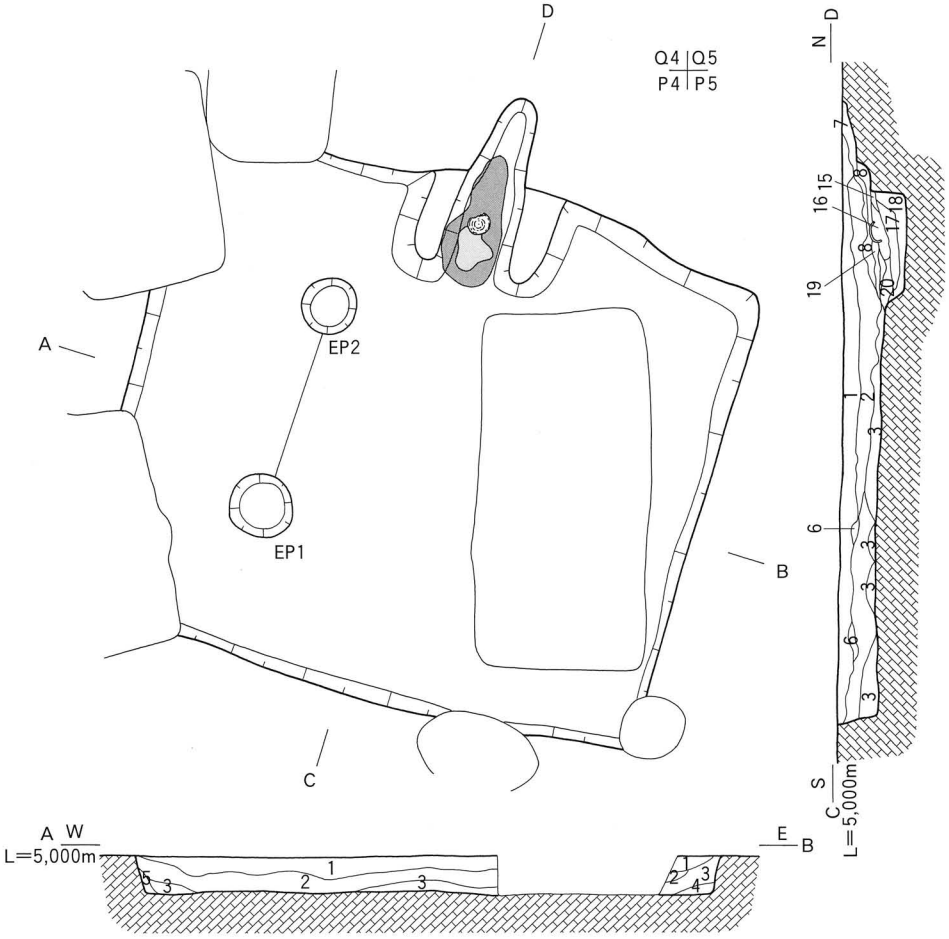
土層　20層に分層される。



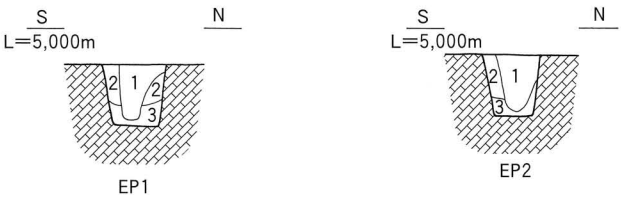
第464図　SB3034 出土遺物（1）



第465図　SB3034 出土遺物（2）



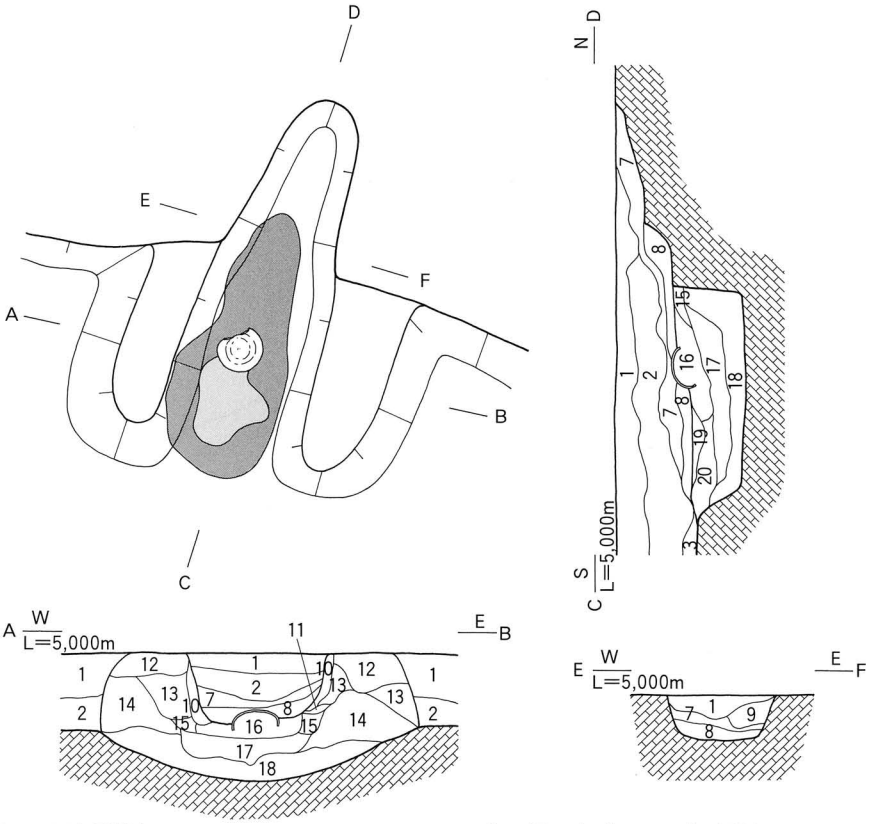
1 灰　黄　色（2.5Y 6/2）砂質土
2 黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
3 オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘性砂質土
4 黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
5 暗オリーブ色（5 Y 4/4）粘質土
6 黄　褐　色（2.5Y 5/6）砂質土



1 にぶい黄色（10YR 5/3）砂質土
2 褐　　色（10YR 4/6）砂質土
3 褐　　色（10YR 4/4）粘質土

0　2 m

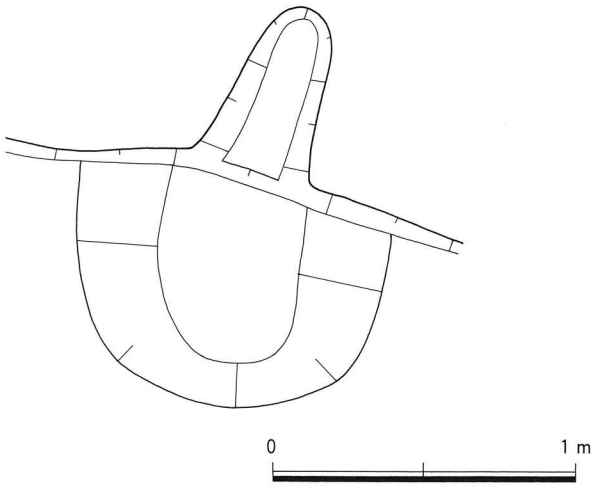
第466図　SB3035 平断面図



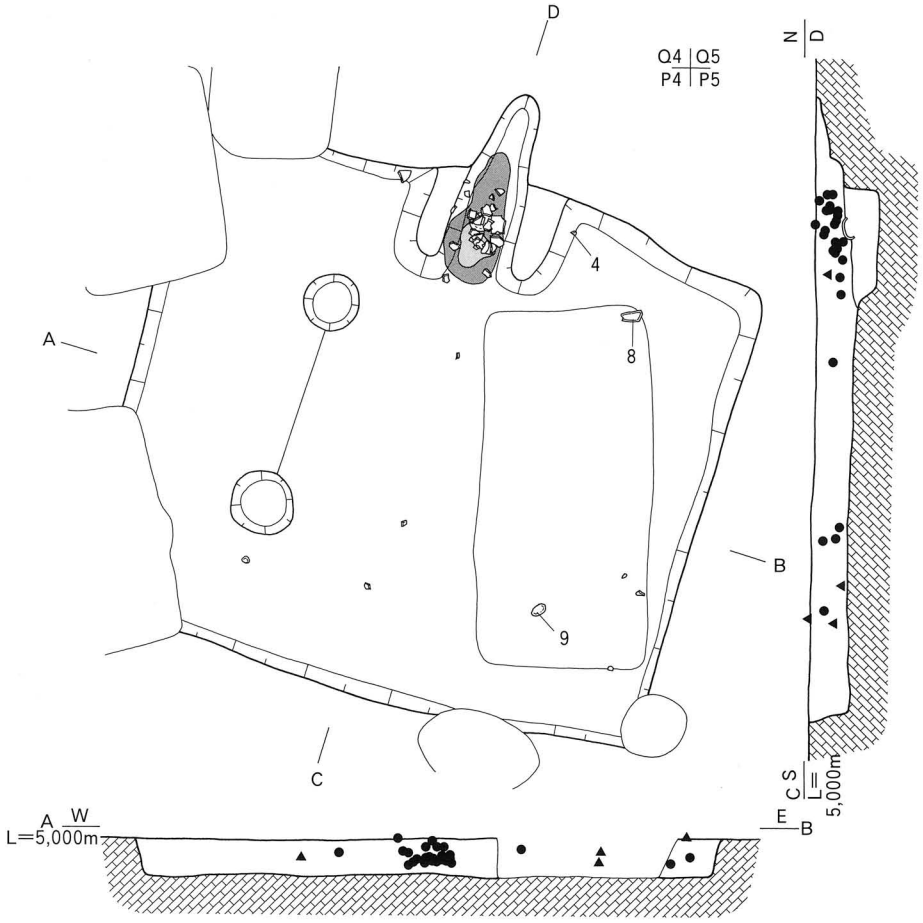
1　灰　黄　色（2.5Y 6/2）砂質土
2　黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘性砂質土
7　褐　　色（10YR 4/6）砂質土 焼土・炭化物を含む
8　褐　　色（7.5YR4/3）粘質土 焼土・炭化物を多く含む（灰層）
9　黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
10　にぶい褐色（7.5YR5/4）砂質土（焼土）
11　にぶい黄褐色（10YR 5/4）砂質土
12　黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
13　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
14　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
15　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）細　砂
16　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
17　暗 灰 黄 色（2.5Y 5/2）粘性砂質土
18　黄　褐　色（2.5Y 5/3）砂質土
19　赤　褐　色（5YR 4/6）砂質土（焼土）
20　明 黄 褐 色（2.5Y 6/6）砂質土

0　1 m

第467図　SB3035・EH1 平断面図

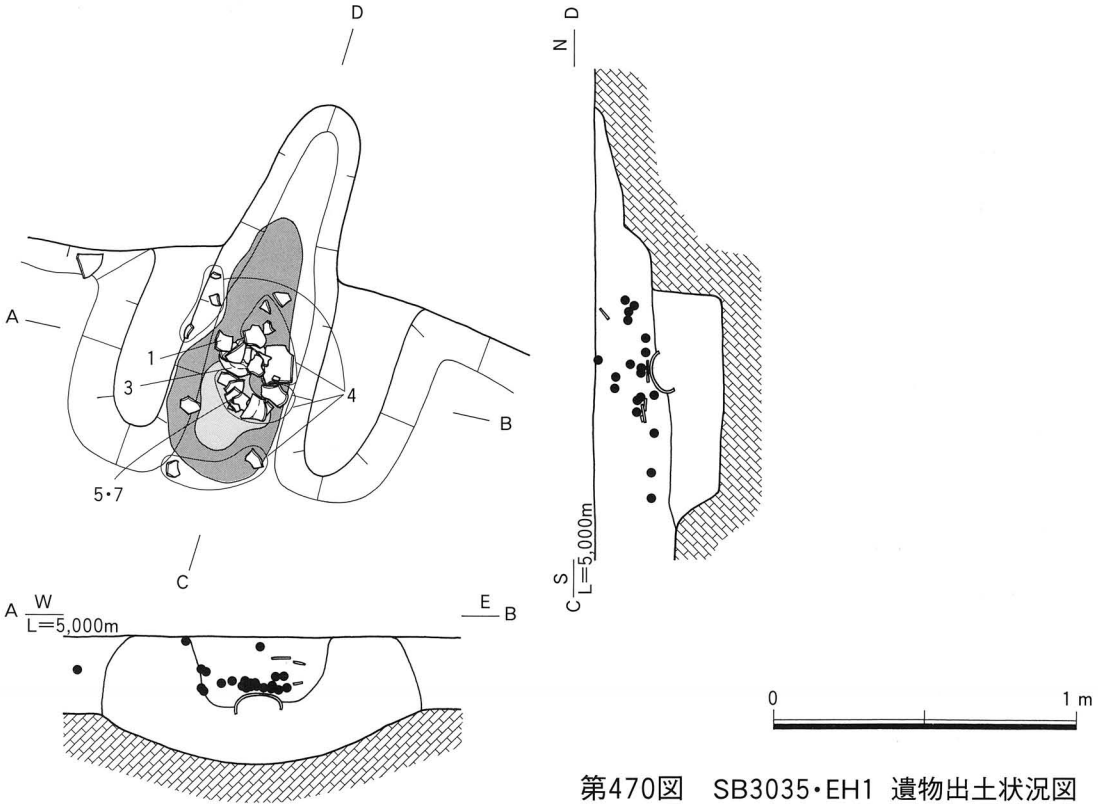


第468図　SB3035・EH1 下部構造図

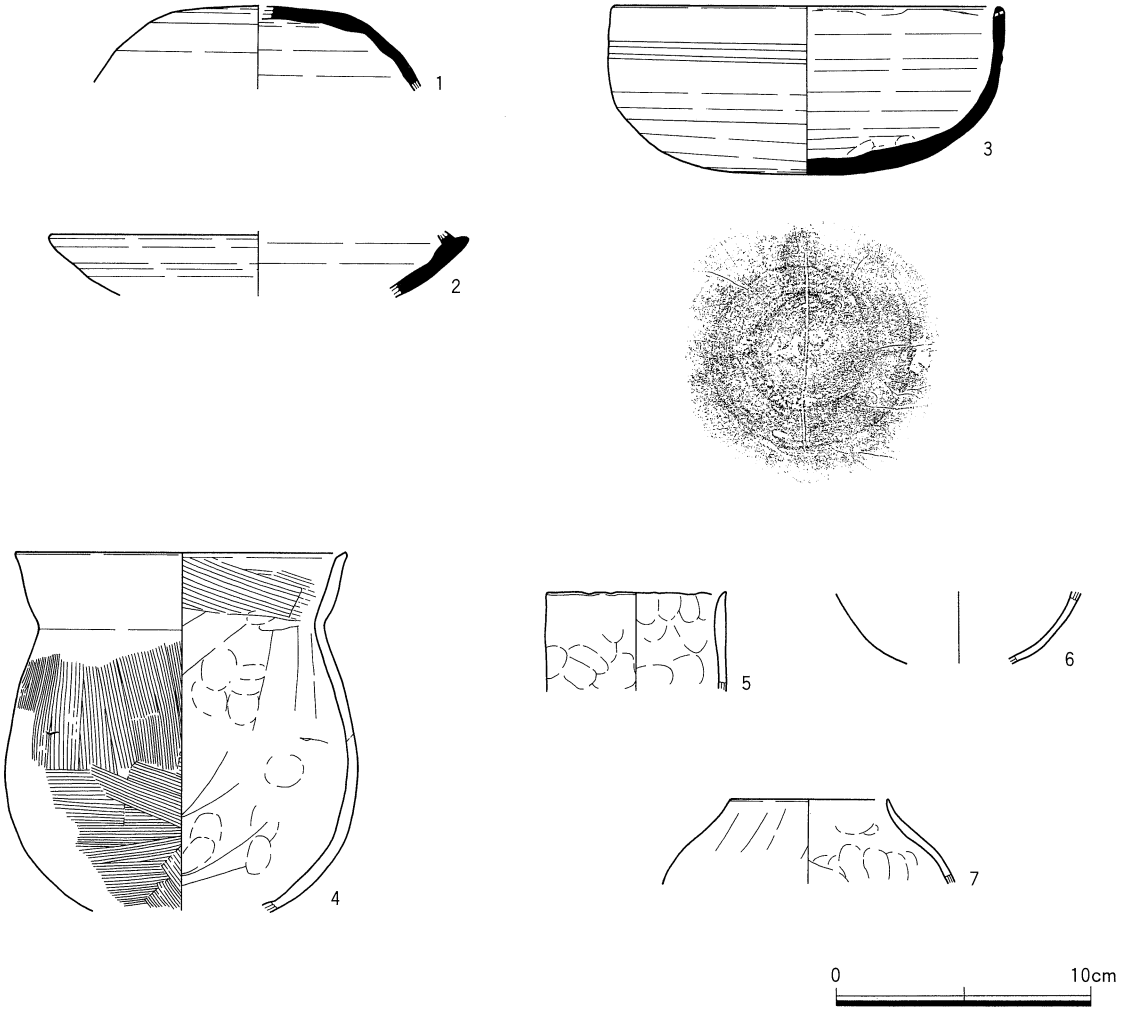


第469図　SB3035 遺物出土状況図

0　2 m



第470図　SB3035・EH1 遺物出土状況図



第471図　SB3035 出土遺物（1）

柱穴　柱数は4本柱と考えられるが、西側の2基が検出された。

竈　北壁のほぼ中央部に1基検出されている。支脚に須恵器の椀を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部内より焼土の集中部、袖口周辺では炭化物の集中部がそれぞれ検出されている。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.06m、短軸0.79m、深度0.23mを測る。

遺物出土状況　竈内を中心として検出されている。

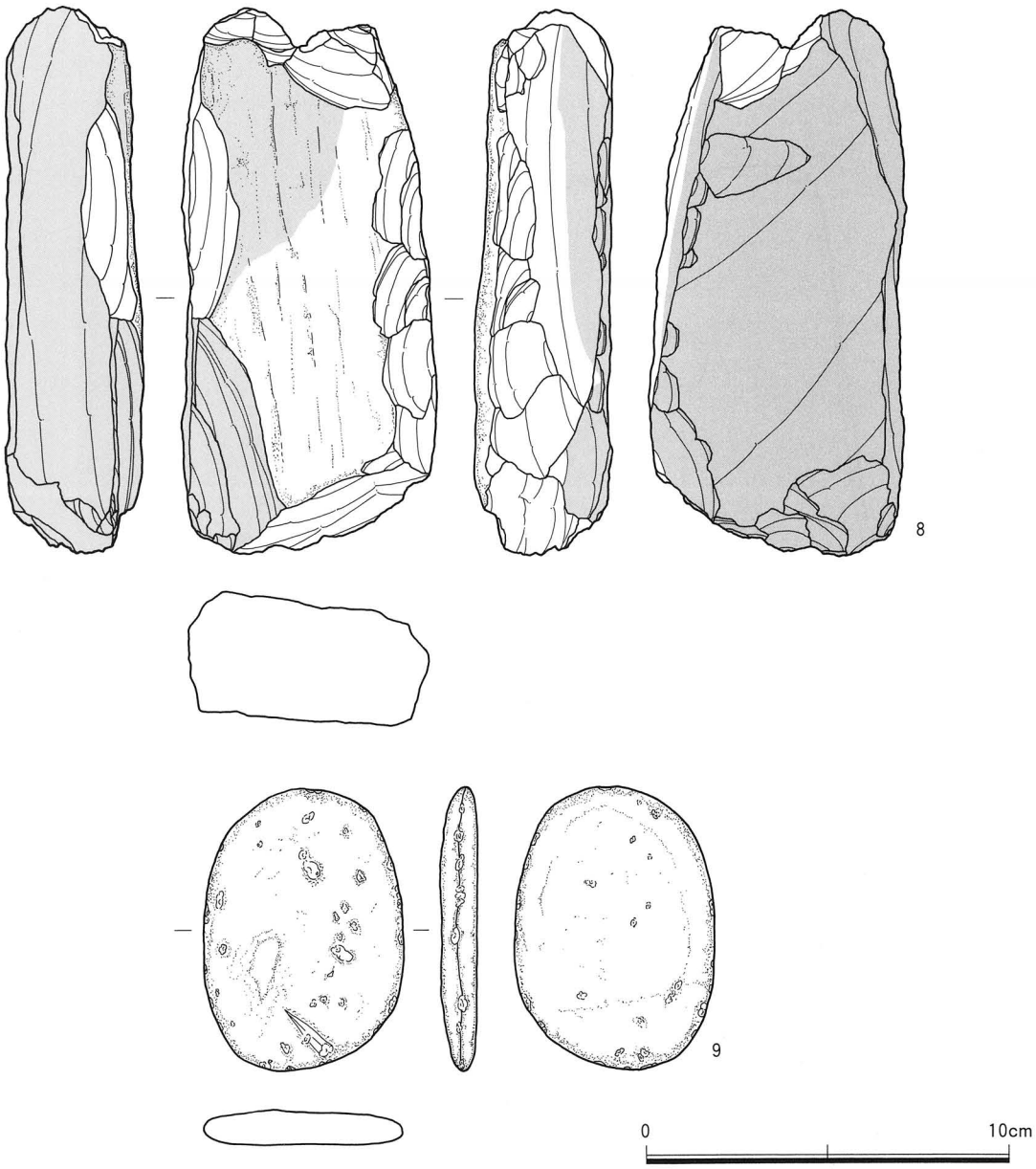
出土遺物　1は須恵器の杯蓋である。2は須恵器の杯身である。3は須恵器の椀である。外面底部にヘラ記号を持つ。4は土師器の甕である。5～7は製塩土器である。8は砂質片岩の剥片で竈の部材である。9は砂岩の敲石である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第1四半期・TK209並行期）と考えられる。

36号竪穴住居跡（SB3036）（第473～476図）

検出場所　2003年度調査3－1区　Loc.G1・βⅢP2・3・Q3グリッド

形態・規模　平面形態は長方形を呈するとみられるが、東側は調査区外に延びている。長軸4.13m（残存値）、短軸4.10m、表面積は約16.9m²（残存値）を測る。残存する深度は0.27mである。



第472図　SB3035 出土遺物（2）

土層　29層に分層される。

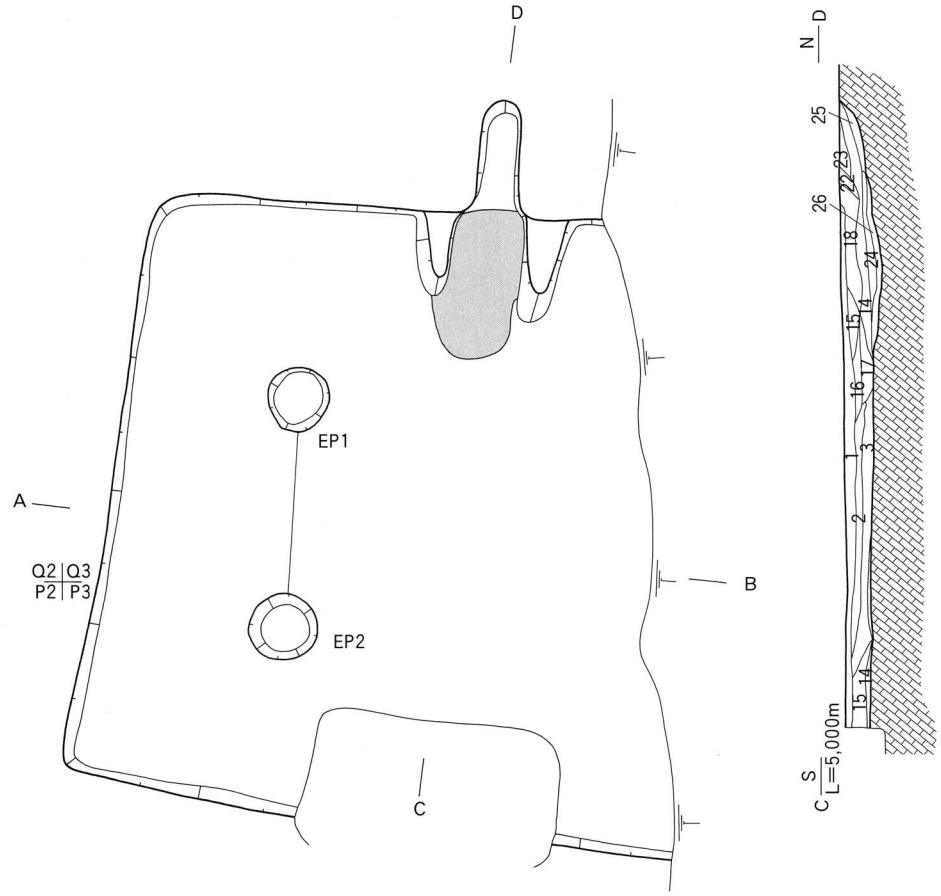
柱穴　柱数は4本柱と考えられるが、西側の2基が検出された。

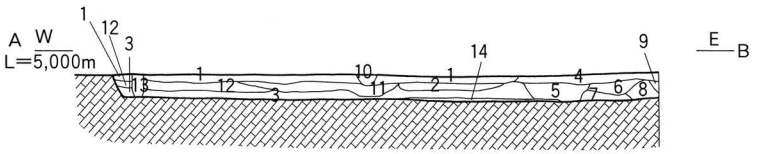
竈　北壁のほぼ中央部に1基検出されている。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部内および袖口周辺より焼土、炭化物の集中部が検出されている。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況　竈内より土師器の甕の破片が出土している。

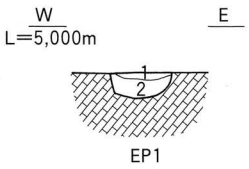
出土遺物　図化できるものはない。

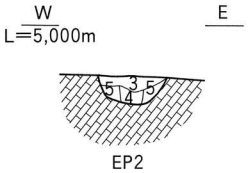
時期　竈の形態などから古墳時代後期と考えられる。





1　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
2　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
4　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
5　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト にぶい黄色（2.5Y 6/4）シルトを含む
6　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
7　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土 マンガンを含む
8　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
9　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
10　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
11　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
12　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト マンガンを含む
13　黄　褐　色（2.5Y 5/3）粘質土
14　オリーブ色（2.5Y 5/4）シルト
15　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
16　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粘質土
17　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト

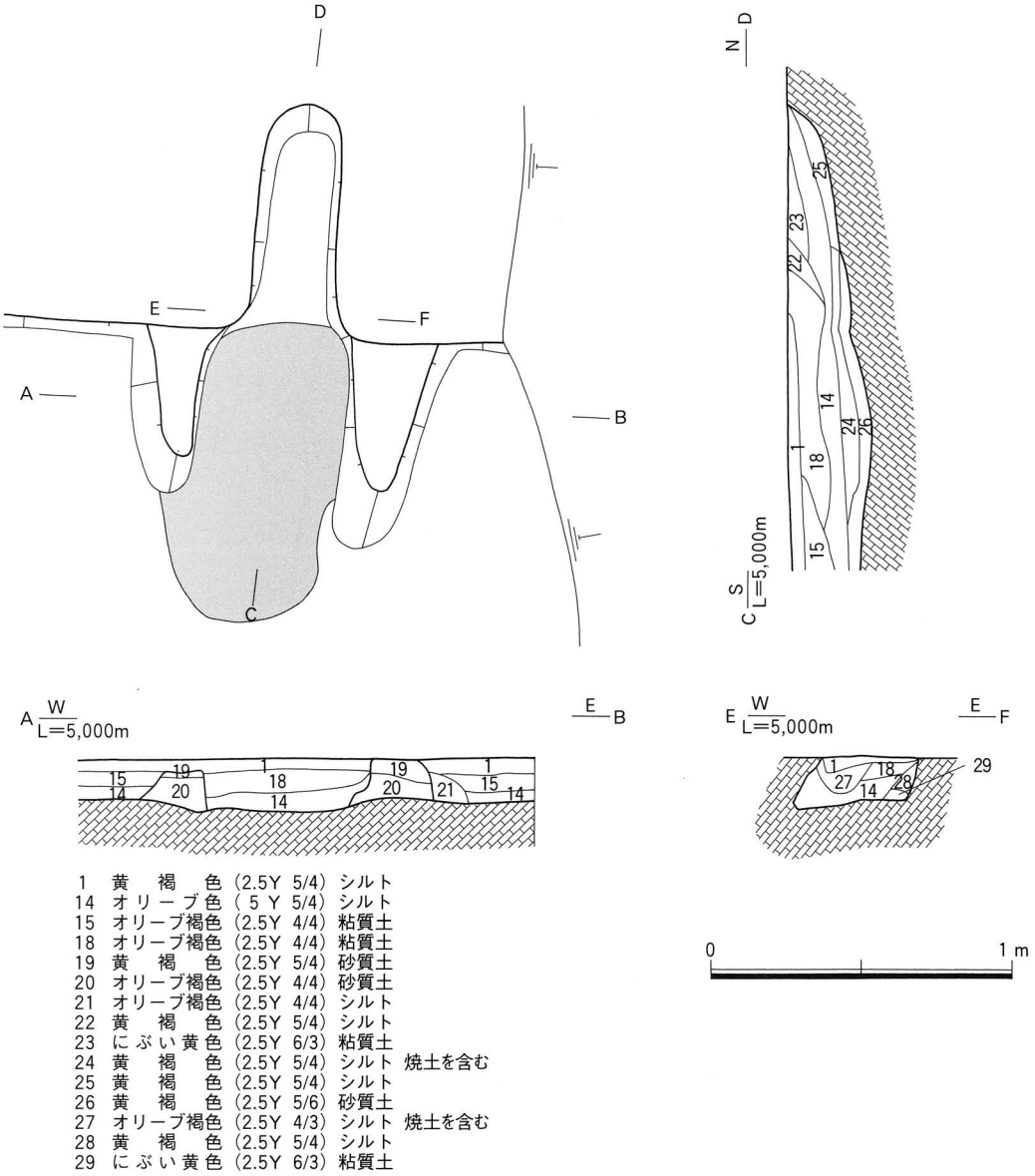




1　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土 マンガンを含む
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土

0　2 m

第473図　SB3036 平断面図



第474図　SB3036・EH1 平断面図

37号竪穴住居跡（SB3037）（第477・478図）

検出場所　2003年度調査３－１区　Loc.G１・βⅢP１・２・Q１・２グリッド

形態・規模　平面形態はほぼ方形を呈し、長軸4.6m、短軸4.43m、表面積は約20.1m²を測る。残存する深度は0.22mである。

土層　11層に分層される。

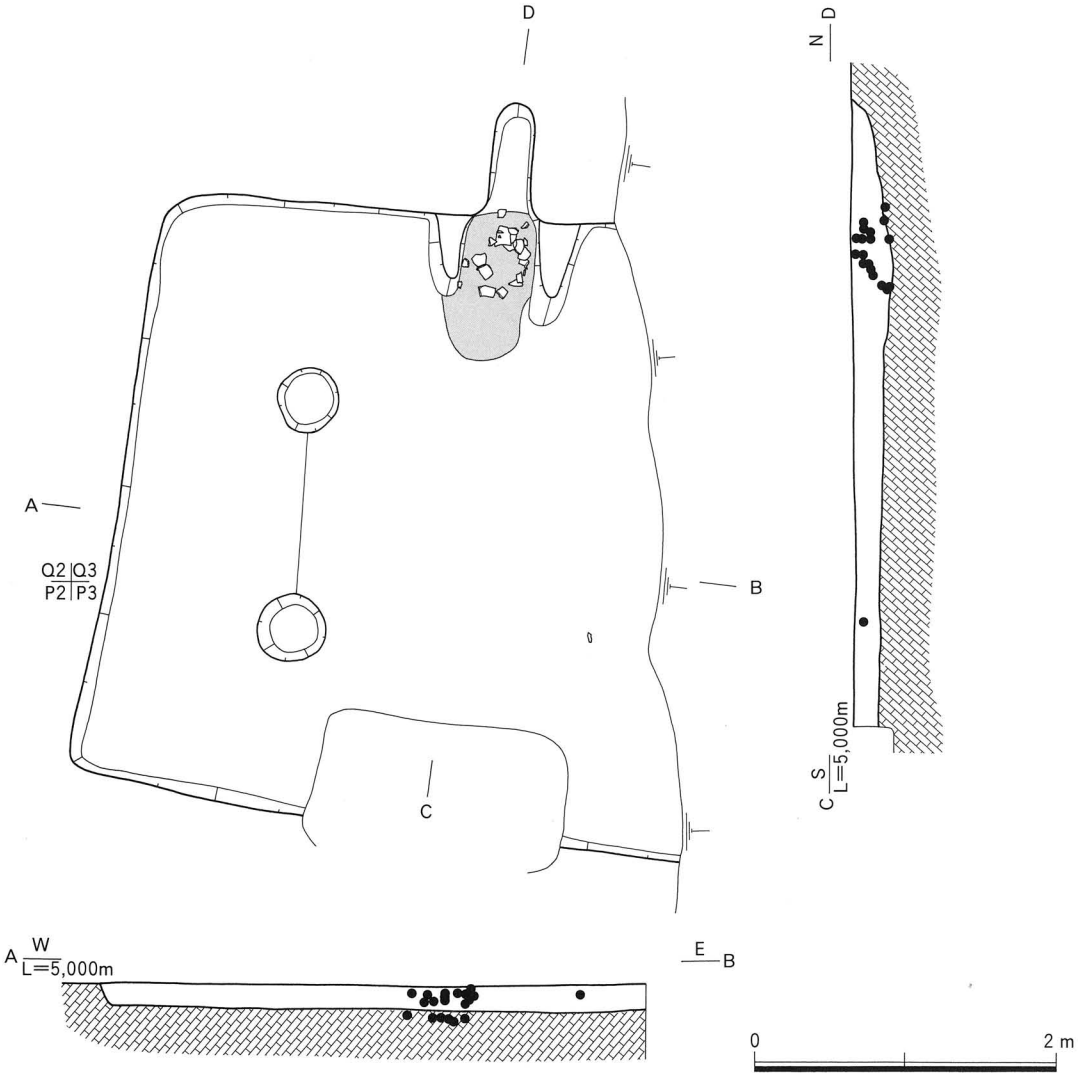
柱穴　柱穴は４基検出されている。

竈　北壁やや東寄りから１基検出された。燃焼部の一部と煙道部分が検出されている。また下部構造は検出されていない。

遺物出土状況　燃焼部より土器片が検出されている。

出土遺物　図化できるものはない。

時期　竈の位置などから古墳時代後期の可能性が高い。



第475図　SB3036 遺物出土状況図

38号竪穴住居跡（SB3038）（第479～484図）

検出場所　2003年度調査３－１区　Loc.G１・βⅡP20・Q20・βⅢP１・Q１グリッド

形態・規模　平面形態は長方形を呈し、長軸5.25m、短軸3.53m、表面積は約18.5m²を測る。残存する深度は0.39mである。

土層　32層に分層される。

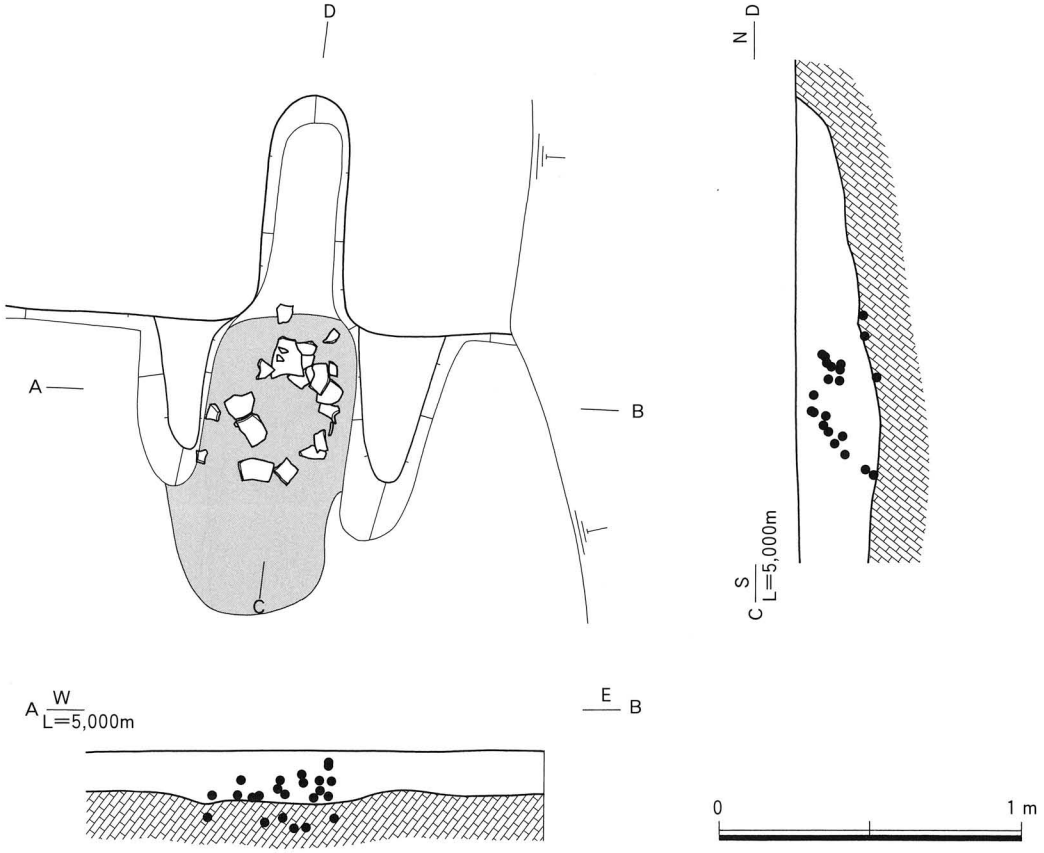
柱穴　柱穴は４基検出されている。

竈　東壁のほぼ中央に１基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。両袖の焚き口部付近には結晶片岩の板石が補強材として用いられている。また下部構造は検出されていない。

遺物出土状況　竈内及びその周辺部を中心として遺物が検出されている。

出土遺物　１は須恵器の杯身である。２～８は土師器の甕である。９、10は砂質片岩の竈の部材である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。



第476図　SB3036・EH1 遺物出土状況図

39号竪穴住居跡（SB3039）（第485～490図）

検出場所　2003年度調査３－１区　Loc.G１・βⅡR20・220・βⅢR１・S１グリッド

形態・規模　平面形態は方形を呈し、長軸5.19m、短軸4.93m、表面積は25.6㎡を測る。残存する深度は0.26mである。

土層　30層に分層される。

柱穴　柱穴は４基検出されている。

竈　北壁のほぼ中央に１基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況　竈内およびその周辺部と南壁近くの床面から遺物か検出されている。

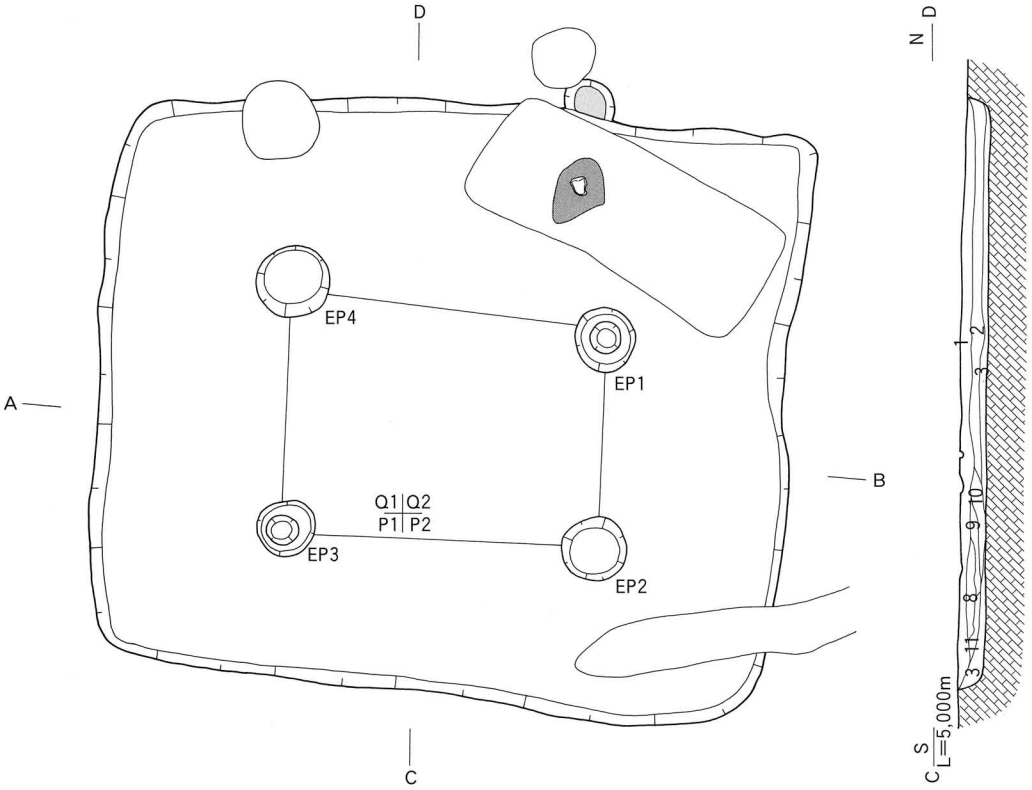
出土遺物　１は須恵器の杯身である。外面底部にヘラ記号を持つ。２は須恵器の高杯である。３は土師器の杯である。４～７は土師器の甕である。８・９は鉄製の鎌と考えられる。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。

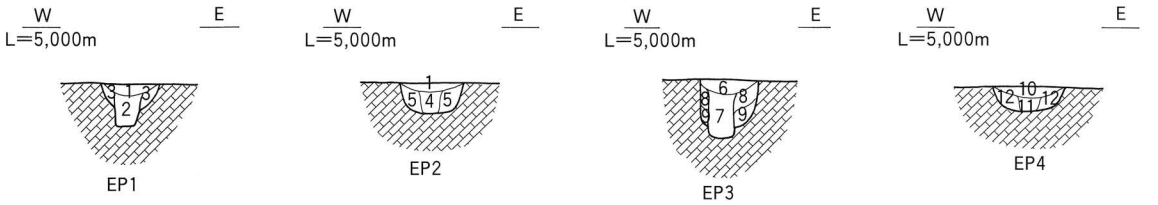
40号竪穴住居跡（SB3040）（第491～495図）

検出場所　2003年度調査３－１区　Loc.G１・βⅢQ２・３・R２・３グリッド

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸4.58m、短軸3.44m、表面積は約15.8㎡を測る。残存する深度は0.39mである。

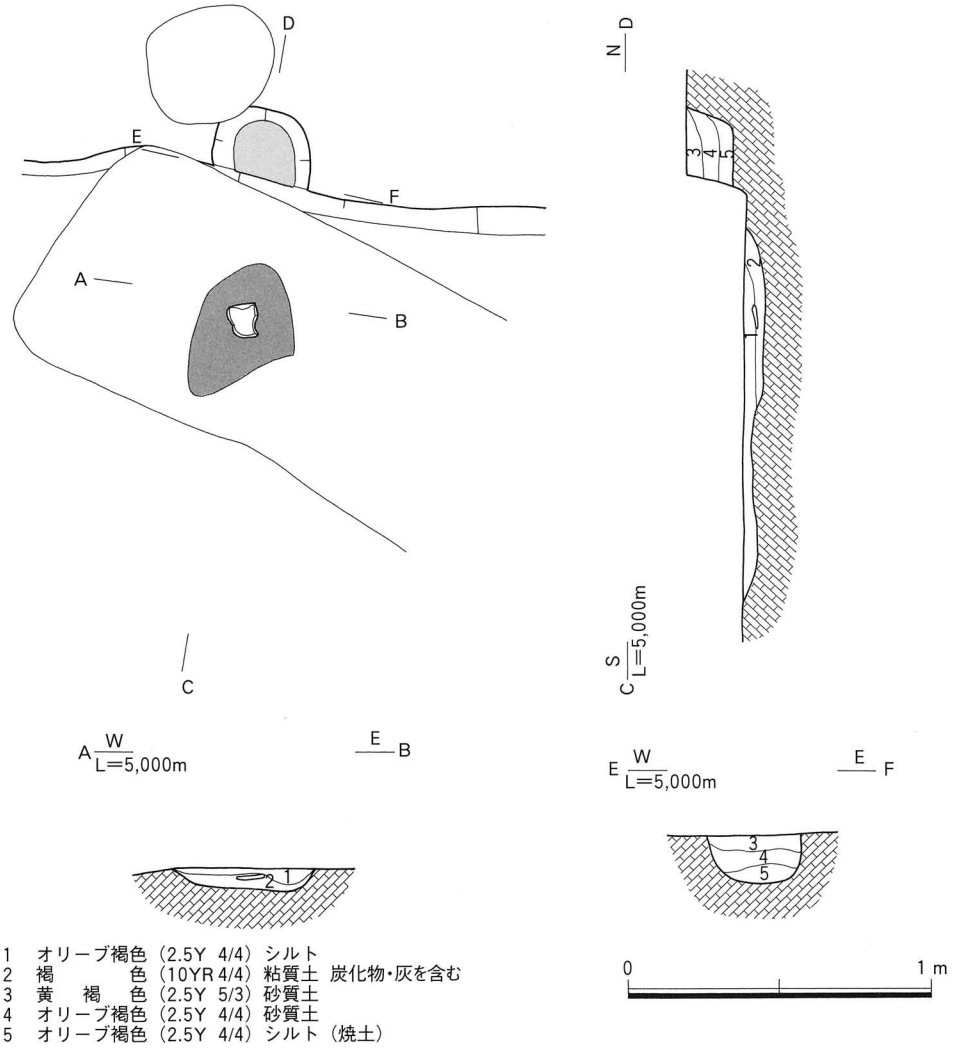


1　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト　マンガン含む
2　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト　マンガン含む
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト　焼土を少量含む
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
5　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト　炭化物をわずかに含む
6　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
7　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
8　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト　マンガン含む
10　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
11　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト



1　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
6　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
7　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
8　にぶい黄色（2.5Y 6/4）砂質土
9　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
10　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
11　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
12　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土

第477図　SB3037 平断面図



第478図　SB3037・EH1 平断面図

土層　40層に分層される。

柱穴　柱穴は４基検出されている。

竈　北壁のやや東寄りから１基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況　竈内およびその周辺部と床面の東寄りから遺物か検出されている。

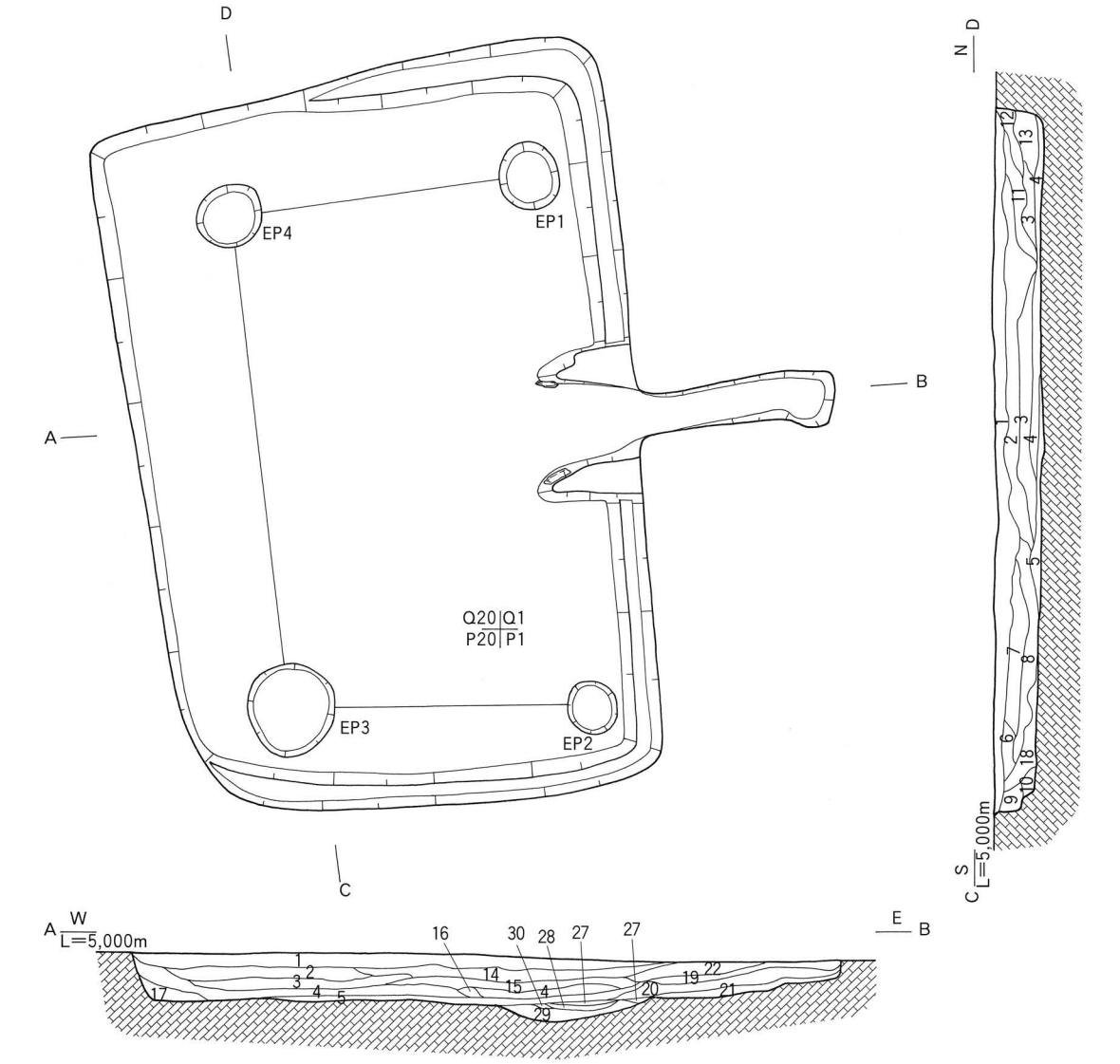
出土遺物　１～３は須恵器の杯身である。４は須恵器の高杯である。５・６は土師器の甕である。７は土師器の甑の把手である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。

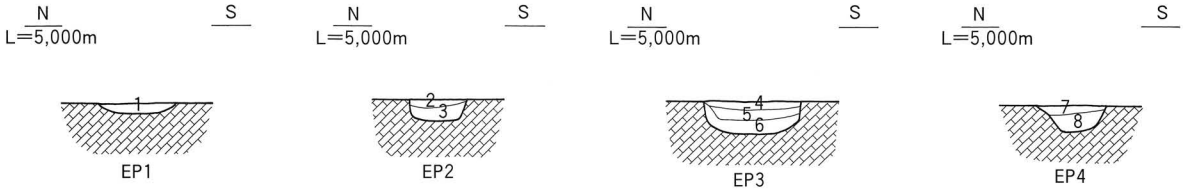
41号竪穴住居跡（SB3041）（第496～501図）

検出場所　1998年度調査８区　Loc.G１・βⅢR３・４・S３・４グリッド

形態・規模　平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、西側が調査区外に延びており、長軸



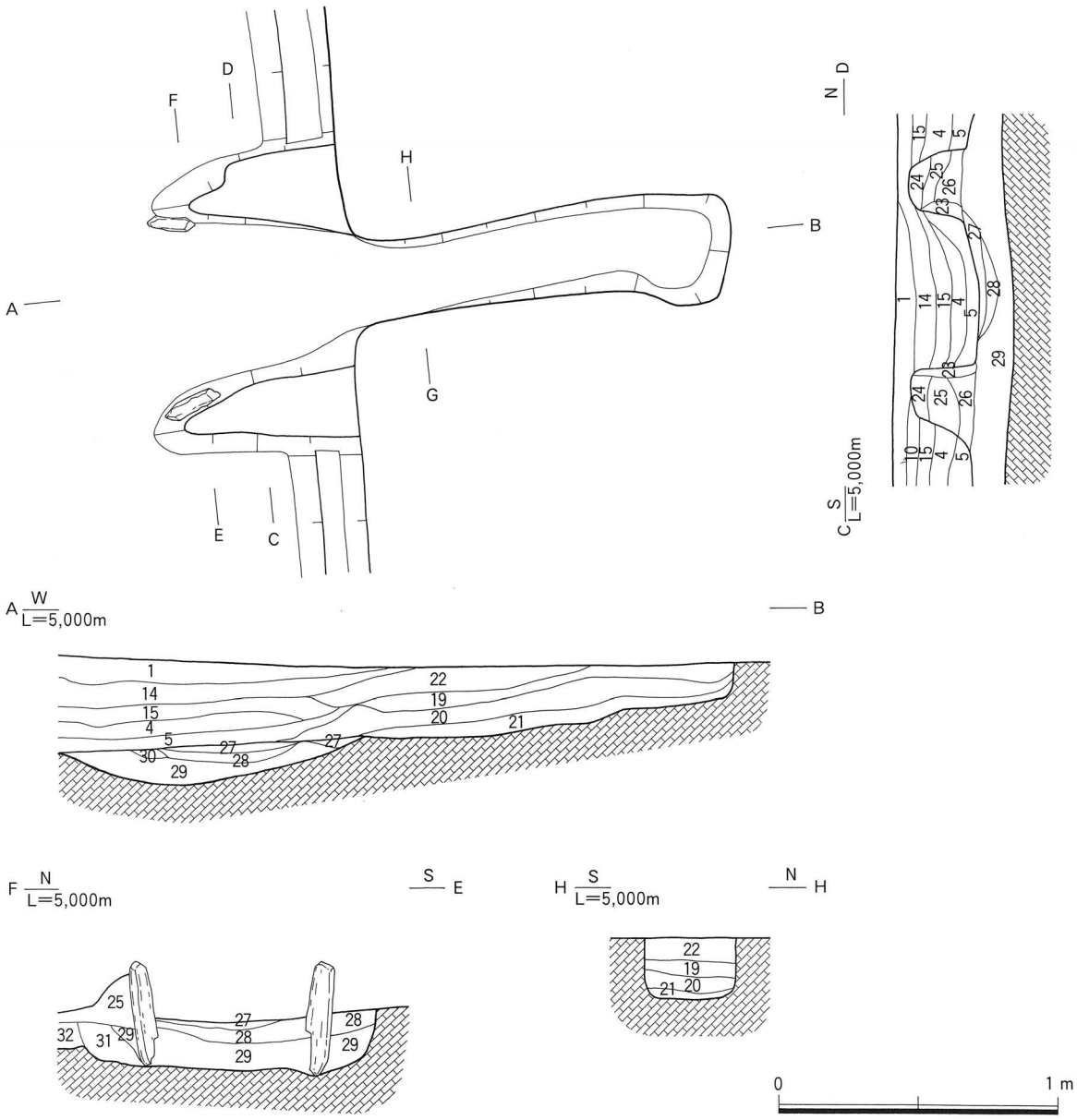
1　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
2　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト　マンガンを含む
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
6　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
7　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト　マンガンを含む
8　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
10　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
11　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
12　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
13　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
14　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト　マンガンを含む
15　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
16　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
17　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
18　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト



1　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
3　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土　炭化物を含む
6　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）砂質土
7　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
8　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト

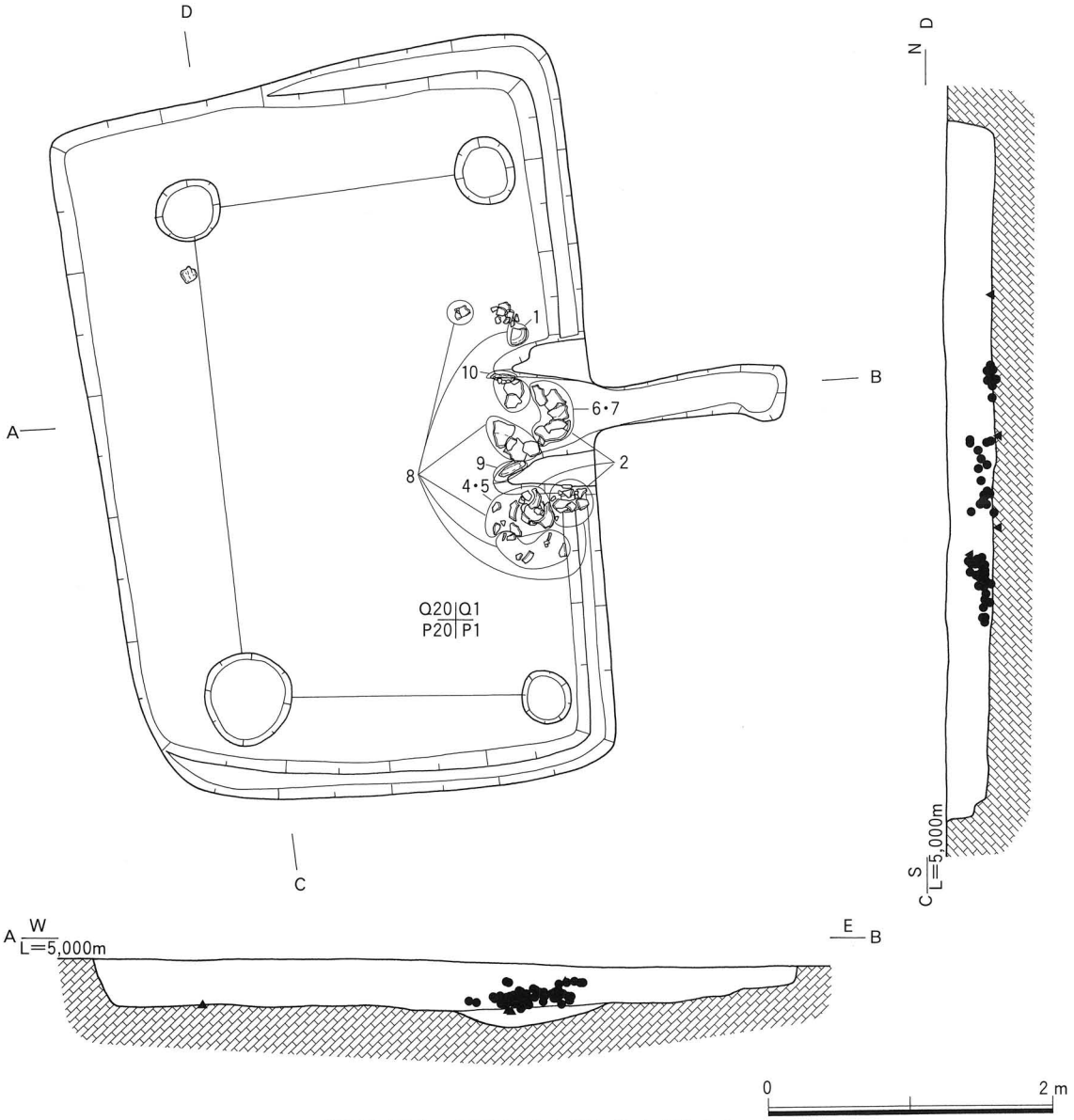
0　2 m

第479図　SB3038 平断面図



1　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト　マンガンを含む
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
14　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト　マンガンを含む
15　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
19　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
20　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
21　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
22　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
23　褐　　色（7.5Y 4/4）砂質土　焼土
24　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
25　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土
26　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘質土
27　褐　　色（7.5YR4/4）砂質土　焼土、炭化物を含む
28　にぶい黄褐色（10YR 5/4）砂質土
29　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粗　砂
30　褐　　色（10YR 4/4）細　砂　焼土を含む
31　黄　褐　色（2.5Y 5/4）砂質土
32　にぶい黄色（2.5Y 6/4）砂質土

第480図　SB3038・EH1 平断面図



第481図　SB3038 遺物出土状況図

4.98m、短軸4.38m（残存値）、表面積は約21.8m²（残存値）を測る。残存する深度は0.47mである。

土層　18層に分層される。床面中央部に硬化した面が拡がっている。

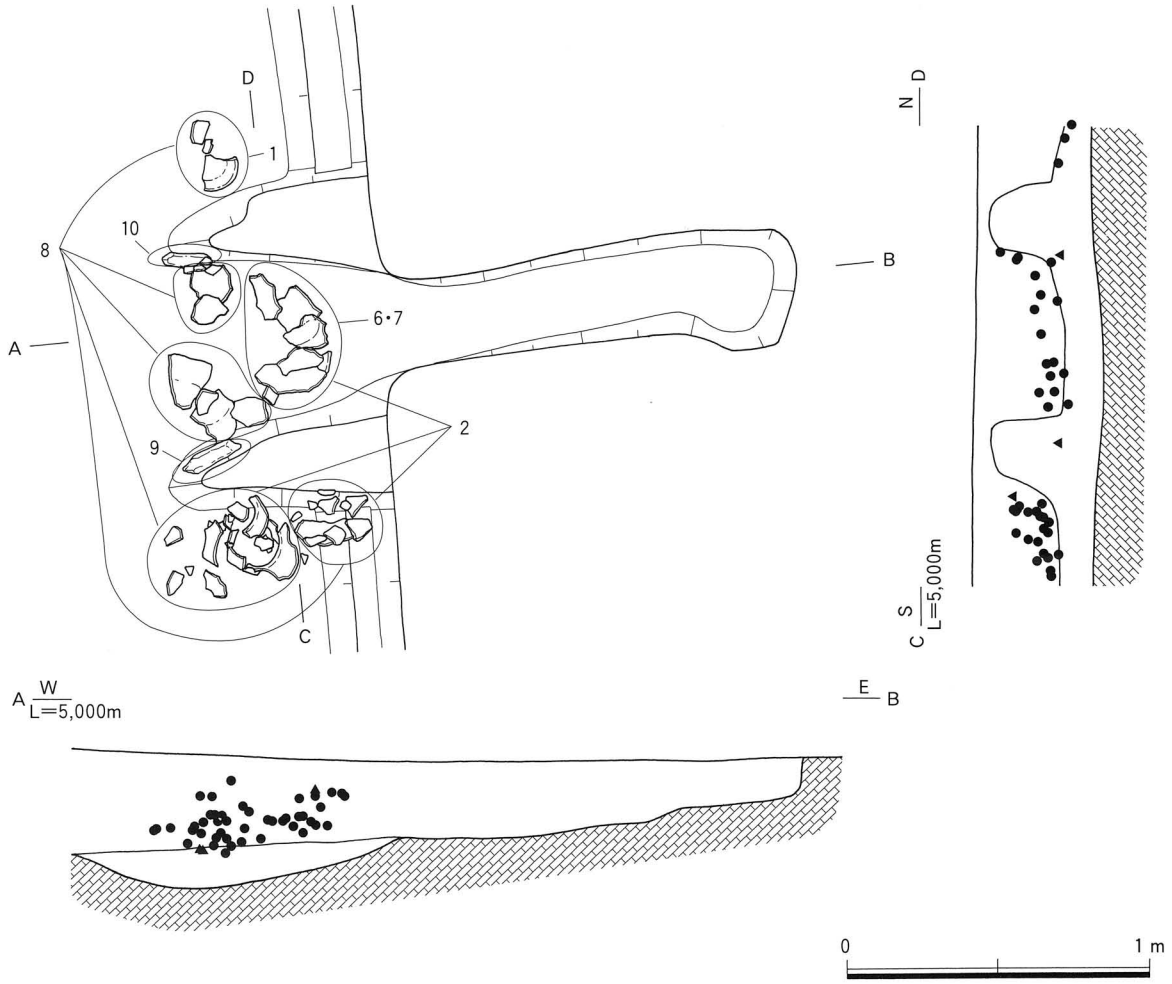
柱穴　柱穴は４基検出されている。

竈　北壁から１基検出された。支脚に須恵器の台付椀を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部には焼土、焚き口部分からは炭化物や灰の層が検出された。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.13m、短軸0.96m、深度0.22mを測る。

遺物出土状況　竈内およびその周辺部と床面のほぼ中央から遺物か検出されている。

出土遺物　１～４は須恵器の杯蓋である。５は須恵器の杯である。６は須恵器の高杯である。７は須恵器の台付椀である。８は土師器の杯である。９・10は土師器の甕である。11は結晶片岩の紡錘車である。表面に鋸歯文が線刻されている。12は砂岩の剥片である。13は棒状の鉄器である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。



第482図　SB3038・EH1 遺物出土状況図

42号竪穴住居跡（SB3042）（第502～507図）

検出場所　1999年度調査５区　Loc.G１・βⅢS４・５・T３・４・５・γⅢA４グリッド

形態・規模　平面形態はほぼ方形を呈し、長軸5.78m、短軸5.35m、表面積は約30.9m²を測る。残存する深度は0.39mである。

土層　22層に分層される。床面中央の北側では硬化した部分が検出されている。

柱穴　柱穴は４基検出されている。

竈　北壁のほぼ中央から１基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部内に焼土の集中部がみとめられる。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.23m、短軸0.78m、深度0.22mを測る。

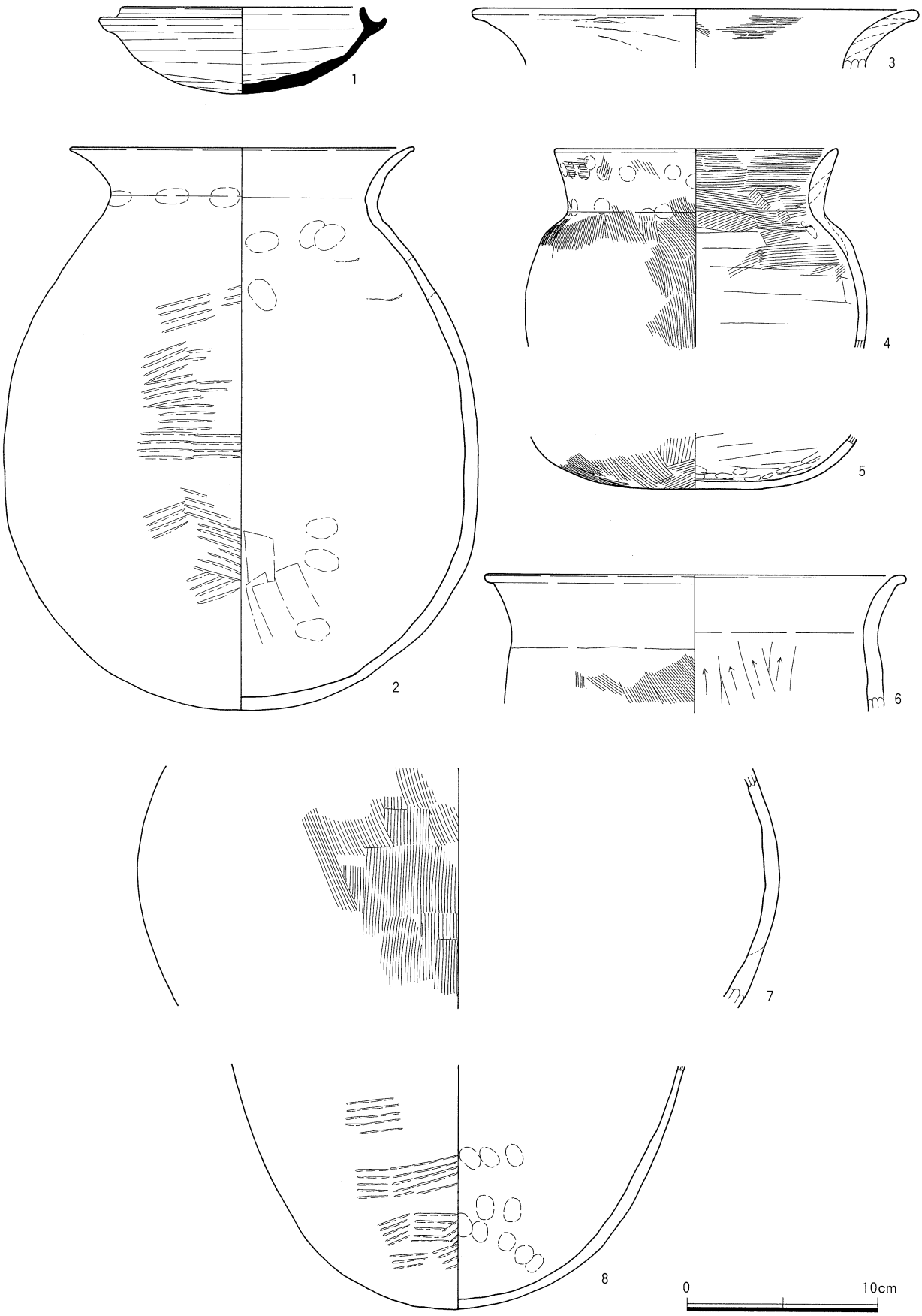
遺物出土状況　竈内およびその周辺部の床面から検出されている。

出土遺物　１は須恵器の高杯である。２～４は土師器の甕である。５は棒状の鉄器である。

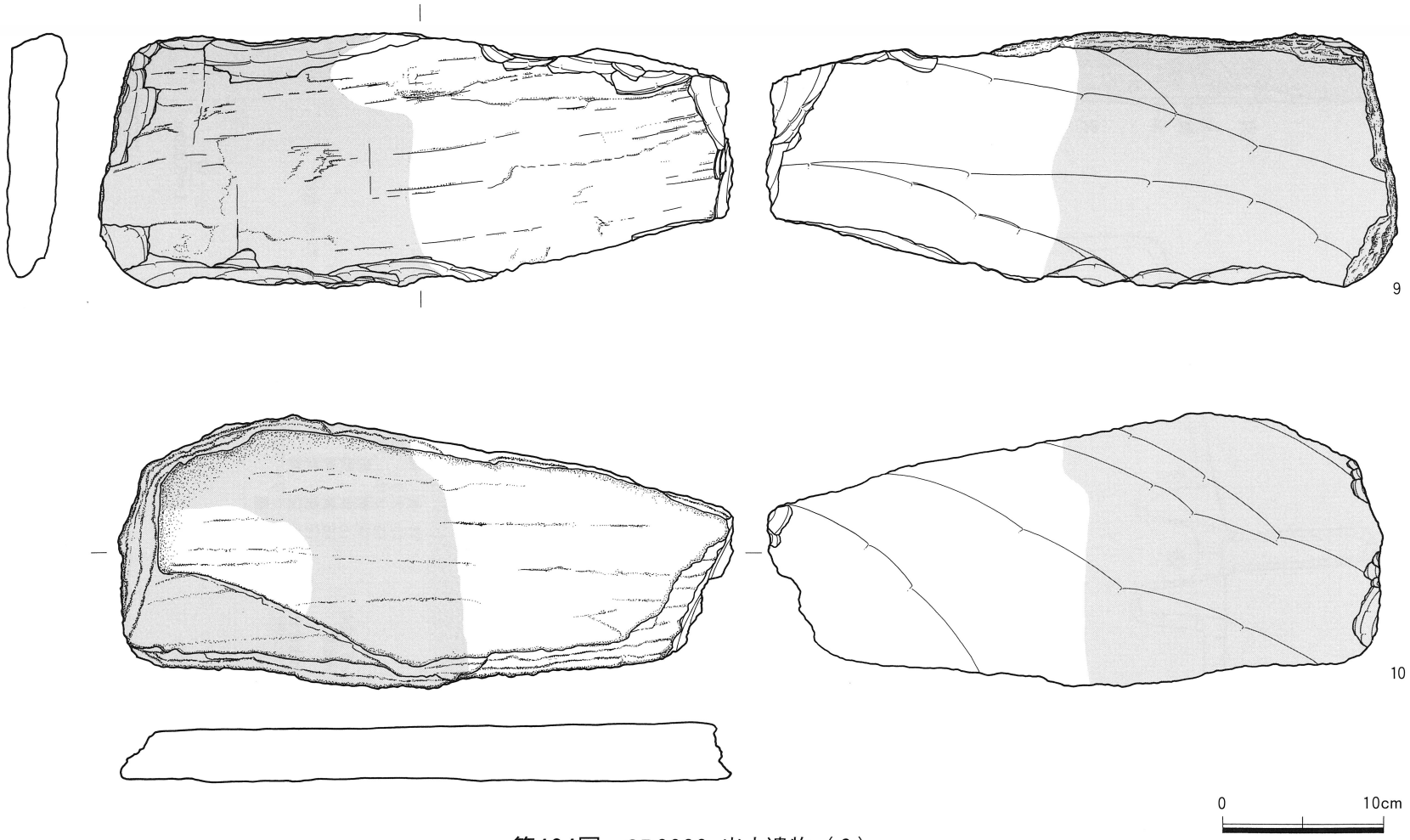
時期　出土した遺物から古墳時代後期（７世紀第２四半期・TK217並行期）と考えられる。

43号竪穴住居跡（SB3043）（第508～514図）

検出場所　2003年度調査３－１区　Loc.G１・βⅢS１・２・T１・２グリッド



第483図　SB3038 出土遺物（1）



第484図　SB3038 出土遺物（2）